京田辺市男女共同参画に関する市民意識調査

報　告　書

平成 22 年 3 月

京田辺市

目　次

Ⅰ　調査の概要 1
1　調査の目的 1
2　調査対象 1
3　調査項目 1
4　調査期間 1
5　調査方法 1
6　回収状況 1
7　調査結果の表示方法 2

Ⅱ　市民意識調査結果のまとめ 3
1　家庭生活について 3
2　仕事について 4
3　地域活動・社会活動について 5
4　配偶者間の暴力について 6
5　男女共同参画施策などについて 7

Ⅲ　市民意識調査結果 8
1　回答者の属性 8
2　家庭生活について 10
3　仕事について 39
4　地域活動・社会活動について 49
5　配偶者間の暴力について 61
6　男女共同参画施策などについて 66
7　自由記述 85

参考資料
京田辺市男女共同参画に関する市民意識調査票 86

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

第２次京田辺市男女共同参画計画の策定にあたって、より広範な市民の意見を反映させるため、京田辺市民を対象に意識調査を実施した。具体的には、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、計画の基礎資料とするとともに、施策の検討にも活用する。

２　調査対象

市内在住の 20 歳以上の男女各 1,000 人の方を無作為に抽出した。

３　調査項目

・家庭生活について
・仕事について
・地域活動・社会活動について
・配偶者間の暴力について
・男女共同参画施策などについて

４　調査期間

平成 22 年 2 月 1 日から平成 22 年 2 月 12 日

５　調査方法

郵送による配布・回収

６　回収状況

配　付　数	有効回収数	有効回収率
2,000 通	1,105 通	55.3%

7　調査結果の表示方法

・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してある。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合がある。
・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合がある。
・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。
・調査結果を図表にて表示しているが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを　で網かけをしている。（無回答を除く）

Ⅱ　市民意識調査結果のまとめ

１　家庭生活について

（１）結婚・家庭生活についての考え方

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいという考え方については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合を上回っている。また、男性よりも女性で肯定する人の割合が高く、女性の 20～40 歳代では 8 割を超えている。

平成 17 年度の京田辺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査（以下、前回調査）と比較すると、肯定する人の割合は 6.4 ポイント増加しているものの、平成 21 年度の内閣府『男女共同参画社会に関する世論調査』（以下、全国世論調査）に比べ 6.1 ポイント低くなっている。

②夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい

夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよいという考え方については、否定する人の割合が、肯定する人の割合をわずかに上回っている。また、女性よりも男性で肯定する人の割合が高く、男性の 60 歳以上では 5 割を超えており、男性や高い年代で固定的な役割分担意識が強いことがうかがえる。しかし、前回調査との比較では、肯定する人の割合が 5.4 ポイント増加しているものの、「そうは思わない」の割合で 22.0 ポイントの増加がみられ、固定的な役割分担意識は根強く残っているものの、改善に向かっていることもうかがえる。

また、全国世論調査と比較すると、京田辺市は「そうは思わない」の割合が 9.1 ポイント高い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方を肯定する理由については、「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が全体の 7 割を占め、男性の 40 歳代では 8 割を超えている。また、女性よりも男性で「役割分担をした方が効率がよいと思うから」の割合が高くなっている。

平成 21 年度の内閣府『男女のライフスタイルに関する意識調査』（以下、全国ライフスタイル調査）と比較すると、京田辺市は「日本の伝統・美徳だと思うから」の割合が 5.4 ポイント、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」の割合が 27.4 ポイント低い。また、「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が 8.0 ポイント高い。

否定する理由については、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」の割合が約 6 割と最も高く、男性よりも女性で高くなっている。

次いで「一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから」の割合が全体の 4 割以上を占めているが、男性の 20 歳代で 7 割を超えている。また、「女性が家庭のみでしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから」の割合が全体の約 4 割を占めているが、男性の 60 歳代で 6 割を超えている。

全国ライフスタイル調査と比較すると、京田辺市は全ての選択肢において割合が低く、特に「女性が家庭のみでしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから」の割合で 10.1 ポイントの差がみられる。

（２）家庭生活での役割分担

現状の家庭生活での役割分担は、すべての項目において「妻」が分担している割合が 7 割以上を占めており、特に『食事のしたく』では 9 割と高く、多くの女性が家庭生活での役割を担っている現状がうかがえる。

しかし、掃除、食後の後片付け、食器洗い、洗濯、日常の買い物では、他の勤務形態の家庭に比べ、夫も妻もフルタイムで働く家庭で「夫と妻で同程度」の割合が高く、男女が協力し合う傾向にあることから、家庭での役割分担は働き方や生活環境によって左右されることがうかがえる。

理想の家庭生活での役割分担は、『掃除』、『食事の後片付け』、『食器洗い』、『日常の買い物』では「夫と妻で同程度」の割合が 5 割以上と高い。また、『食事のしたく』、『洗濯』では「妻」の割合が 5 割以上と高くなっている。

また、家庭における夫婦の役割分担については、すべての項目において、理想は「夫と妻で同程度」と考える人が多く、現状と理想で 20 ポイント以上の差がみられる。特に『掃除』、『食事の後片付け、食器洗い』では 30 ポイント以上の開きがあり、現実と理想の間で大きな差がみられる。

２　仕事について

（１）女性の就労についての考え方

女性が職業をもつことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が全体の約 4 割を占め、男性の 50 歳代、女性の 60 歳代では 5 割を超えている。また、『夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい』という考え方を肯定する人で「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の割合が高くなっている。

全国世論調査と比較すると、京田辺市は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合は 11.4 ポイント高くなっている。

（２）共働きの状況について

勤務形態については、「夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦」の割合が 3 割以上と最も高く、次いで「夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く」の割合が約 3 割、「夫も妻もフルタイムで働く」の割合が 1 割以上となっている。

また、男性の 40 歳代、50 歳代で「夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く」の割合が高くなっている。

（３）職場での制度の取得しやすさについて

各種制度の取得しやすさについては、有給休暇制度は「とりやすい」の割合が約 5 割を占めている。育児休業制度についても「とりやすい」の割合が「とりにくい」の割合をわずかに上回っている。

有給休暇制度を除き、女性よりも男性で「とりにくい」の割合が高い。また、年代でみると、どの制度も 30～40 歳代で「とりにくい」の割合が高い傾向にあるほか、正社員・正職員で「とりにくい」の割合が高くなっている。

（４）男女がともに仕事を続けるために必要なこと

結婚や出産、子育て、介護等をしなければならなくなったときにも男女がともに仕事を続けられるために必要なことについては、「介護制度の充実」の割合が 5 割以上と最も高く、次いで「保育制度の充実」、「職場での育児休業、介護休業制度（病気の看護・介護など）の充実」の割合が約 4 割となっている。

男性の 50 歳代、70 歳以上では「介護制度の充実」の割合が 7 割を超えている。また、男女ともに 20 歳代、30 歳代で「職場の上司や同僚の理解と協力」の割合が、女性の 50 歳代、60 歳代、70 歳以上で「家族の理解と協力」の割合が高くなっている。

３　地域活動・社会活動について

（１）地域活動・社会活動への参加状況

現在参加している活動については、「区・自治会などの活動」、「趣味やスポーツサークルなどのグループ活動」の割合が 2 割以上となっている。また、女性の 30 歳代、40 歳代では「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が高くなっている。しかし、「特にない」と回答した人は全体の約 5 割を占めており、特に 20 歳代で高く、7 割を超えている。

そのうち、主に参加している活動については、「趣味やスポーツサークルなどのグループ活動」の割合が 3 割以上と最も高く、女性の 20 歳代、60 歳代で 5 割を超えている。

次いで「区・自治会などの活動」の割合が約 3 割となっており、男性の 40 歳代の 5 割が参加している状況にある。さらに、「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が 1 割以上となっているが、女性の 30 歳代、40 歳代に参加している人が多い状況である。

（２）地域活動・社会活動のリーダーや重要な意思決定に係わる役員の現状

主に参加している地域活動・社会活動のリーダーや重要な意思決定に係わる役員の現状については、全体では「男性であることが多い」の割合が最も高く、次いで「女性であることが多い」、「男性、女性がほぼ同数である」と続くが、区・自治会などの活動、その他の活動では「男性であることが多い」の割合が高くなっている。また、ＰＴＡ、子ども会などの活動は「女性であることが多い」の割合が高く、約 8 割となっている。

リーダーや重要な意思決定に係わる役員に男性又は女性であることが多いと思う理由については、全体では「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が最も高く、次いで「男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから」、「男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから」と続いている。リーダーや役員が男性であることが多い地域活動・社会活動では「男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから」、「男性（又は女性）の方が会議などの進め方が慣れていて上手だから」の割合が高い。また、女性であることが多い地域活動・社会活動では「男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから」、「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が高い。

（３）女性がリーダーや重要な意思決定に係わる役員になることについて

地域活動において「女性もリーダーや重要な意思決定に係わる役員になって、方針を決める場に積極的に参加していくべきだ」という意見については、肯定する人の割合が約７割、否定する人の割合が約１割となっており、肯定する人が否定する人を大きく上回っている。

また、女性よりも男性で肯定する人の割合が高くなっている。

参加している地域活動・社会活動別でみると、区・自治会などの活動、ＰＴＡ、子ども会などの活動で肯定する人の割合が低くなっている。

肯定する人が、地域活動への女性の参画を進めるために必要だと考えることについては、「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間帯を工夫する」の割合が３割以上と最も高く、次いで「育児や介護をするための施設を充実させる」、「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を行う」と続いているが、男性では「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を行う」の割合が、女性では「育児や介護をするための施設を充実させる」の割合が高くなっている。

４　配偶者間の暴力について

（１）配偶者間の暴力を身近に見たり、聞いたりした経験

配偶者間の暴力を身近に見たり、聞いたりしたことについては、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が約６割と最も高く、次いで「見聞きしたことはない」、「身近に当事者がいた（いる）」と続いている。

また、「身近に当事者がいた（いる）」の割合は男性に比べ女性で高く、特に女性の 30～50 歳代で高くなっている。

（２）配偶者間の暴力を受けた経験

配偶者からの暴力を受けたことについては、「受けたことがある」の割合が１割未満、「受けたことがない」の割合が８割以上となっているものの、女性の 20 歳代、50 歳以上では「受けたことがある」の割合が高くなっている。

配偶者からの暴力を受けたとき、「相談した」人の割合は３割以上となっており、相談した先は、「親、兄弟姉妹、親戚」の割合が約８割と最も高く、次いで「友人、知人」の割合が２割以上、「警察・弁護士・家庭裁判所」の割合が約１割となっている。

また、「相談しようとは思わなかった」人の割合は３割以上、「相談したかったが、相談しなかった」人の割合は２割以上となっており、その理由については、「相談しても無駄だと思ったから」の割合が４割以上と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」と続いている。

５　男女共同参画施策などについて

（１）さまざまな分野における男女の地位について

さまざまな分野における男女の地位については、学校教育は男女の平等感が高いものの、その他の分野では男女の不平等感が高く、特に職場、政治や行政の政策・方針決定の場、社会通念、慣習、しきたりでは、男性が優遇されていると感じている人が 6 割以上を占めている。

全国世論調査と比較すると、京田辺市は職場、家庭生活、法律・制度、社会通念、慣習、しきたりで「平等」の割合が全国を下回っている。また、社会通念、慣習、しきたりについては、「男性が優遇されている」の割合が 5.7 ポイント高くなっている。

（２）男女共同参画社会を形成していくために、市が優先的に進めるべきこと

男女共同参画社会を形成していくために、市が優先的に進めるべきだと思うことについては、「男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実」の割合が約 7 割と最も高く、次いで「女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援」、「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」と続いている。

また、女性の 30 歳代では「男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実」の割合が高く、約 8 割となっている。そのほか、男性の 20 歳代、女性の 20 歳代、30 歳代で「女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援」の割合が、男性の 60 歳以上で「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」の割合が高くなっている。

（３）京田辺市女性交流支援ルーム『ポケット』について

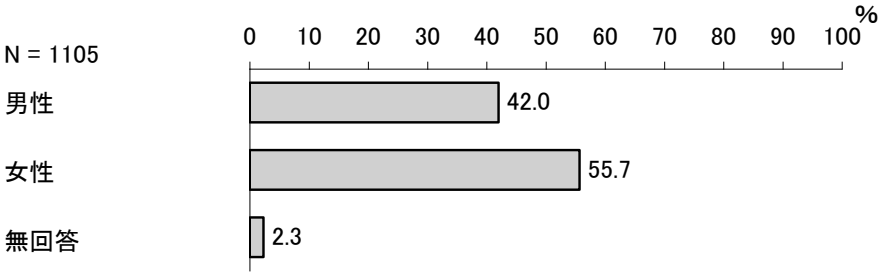
京田辺市女性交流支援ルーム『ポケット』を「知っている」人の割合は約 2 割となっており、そのうち、「利用したことがある」人の割合は 1 割未満となっている。

京田辺市女性交流支援ルーム『ポケット』での事業に、今後期待するものについては、「相談事業（家庭や仕事などの悩み、法律問題など）」の割合が最も高く、次いで「女性の再就職や起業のためのチャレンジ支援に関すること」、「男女共同参画に関する情報提供」と続いている。

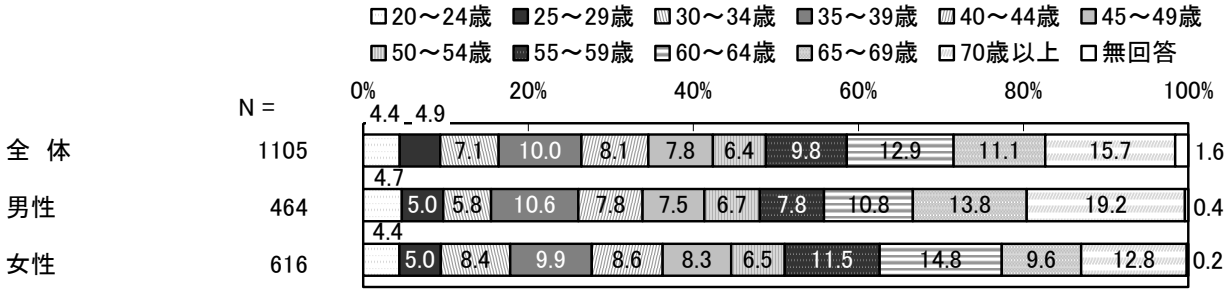
Ⅲ　市民意識調査結果

１　回答者の属性

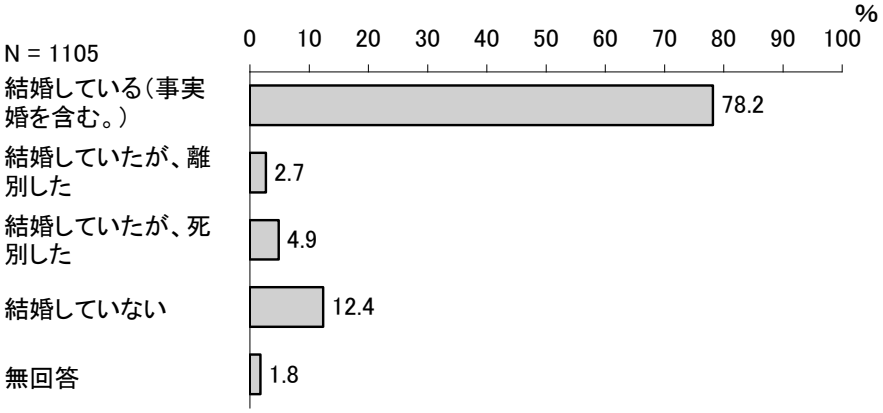
（１）性別



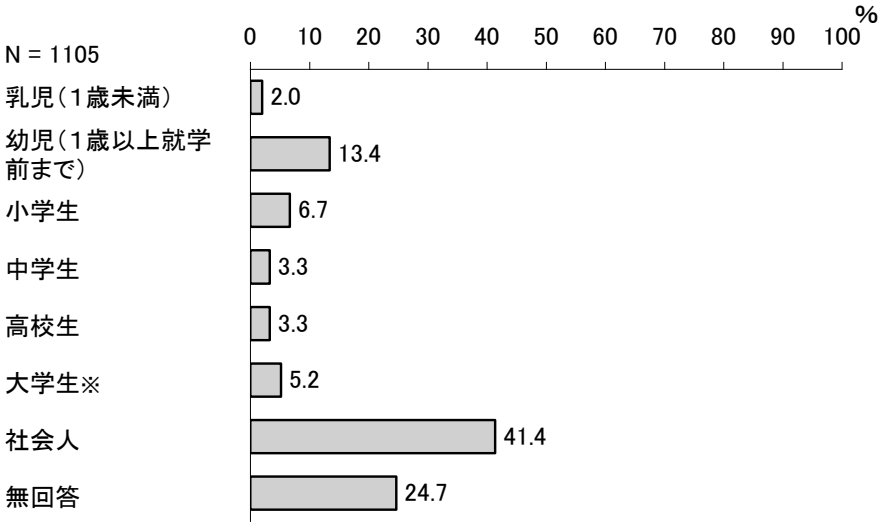
（２）年齢



（３）結婚の有無

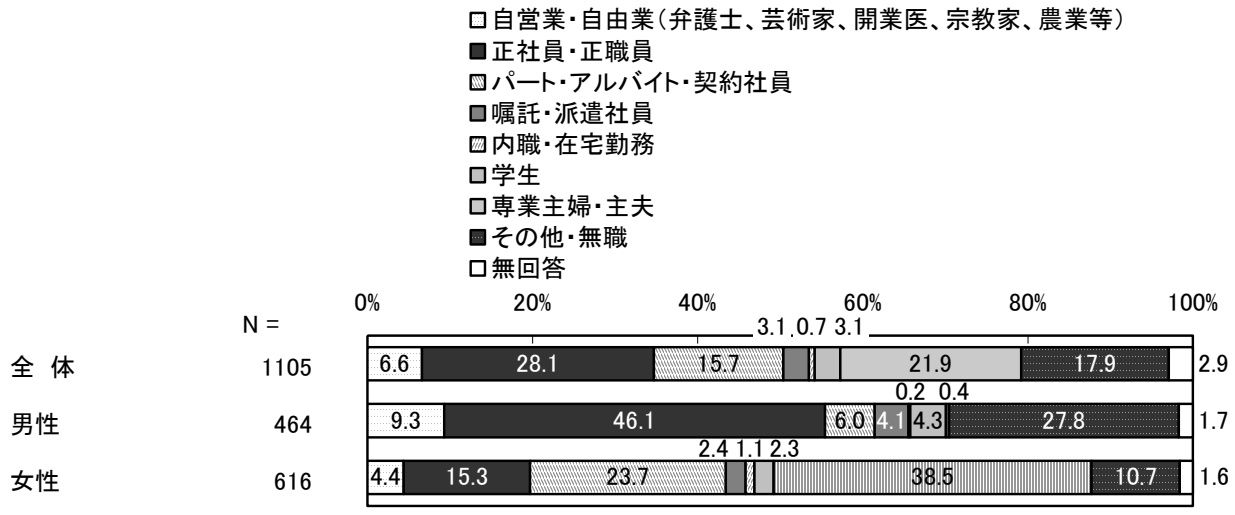


（４）末子の年齢



※「大学生」には、大学院生や専門学校生などを含む

（５）職業



2　家庭生活について

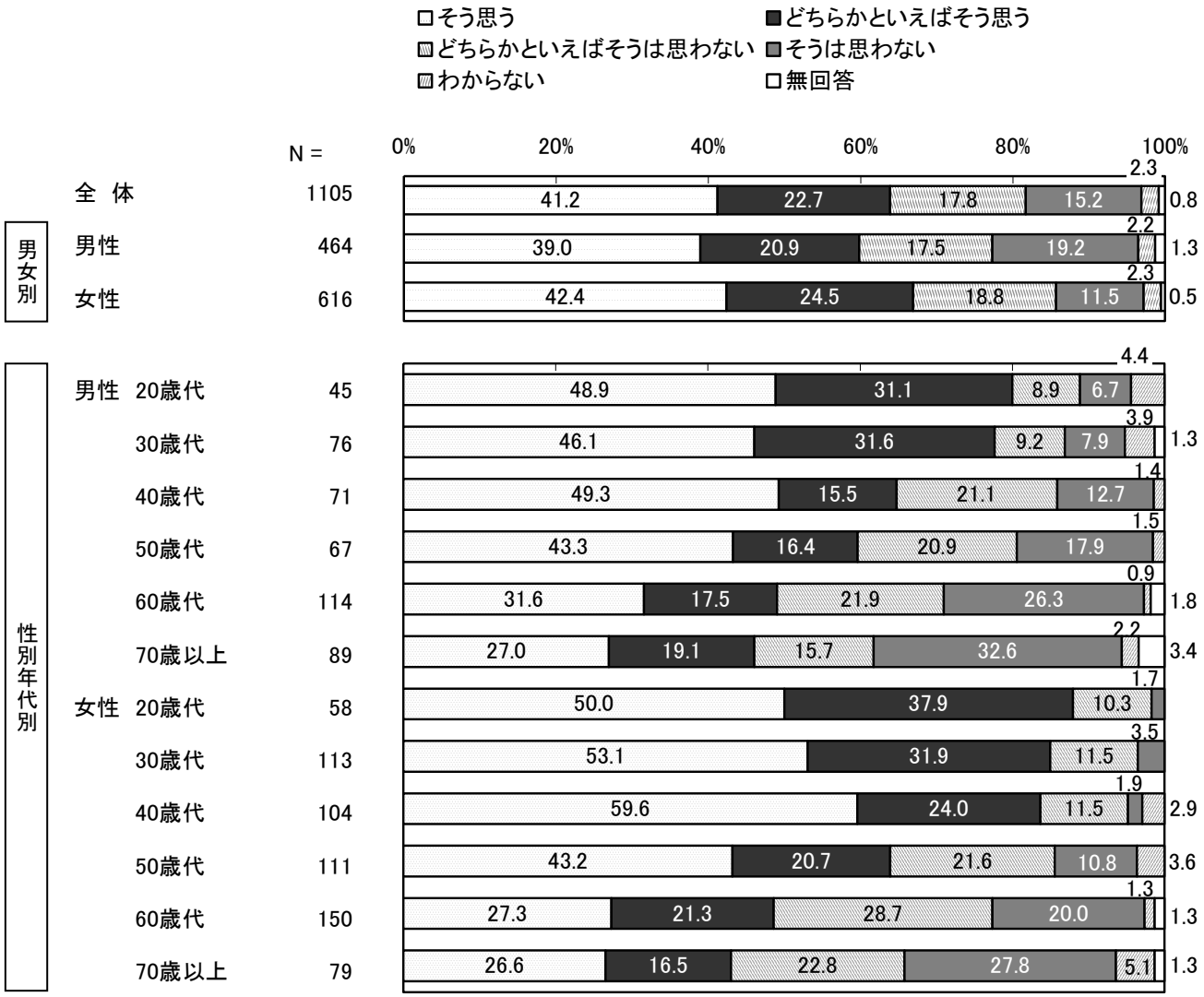
問１【全員の方に】次のような考え方について、どう思われますか。（それぞれ１つ選択）

①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいという考え方については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 63.9%となっている。また、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合が 33.0%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高くなっている。

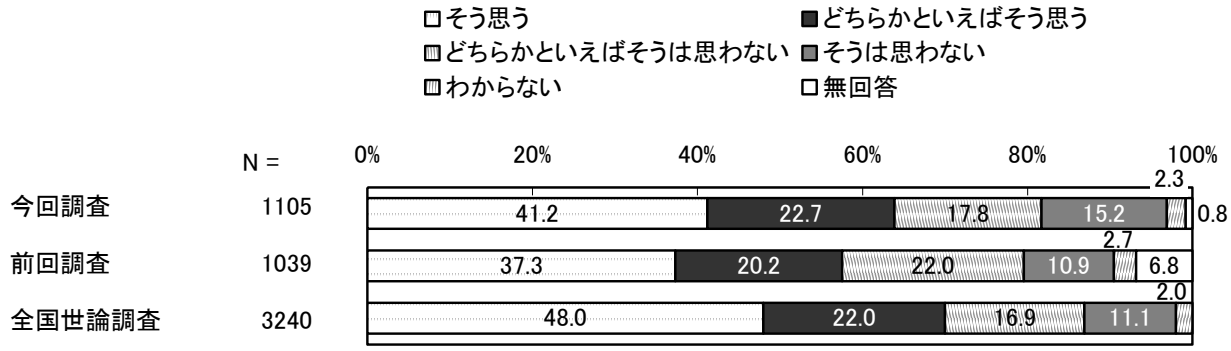
性別年代別でみると、男性で年齢が高くなるにしたがい「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合が高くなる傾向にある。他に比べ女性の 20 歳代、30 歳代、40 歳代で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高く、8 割を超えている。



【平成 17 年度調査・全国世論調査との比較】

平成 17 年度京田辺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査（以下、前回調査）と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 6.4 ポイント増加している。

平成 21 年度の内閣府『男女共同参画社会に関する世論調査』（以下、全国世論調査）と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 6.1 ポイント低くなっている。



※前回調査：平成 17 年度京田辺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査

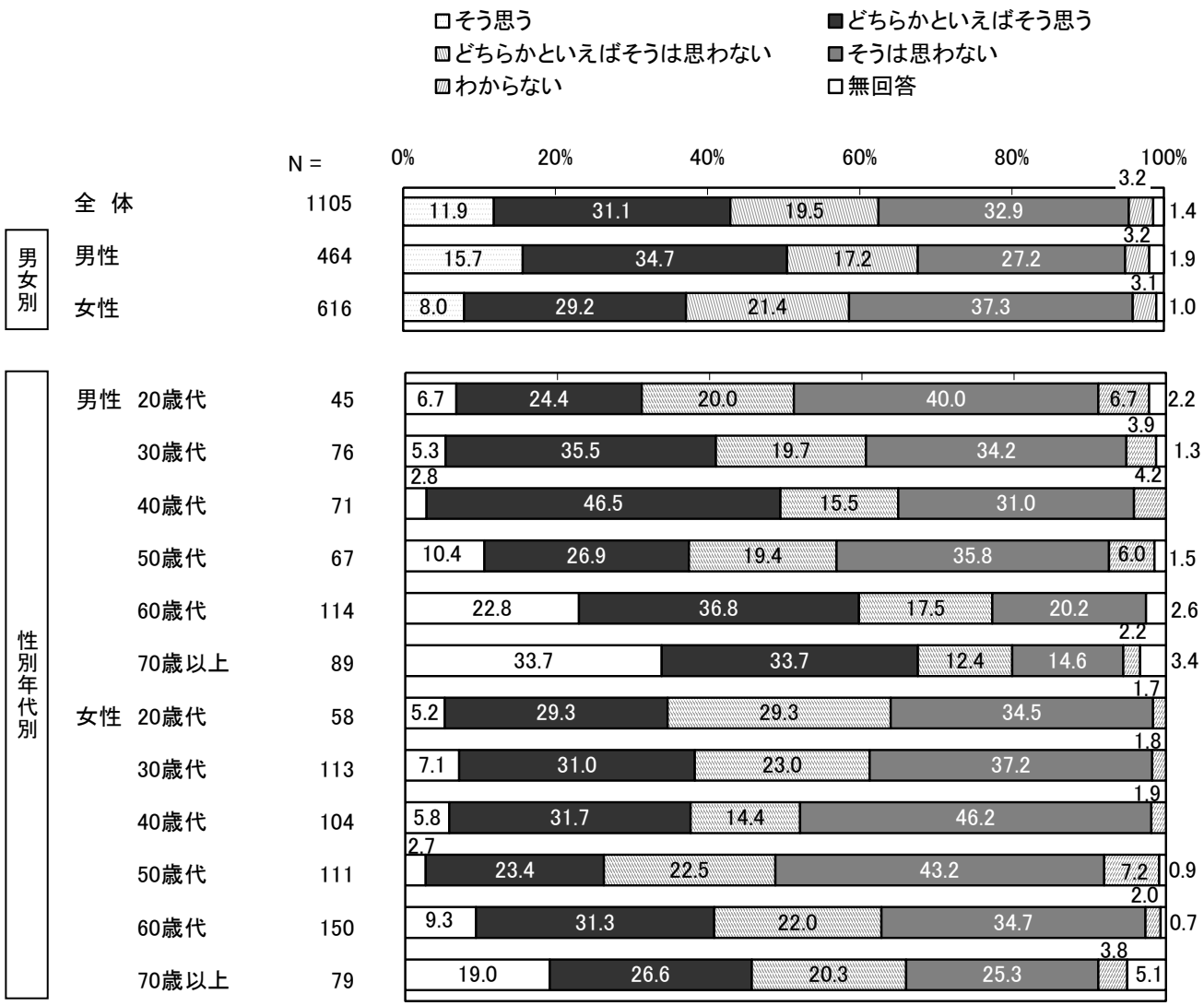
※全国世論調査：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

②夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい

「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 43.0%となっている。また、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合が 52.4%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合が高くなっている。

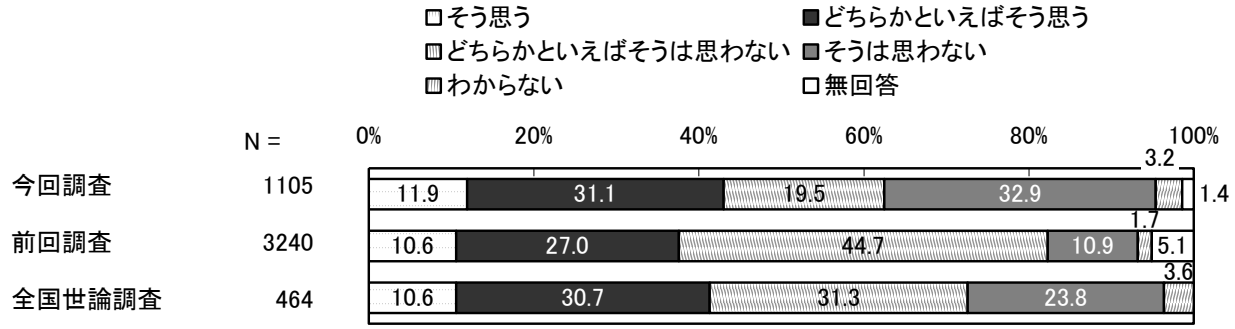
性別年代別でみると、他に比べ男性の 60 歳代、70 歳以上で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高く、5 割を超えている。また、男性の 20 歳代、女性の 50 歳代で「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」をあわせた否定する人の割合が高くなっている。



【平成 17 年度調査・全国世論調査との比較】

前回調査と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 5.4 ポイント増加している。また、「どちらかといえばそうは思わない」の割合が 25.2 ポイント減少し、「そうは思わない」の割合が 22.0 ポイント増加している。

全国世論調査と比較すると、「どちらかといえばそうは思わない」の割合が 11.8 ポイント低くなっている。また、「そうは思わない」の割合が 9.1 ポイント高くなっている。



※前回調査：平成 17 年度京田辺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査

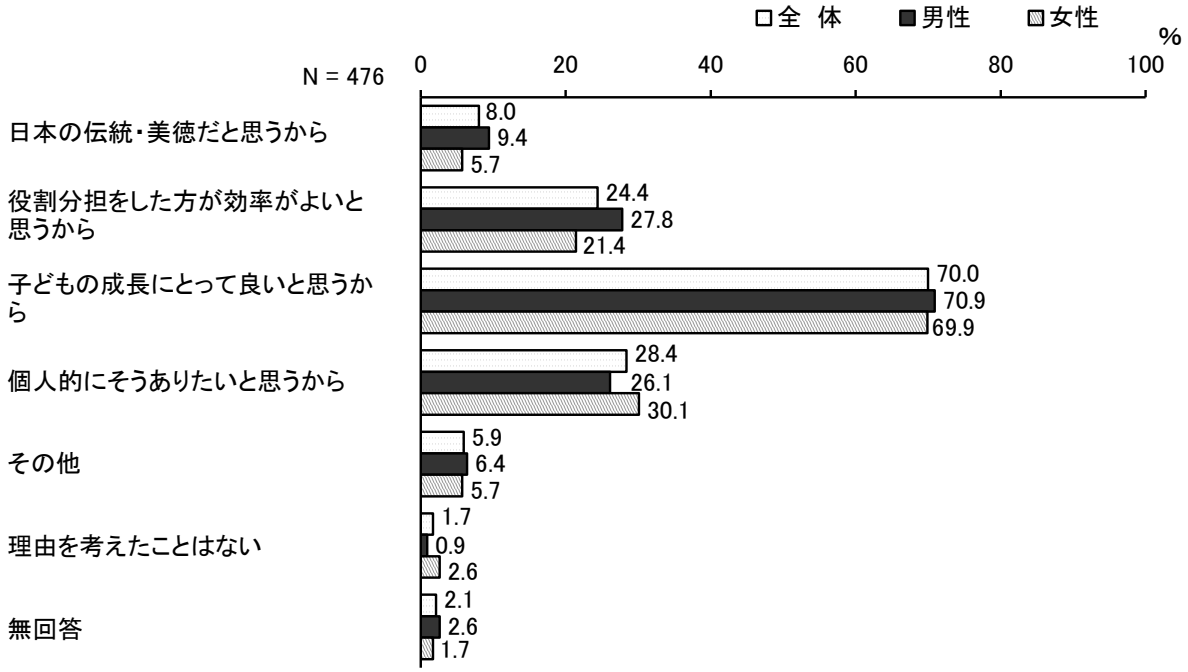
※全国世論調査：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

問２【問１－②で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択された方に】
なぜそう思われますか。（あてはまるものをすべて選択）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方を肯定する理由については、「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が 70.0％と最も高く、次いで「個人的にそうありたいと思うから」の割合が 28.4％、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」の割合が 24.4％となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「役割分担をした方が効率がよいと思うから」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 40 歳代で「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が高く、8 割を超えている。また、女性の 20 歳代で「個人的にそうありたいと思うから」の割合が高くなっている。

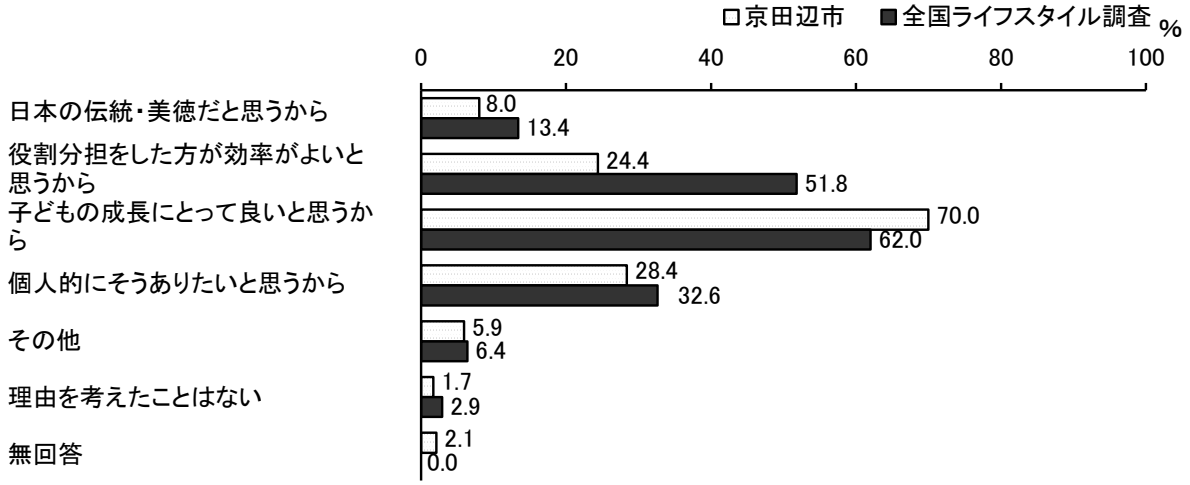


単位：%

		有効回答数（件）	日本の伝統・美徳だと思うから	役割分担をした方が効率がよいと思うから	子どもの成長にとって良いと思うから	個人的にそうありたいと思うから	その他	理由を考えたことはない	無回答
性別年代別	男性　20歳代	14	14.3	28.6	71.4	28.6	7.1	－	－
	30歳代	31	12.9	29.0	67.7	25.8	6.5	6.5	－
	40歳代	35	－	37.1	85.7	22.9	5.7	－	－
	50歳代	25	4.0	24.0	76.0	28.0	16.0	－	－
	60歳代	68	5.9	26.5	75.0	30.9	5.9	－	1.5
	70歳以上	60	18.3	25.0	56.7	21.7	3.3	－	8.3
	女性　20歳代	20	－	20.0	55.0	50.0	10.0	5.0	－
	30歳代	43	4.7	27.9	76.7	23.3	4.7	2.3	－
	40歳代	39	5.1	23.1	71.8	23.1	10.3	5.1	－
	50歳代	29	6.9	17.2	72.4	44.8	13.8	－	3.4
	60歳代	61	6.6	19.7	72.1	27.9	－	－	4.9
	70歳以上	36	8.3	19.4	61.1	27.8	2.8	5.6	－

【全国ライフスタイル調査との比較】

平成21年度の内閣府『男女のライフスタイルに関する意識調査』（以下、全国ライフスタイル調査）と比較すると、「日本の伝統・美徳だと思うから」の割合が5.4ポイント低くなっている。また、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」の割合が27.4ポイント低くなっている。さらに、「子どもの成長にとって良いと思うから」の割合が8.0ポイント高くなっている。



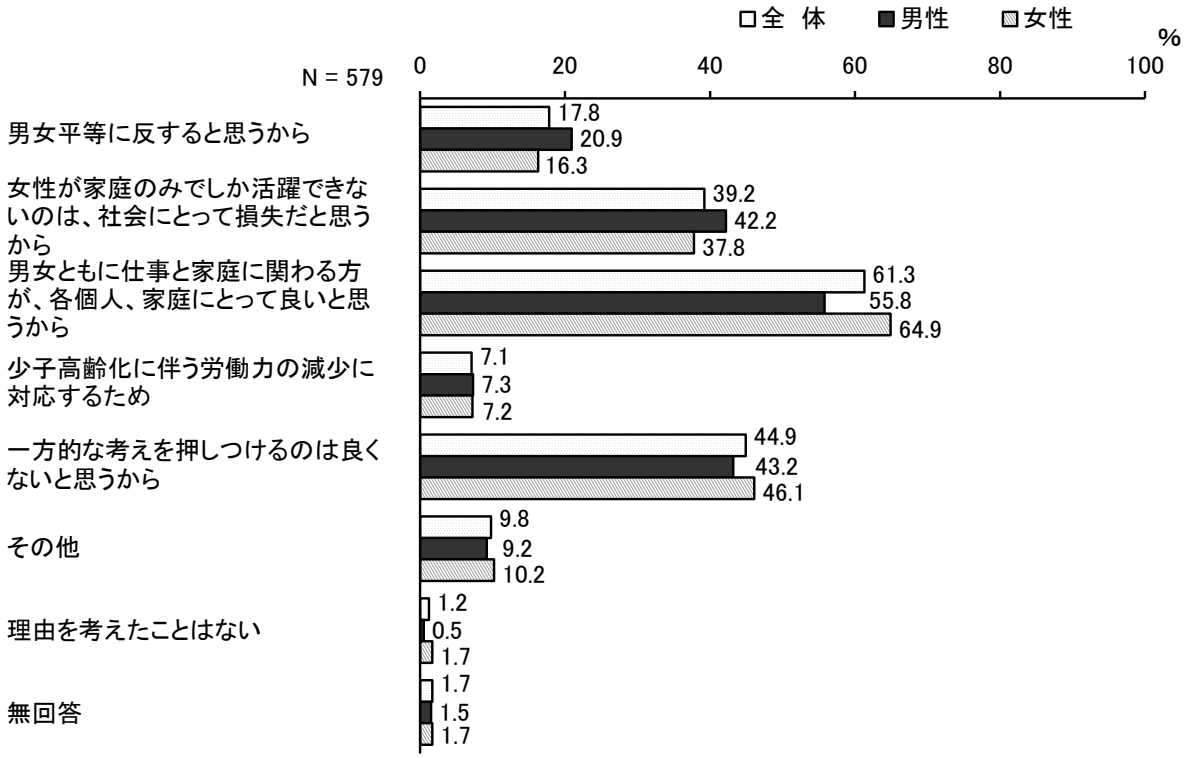
※全国ライフスタイル調査：内閣府　男女のライフスタイルに関する意識調査（平成21年9月調査）

問３【問１－②で「どちらかといえばそうは思わない」又は「そうは思わない」を選択された方に】
なぜそう思われますか。（あてはまるものをすべて選択）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方を否定する理由については、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」の割合が 61.3％と最も高く、次いで「一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから」の割合が 44.9％、「女性が家庭のみでしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから」の割合が 39.2％となっている。

男女別でみると、男性に比べ女性で「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 20 歳代で「一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから」の割合が高く、7 割を超えている。また、男性の 60 歳代で「女性が家庭のみでしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから」の割合が高く、6 割を超えている。

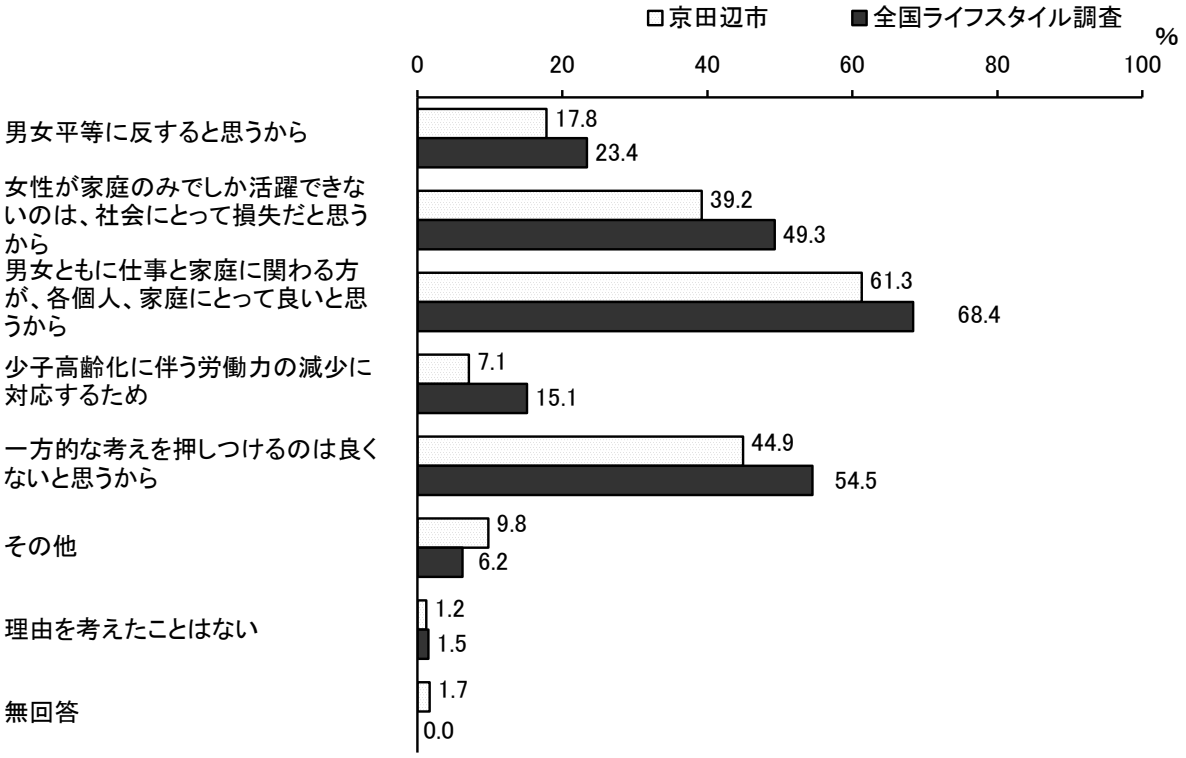


単位：%

		有効回答数（件）	男女平等に反すると思うから	女性が家庭のみでしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから	男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから	少子高齢化に伴う労働力の減少に対応するため	一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから	その他	理由を考えたことはない	無回答
性別年代別	男性　20歳代	27	22.2	25.9	55.6	－	70.4	－	－	3.7
	30歳代	41	22.0	31.7	53.7	7.3	41.5	14.6	2.4	－
	40歳代	33	18.2	36.4	57.6	9.1	42.4	21.2	－	－
	50歳代	37	21.6	48.6	56.8	2.7	43.2	8.1	－	2.7
	60歳代	43	20.9	62.8	53.5	11.6	41.9	4.7	－	2.3
	70歳以上	24	20.8	37.5	62.5	12.5	20.8	4.2	－	－
	女性　20歳代	37	27.0	35.1	64.9	2.7	54.1	10.8	－	－
	30歳代	68	17.6	39.7	60.3	10.3	50.0	20.6	－	2.9
	40歳代	63	19.0	41.3	61.9	4.8	50.8	12.7	1.6	－
	50歳代	73	12.3	32.9	65.8	6.8	50.7	5.5	1.4	1.4
	60歳代	85	11.8	37.6	68.2	9.4	40.0	5.9	3.5	2.4
	70歳以上	36	16.7	41.7	69.4	5.6	27.8	5.6	2.8	2.8

【全国ライフスタイル調査との比較】

全国ライフスタイル調査と比較すると、全ての選択肢において低くなっており、特に「女性が家庭のみでしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから」の割合が 10.1 ポイント低くなっている。



※全国ライフスタイル調査：内閣府　男女のライフスタイルに関する意識調査（平成 21 年 9 月調査）

問４【結婚している方に】あなたの家庭では次にあげることについて、主に誰が分担していますか。（それぞれ１～４の数字を選択）

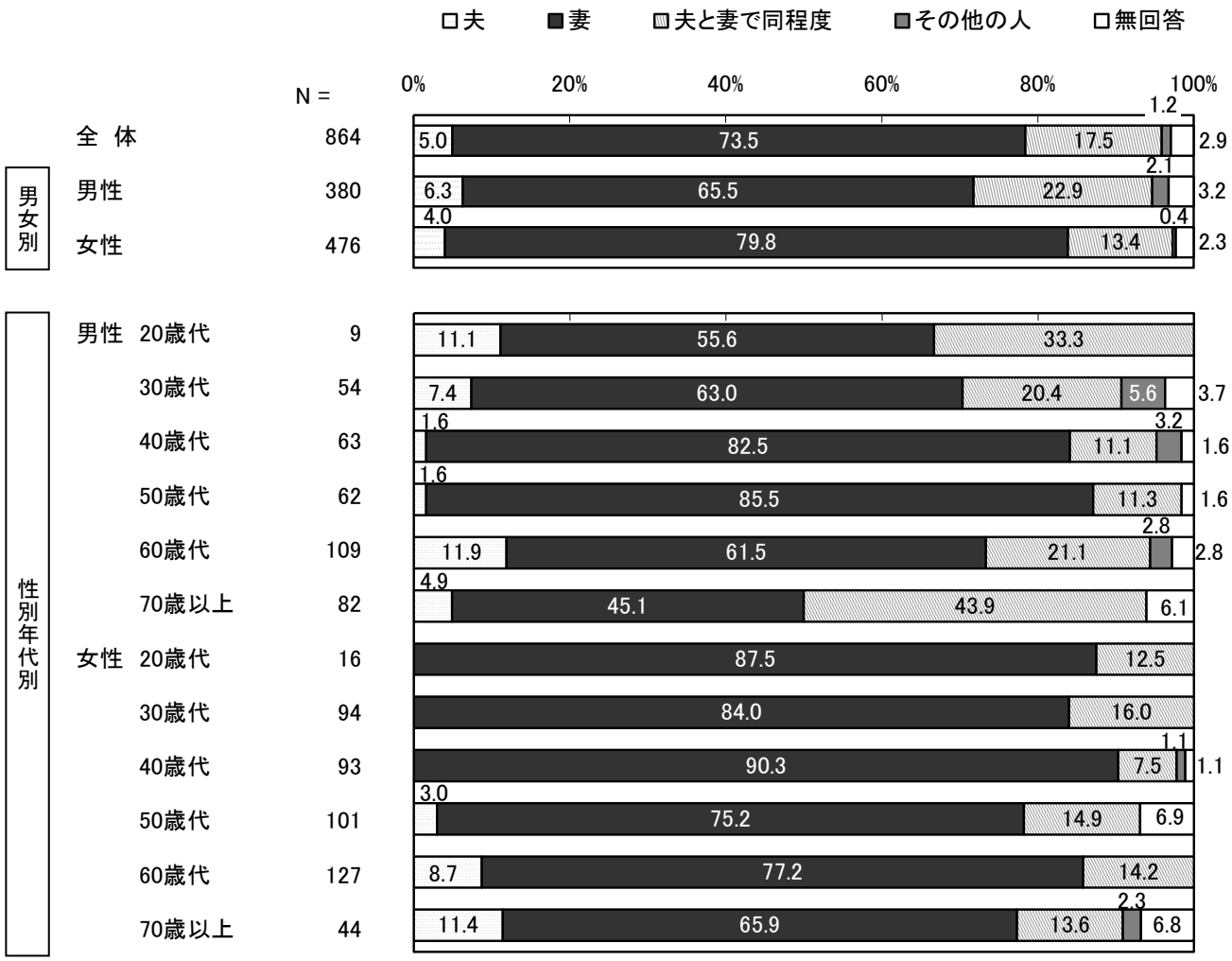
①掃除

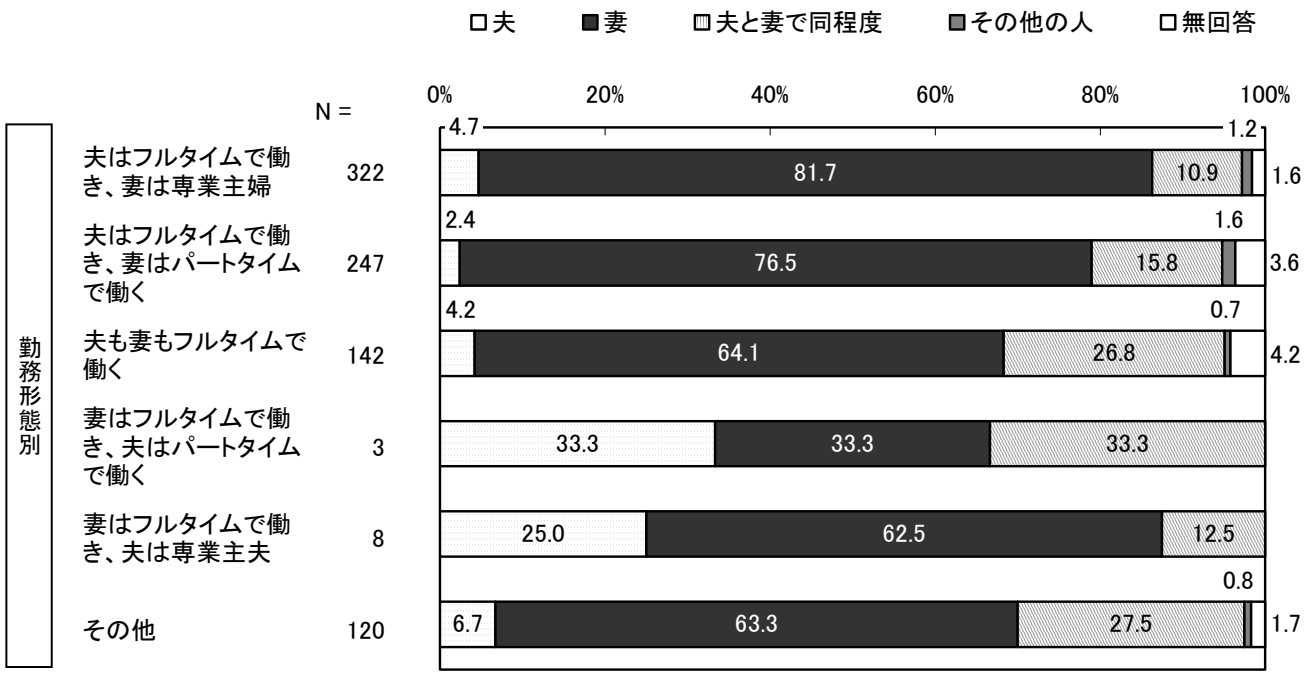
掃除の分担者については、「妻」の割合が 73.5%と最も高く、次いで「夫と妻で同程度」の割合が 17.5%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「妻」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 70 歳以上で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、女性の 40 歳代で「妻」の割合が高く、9 割を超えている。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▨夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
勤務形態別
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
4.7
81.7
10.9
1.2
1.6
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
2.4
76.5
15.8
1.6
3.6
夫も妻もフルタイムで働く
142
4.2
64.1
26.8
0.7
4.2
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
33.3
33.3
33.3
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
25.0
62.5
12.5
その他
120
6.7
63.3
27.5
0.8
1.7

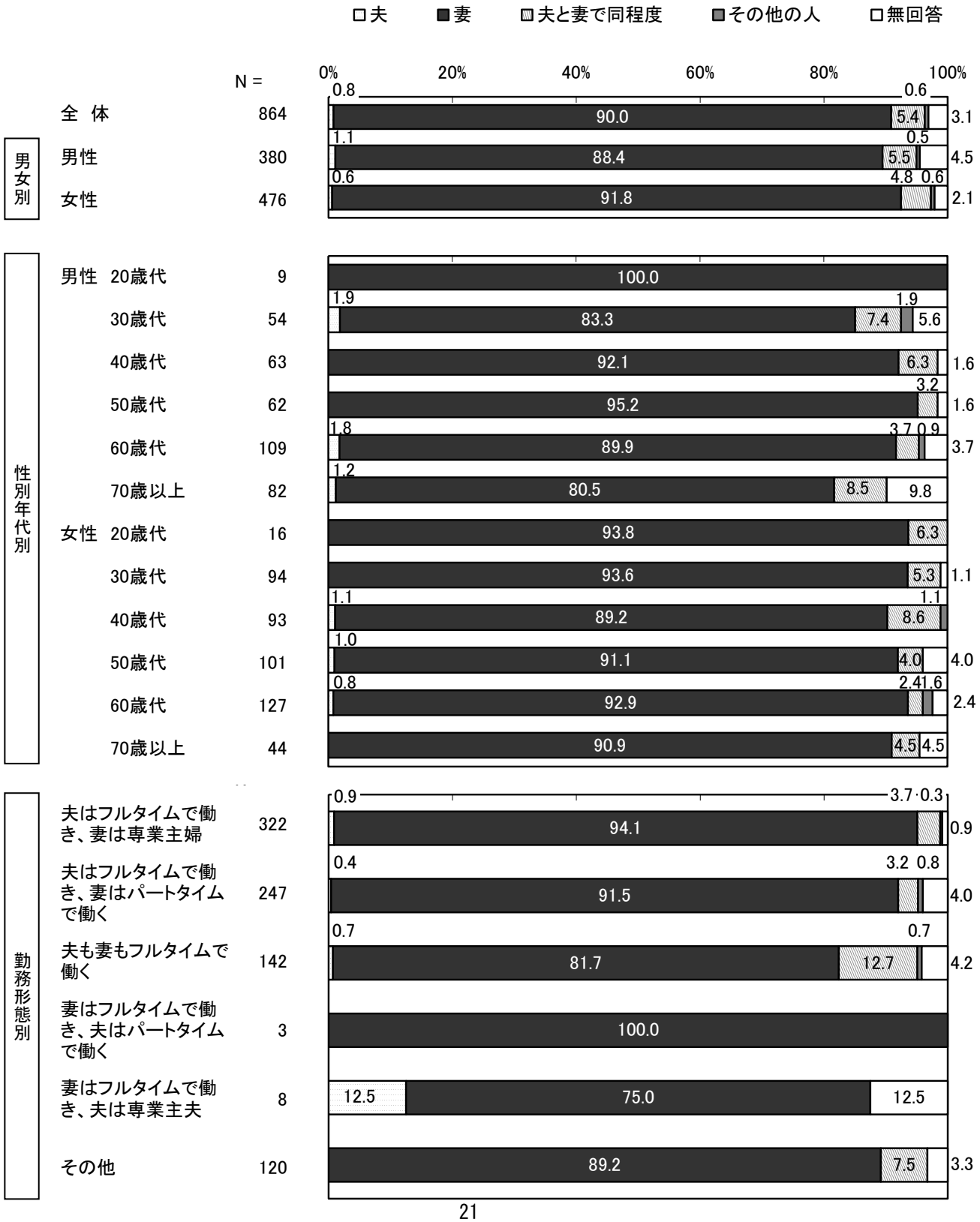
②食事のしたく

食事のしたくの分担者については、「妻」の割合が 90.0%と最も高くなっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、70 歳以上で「妻」の割合が低くなっている。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「妻」の割合が低くなっている。



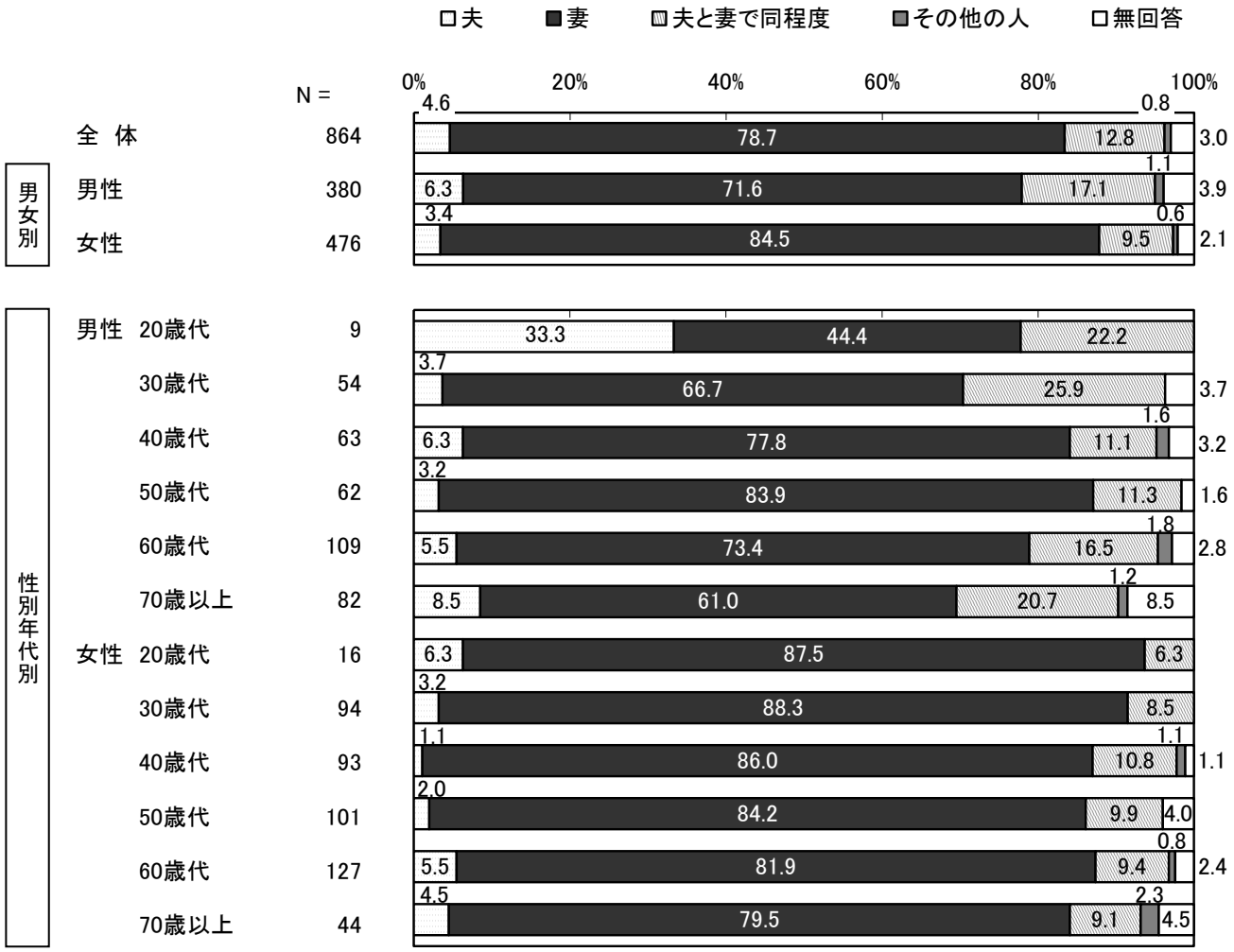
③食事の後片付け、食器洗い

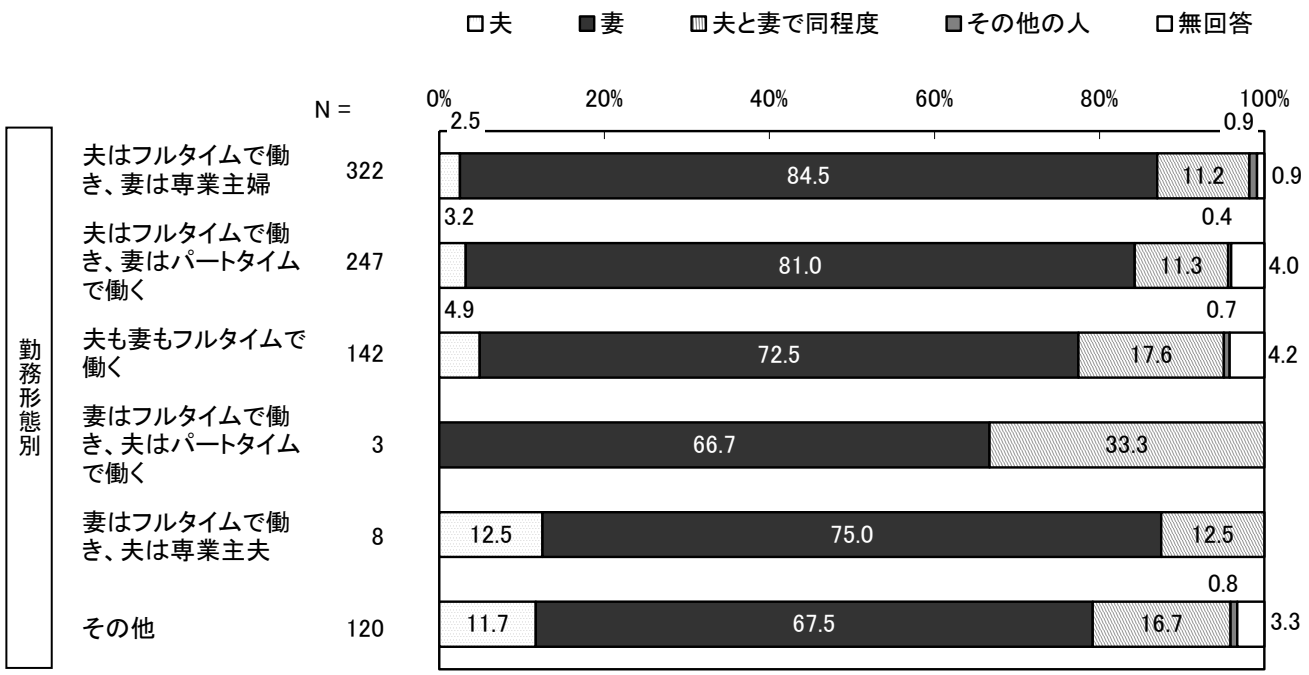
食事の後片付け、食器洗いの分担者については、「妻」の割合が 78.7%と最も高くなっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「妻」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、70 歳以上で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、女性では年齢が高くなるにしたがい「妻」の割合が低くなる傾向にある。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▨夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
勤務形態別
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
2.5
84.5
11.2
0.9
0.9
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
3.2
81.0
11.3
0.4
4.0
夫も妻もフルタイムで働く
142
4.9
72.5
17.6
0.7
4.2
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
66.7
33.3
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
12.5
75.0
12.5
その他
120
11.7
67.5
16.7
0.8
3.3

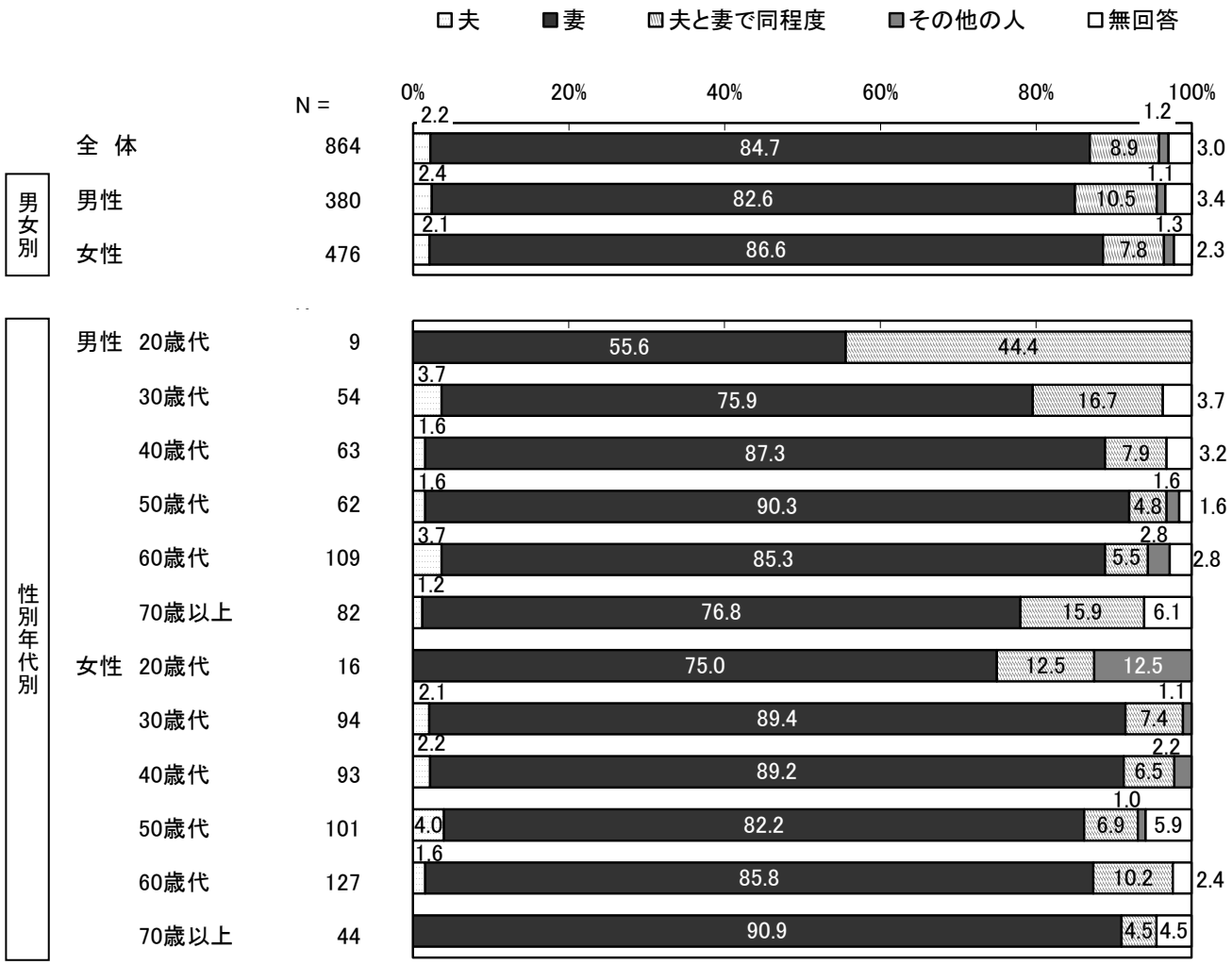
④洗濯

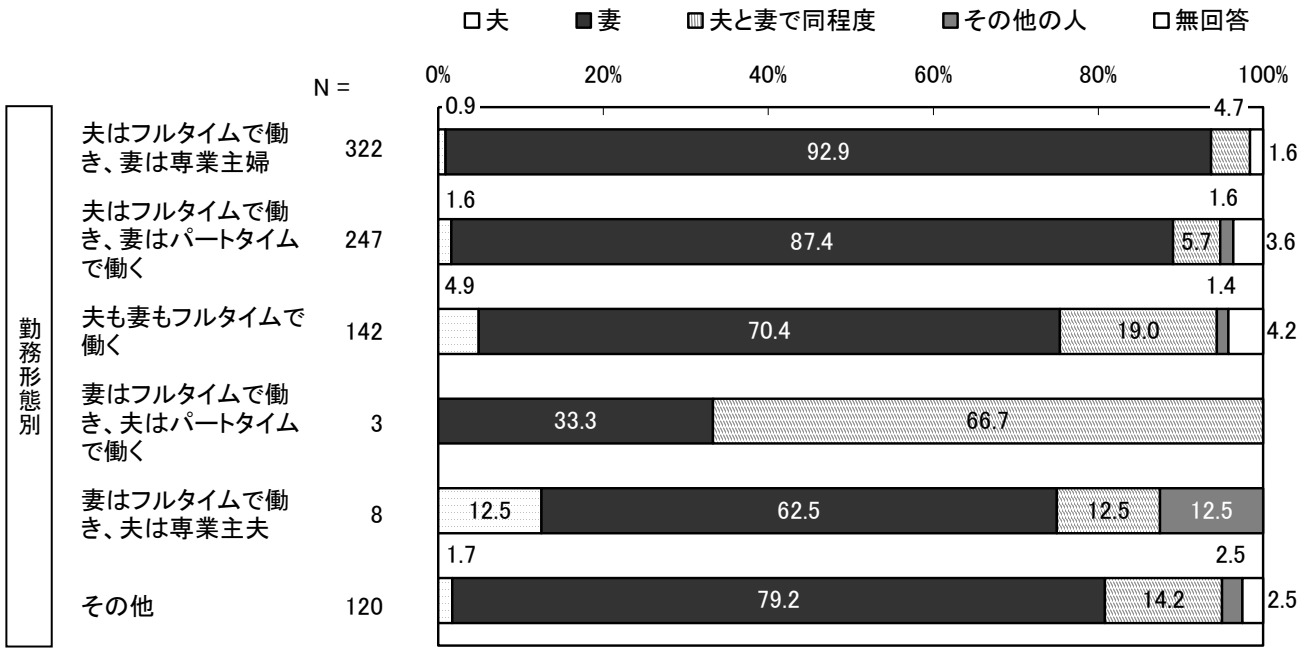
洗濯の分担者については、「妻」の割合が 84.7%と最も高くなっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、70 歳以上、女性の 20 歳代で「妻」の割合が低くなっている。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▨夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
勤務形態別
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
0.9
92.9
4.7
1.6
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
1.6
87.4
1.6
5.7
3.6
夫も妻もフルタイムで働く
142
4.9
70.4
1.4
19.0
4.2
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
33.3
66.7
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
12.5
62.5
12.5
12.5
その他
120
1.7
79.2
2.5
14.2
2.5

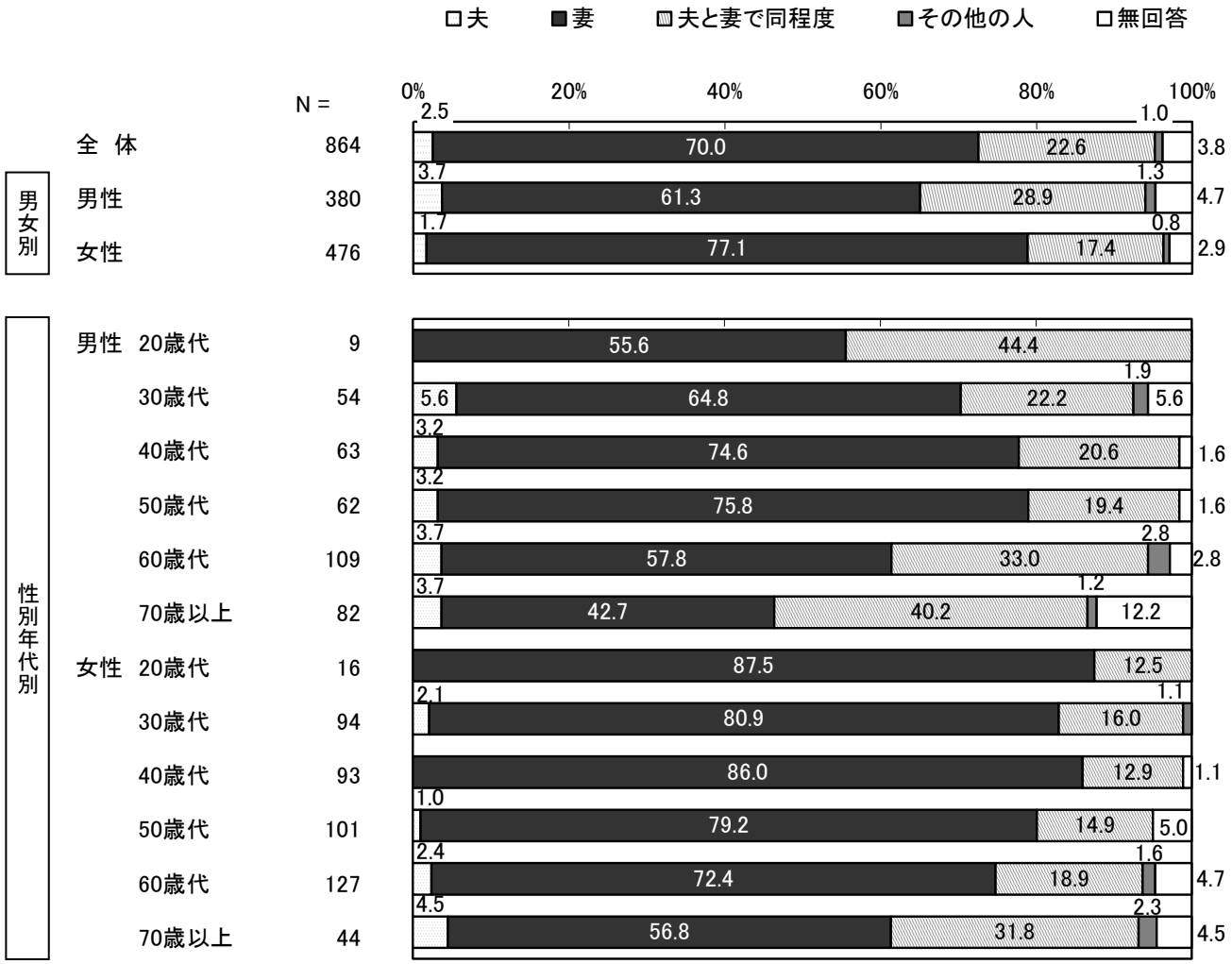
⑤日常の買い物

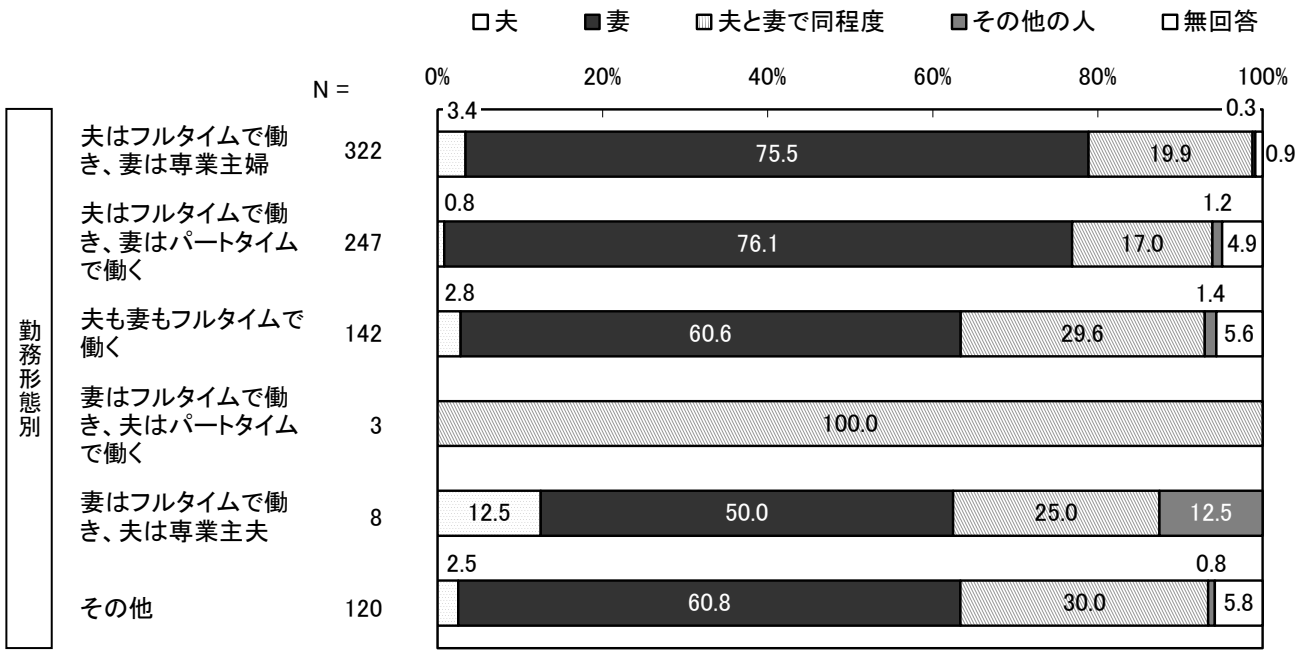
日常の買い物の分担者については、「妻」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「夫と妻で同程度」の割合が 22.6%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「妻」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 70 歳以上で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、女性では年齢が高くなるにしたがい「妻」の割合が低くなる傾向にある。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▨夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
勤務形態別
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
3.4
75.5
19.9
0.3
0.9
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
0.8
76.1
17.0
1.2
4.9
夫も妻もフルタイムで働く
142
2.8
60.6
29.6
1.4
5.6
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
100.0
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
12.5
50.0
25.0
12.5
その他
120
2.5
60.8
30.0
0.8
5.8

問５【結婚している方に】問４について、どのように分担するのが望ましいと思われますか。（それぞれ１～４の数字を選択）

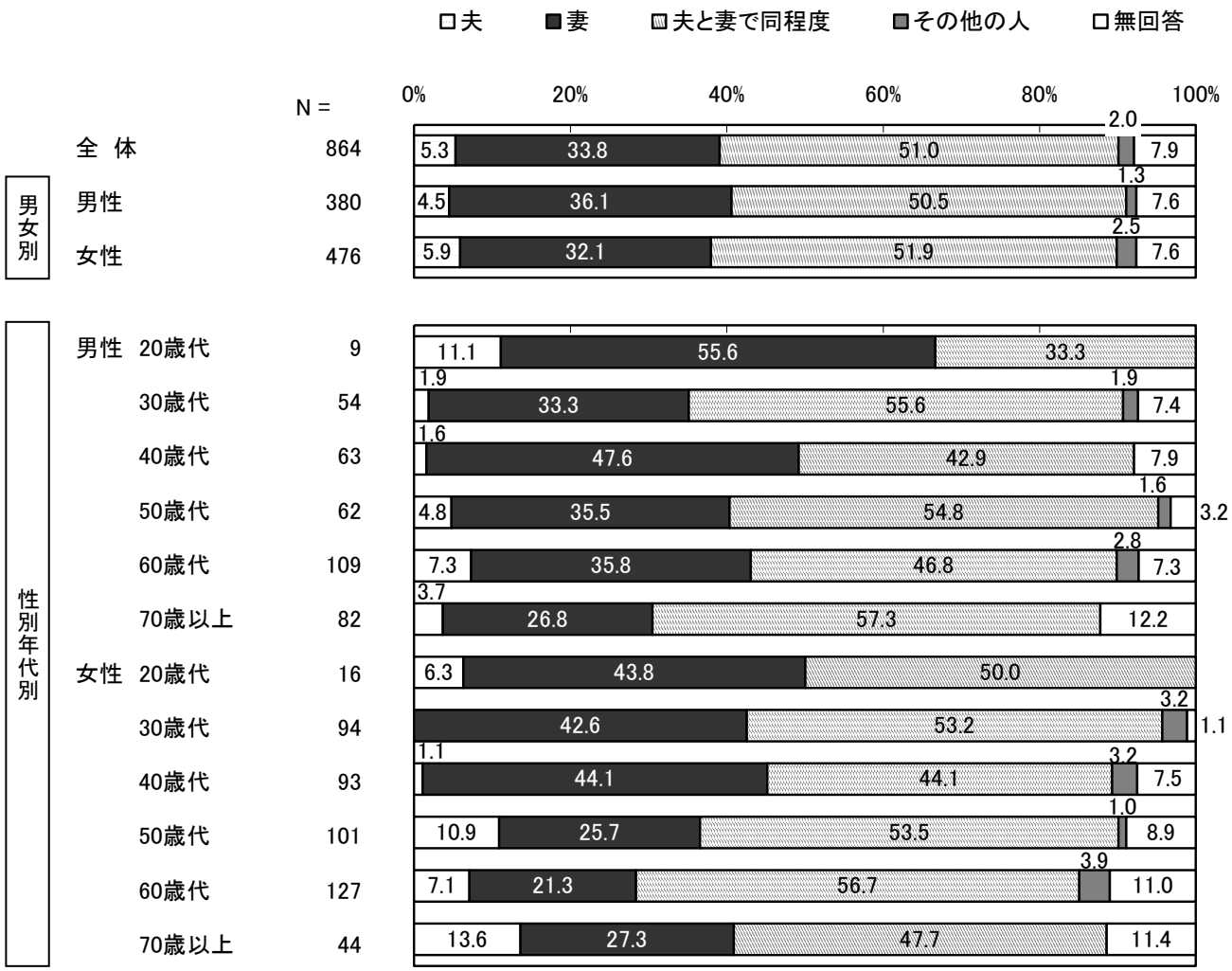
①掃除

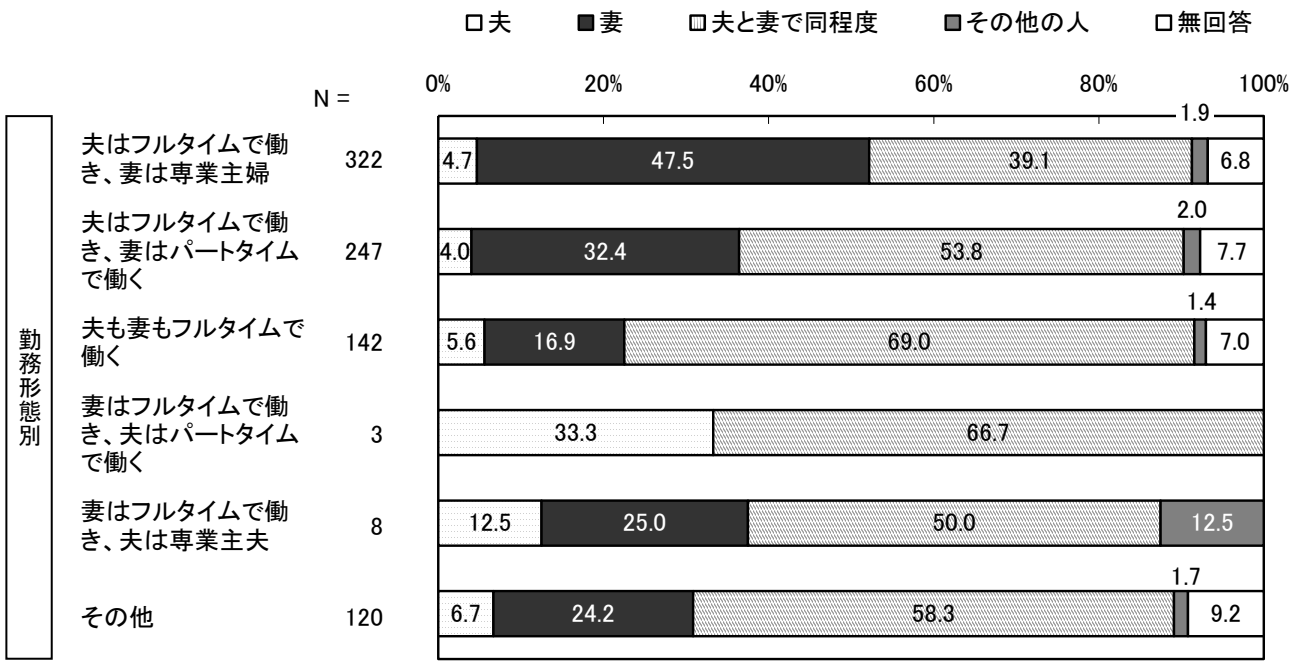
掃除の望ましい分担については、「夫と妻で同程度」の割合が 51.0％と最も高く、次いで「妻」の割合が 33.8％となっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、50 歳代、70 歳以上、女性の 20 歳代、30 歳代、50 歳代、60 歳代で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高く、約７割となっている。




□夫
■妻
▨夫と妻で同程度
▩その他の人
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
勤務形態別
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
4.7
47.5
39.1
1.9
6.8
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
4.0
32.4
53.8
2.0
7.7
夫も妻もフルタイムで働く
142
5.6
16.9
69.0
1.4
7.0
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
33.3
66.7
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
12.5
25.0
50.0
12.5
その他
120
6.7
24.2
58.3
1.7
9.2

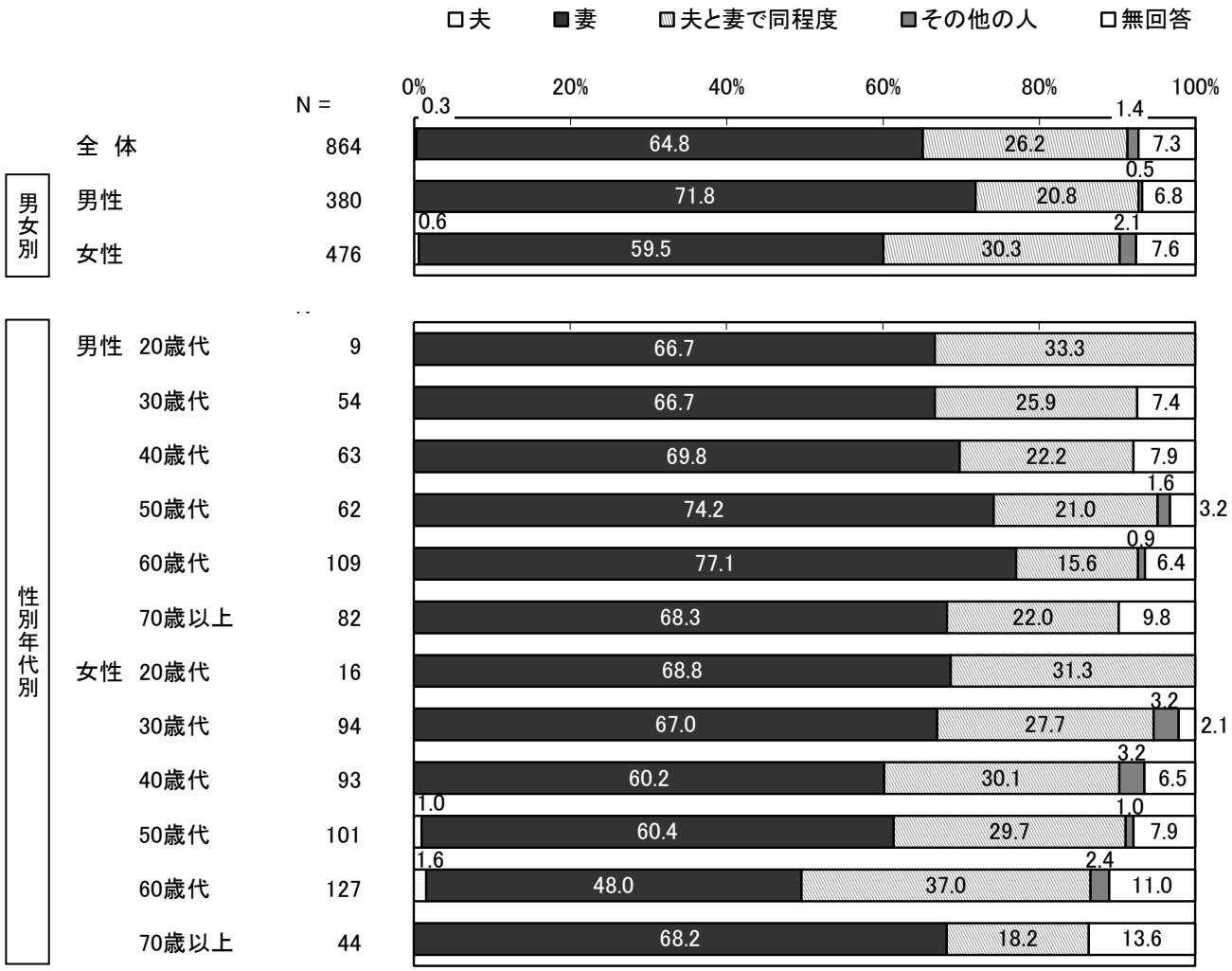
②食事のしたく

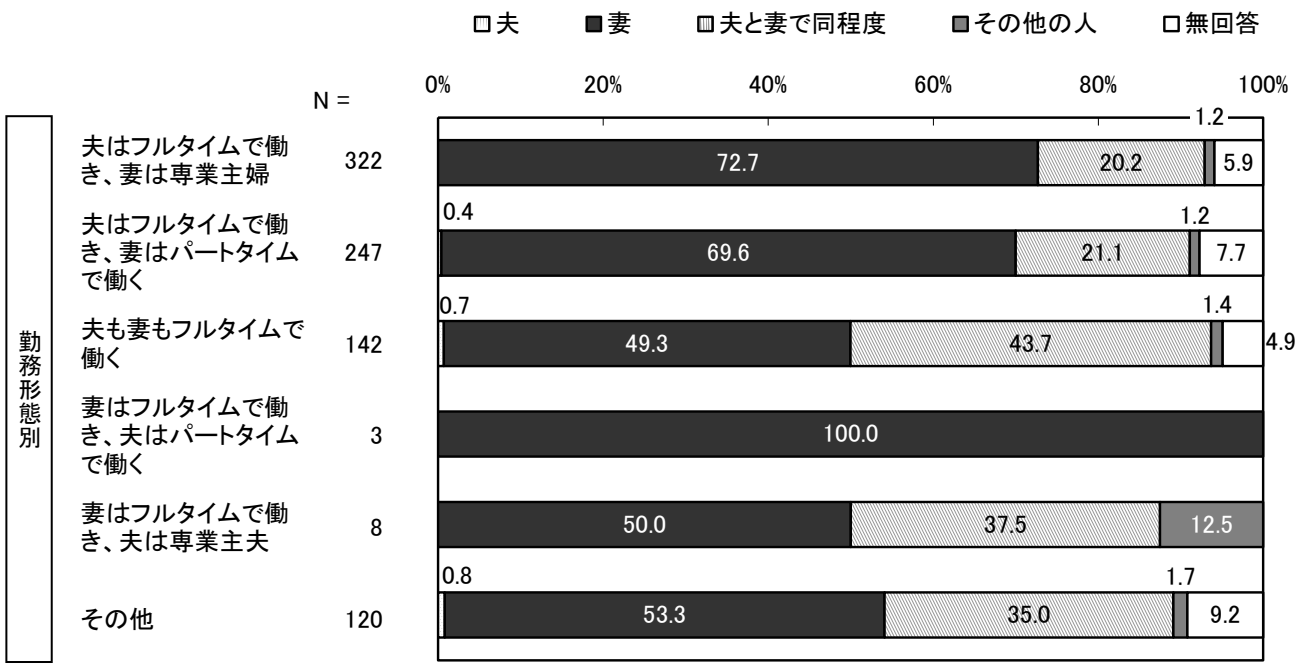
食事のしたくの望ましい分担については、「妻」の割合が 64.8%と最も高く、次いで「夫と妻で同程度」の割合が 26.2%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「妻」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 50 歳代、60 歳代で「妻」の割合が高く、7 割を超えている。また、女性の 60 歳代で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▥夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
勤務形態別
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
72.7
20.2
1.2
5.9
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
0.4
69.6
21.1
1.2
7.7
夫も妻もフルタイムで働く
142
0.7
49.3
43.7
1.4
4.9
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
100.0
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
50.0
37.5
12.5
その他
120
0.8
53.3
35.0
1.7
9.2

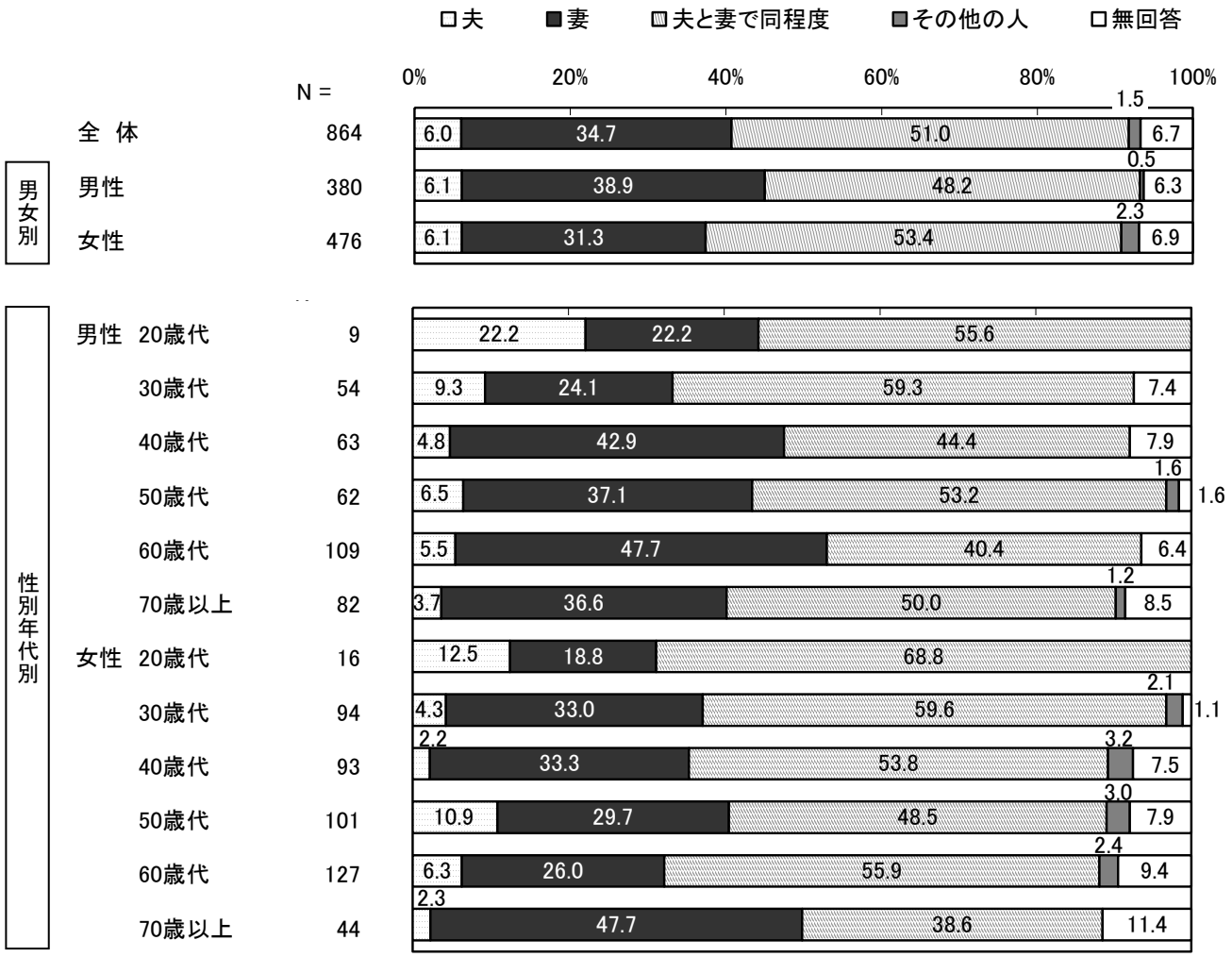
③食事の後片付け、食器洗い

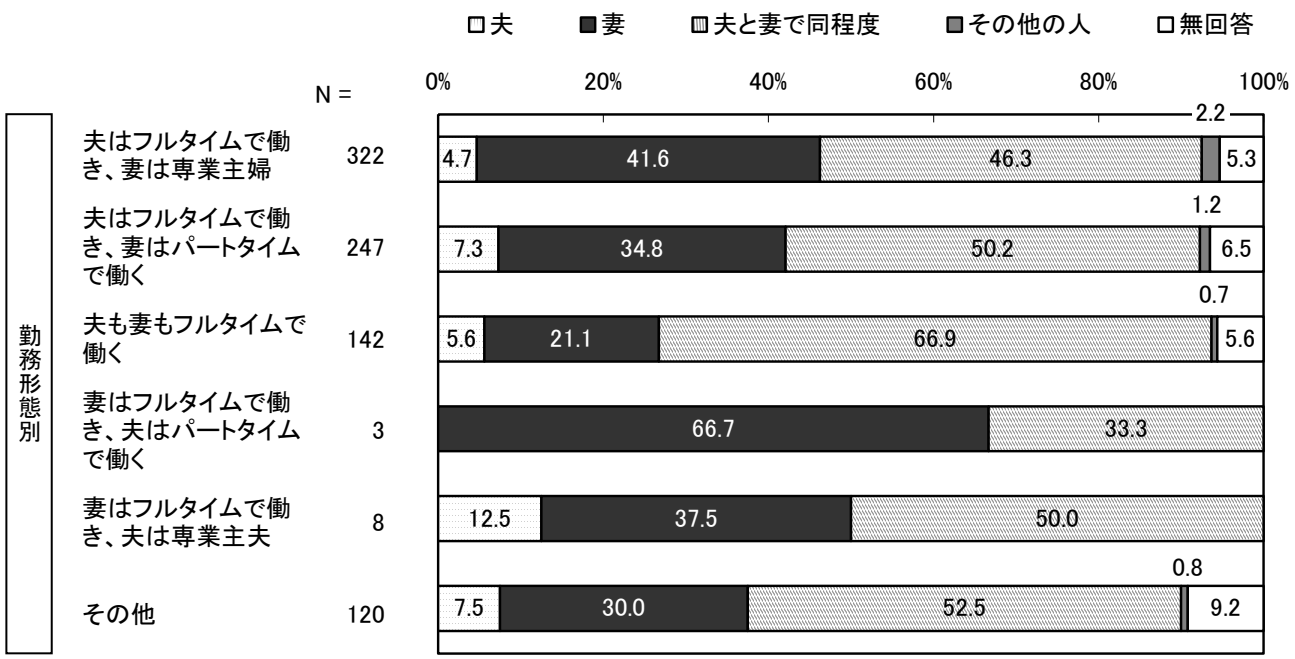
食事の後片付け、食器洗いの望ましい分担については、「夫と妻で同程度」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「妻」の割合が 34.7%となっている。

男女別でみると、男性に比べ女性で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 60 歳代、女性の 70 歳以上で「妻」の割合が高くなっている。また、女性の 20 歳代で「夫と妻で同程度」の割合が高く、約 7 割となっている。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▥夫と妻で同程度
▩その他の人
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
勤務形態別
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
4.7
41.6
46.3
2.2
5.3
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
7.3
34.8
50.2
1.2
6.5
夫も妻もフルタイムで働く
142
5.6
21.1
66.9
0.7
5.6
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
66.7
33.3
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
12.5
37.5
50.0
その他
120
7.5
30.0
52.5
0.8
9.2

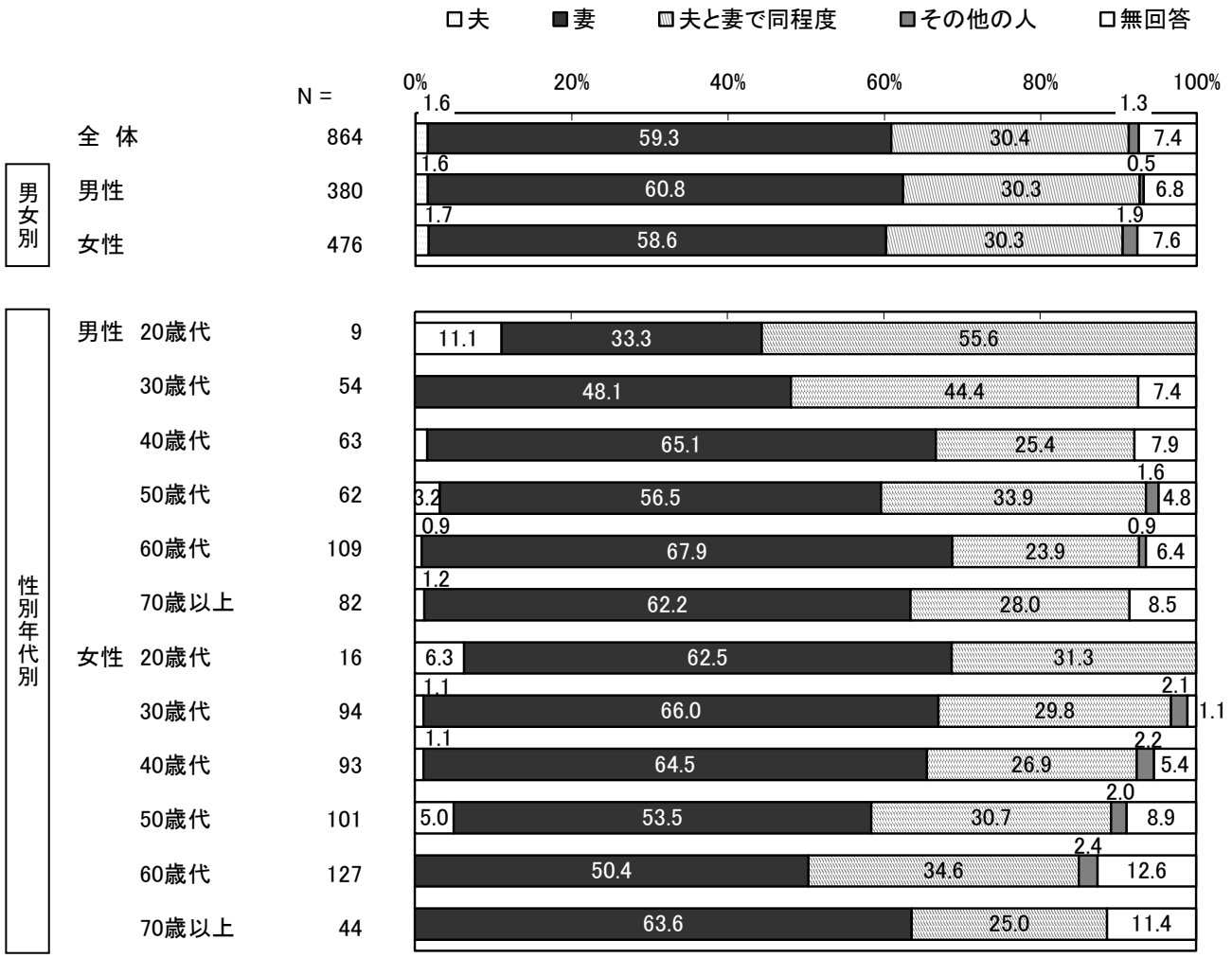
④洗濯

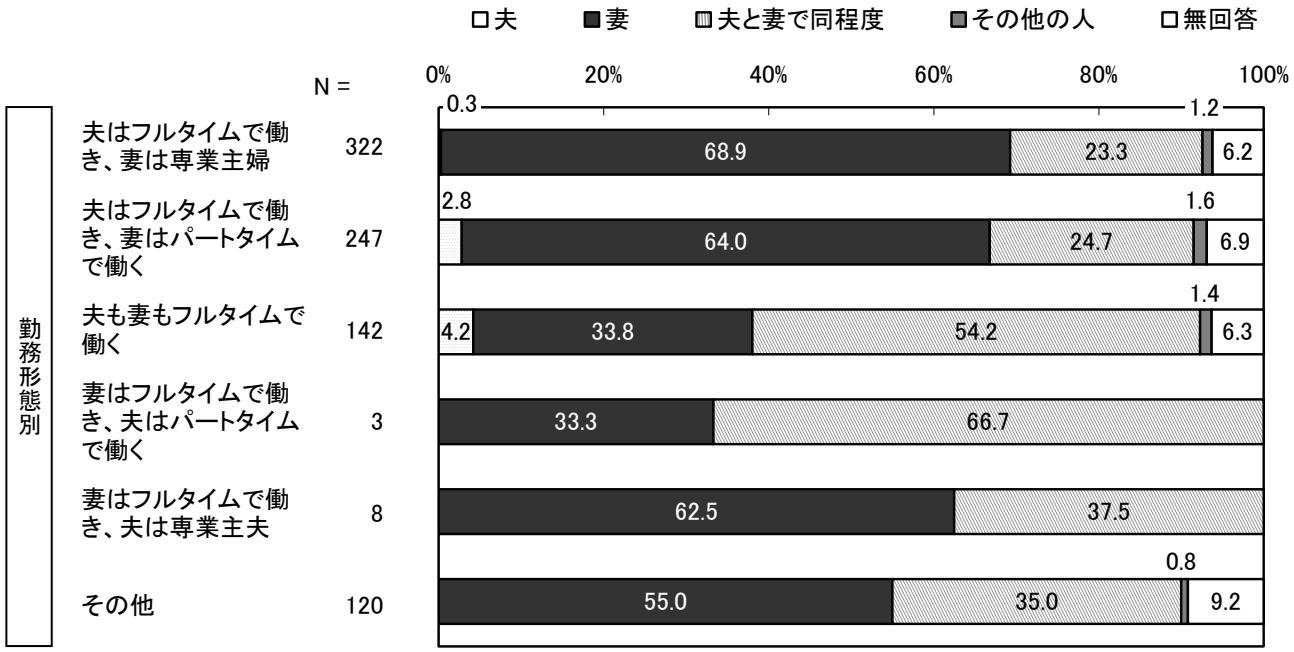
洗濯の望ましい分担については、「妻」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「夫と妻で同程度」の割合が 30.4%となっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、女性で年齢が高くなるにしたがい「妻」の割合が低くなる傾向にある。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。




□夫
■妻
▨夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
勤務形態別
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
0.3
68.9
23.3
1.2
6.2
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
2.8
64.0
24.7
1.6
6.9
夫も妻もフルタイムで働く
142
4.2
33.8
54.2
1.4
6.3
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
33.3
66.7
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
62.5
37.5
その他
120
55.0
35.0
0.8
9.2

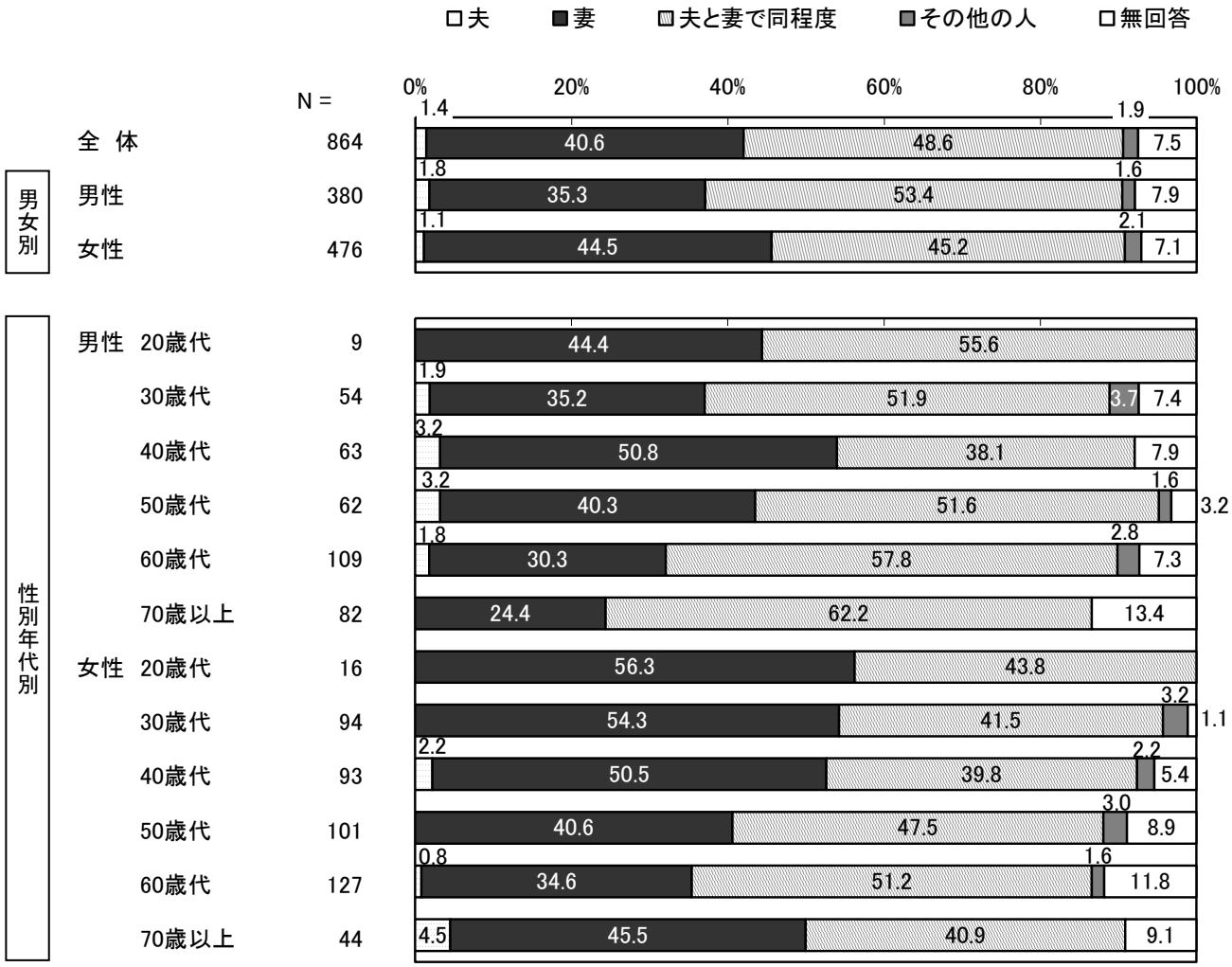
⑤日常の買い物

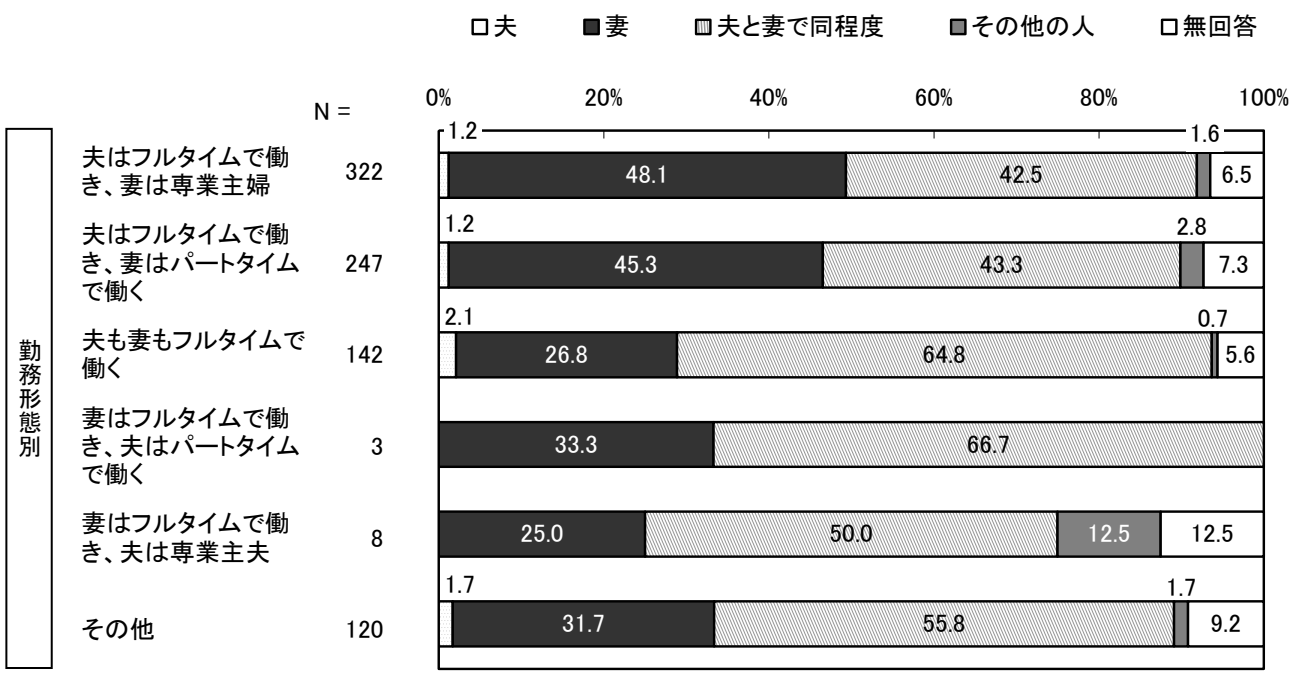
日常の買い物の望ましい分担については、「夫と妻で同程度」の割合が 48.6%と最も高く、次いで「妻」の割合が 40.6%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「妻」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 40 歳代以降、女性で年齢が高くなるにしたがい「妻」の割合が低くなる傾向にある。

勤務形態別でみると、他の勤務形態に比べ夫も妻もフルタイムで働く人で「夫と妻で同程度」の割合が高くなっている。

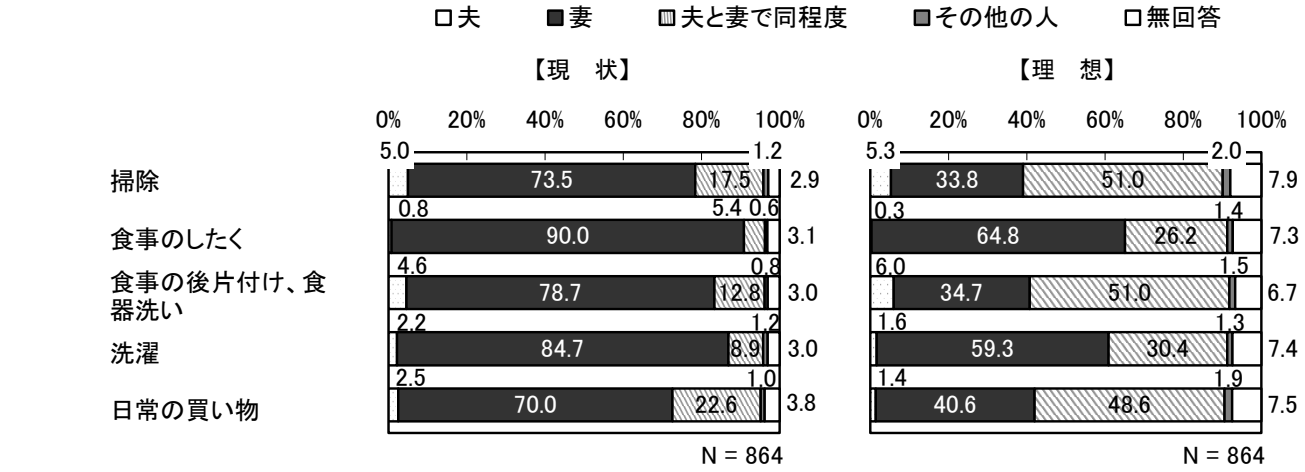


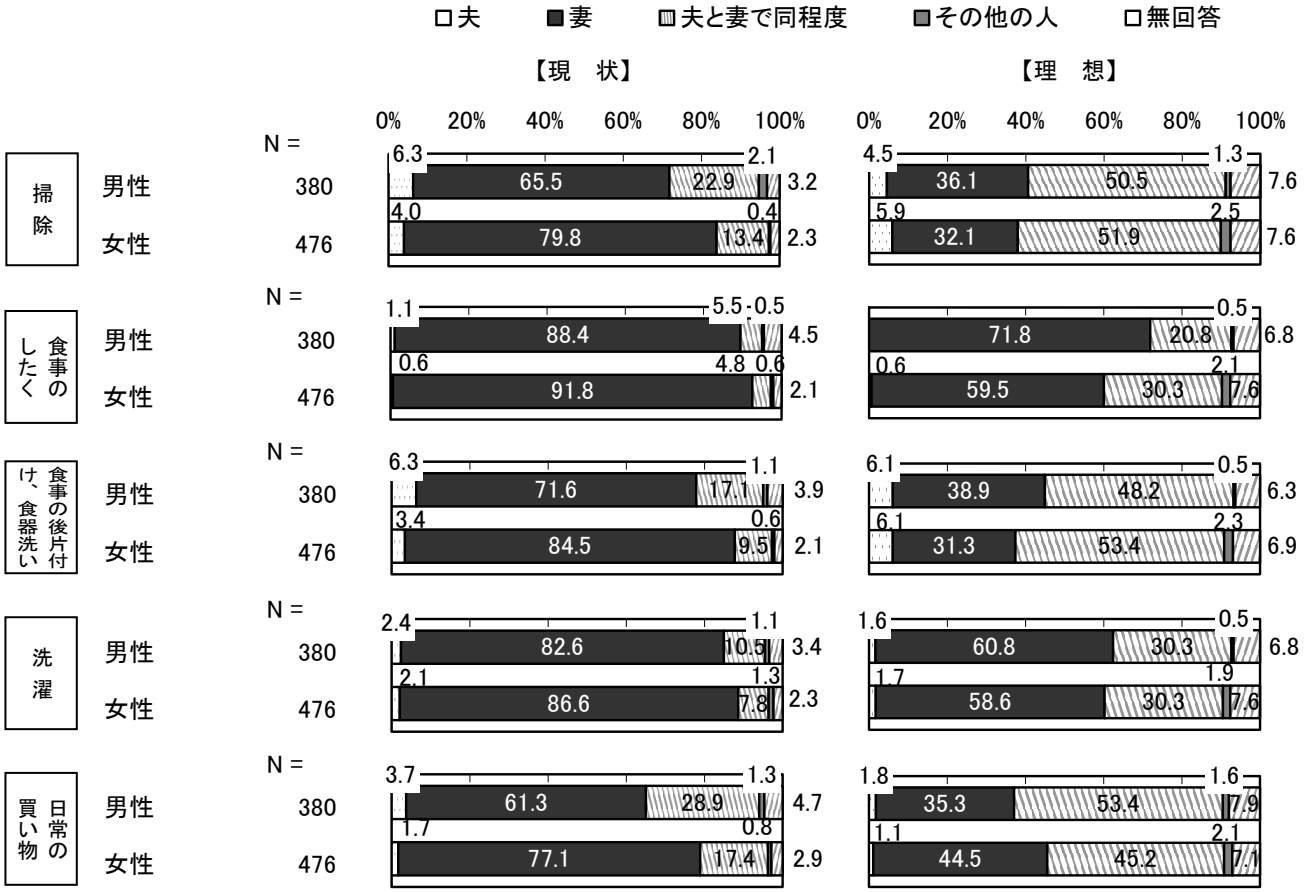

□夫
■妻
▥夫と妻で同程度
■その他の人
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
勤務形態別
夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦
322
1.2
48.1
42.5
1.6
6.5
夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く
247
1.2
45.3
43.3
2.8
7.3
夫も妻もフルタイムで働く
142
2.1
26.8
64.8
0.7
5.6
妻はフルタイムで働き、夫はパートタイムで働く
3
33.3
66.7
妻はフルタイムで働き、夫は専業主夫
8
25.0
50.0
12.5
12.5
その他
120
1.7
31.7
55.8
1.7
9.2

【家庭生活の役割分担における現状と理想】

家庭生活の役割分担における現状と理想については、すべての項目において、現状に比べ理想では「夫と妻で同程度」の割合が高く、全体的に 20 ポイント以上の差がみられるが、『掃除』、『食事の後片付け、食器洗い』では 30 ポイント以上の差がみられる。

男女別でみると、全体と同様の傾向がみられる。





３　仕事について

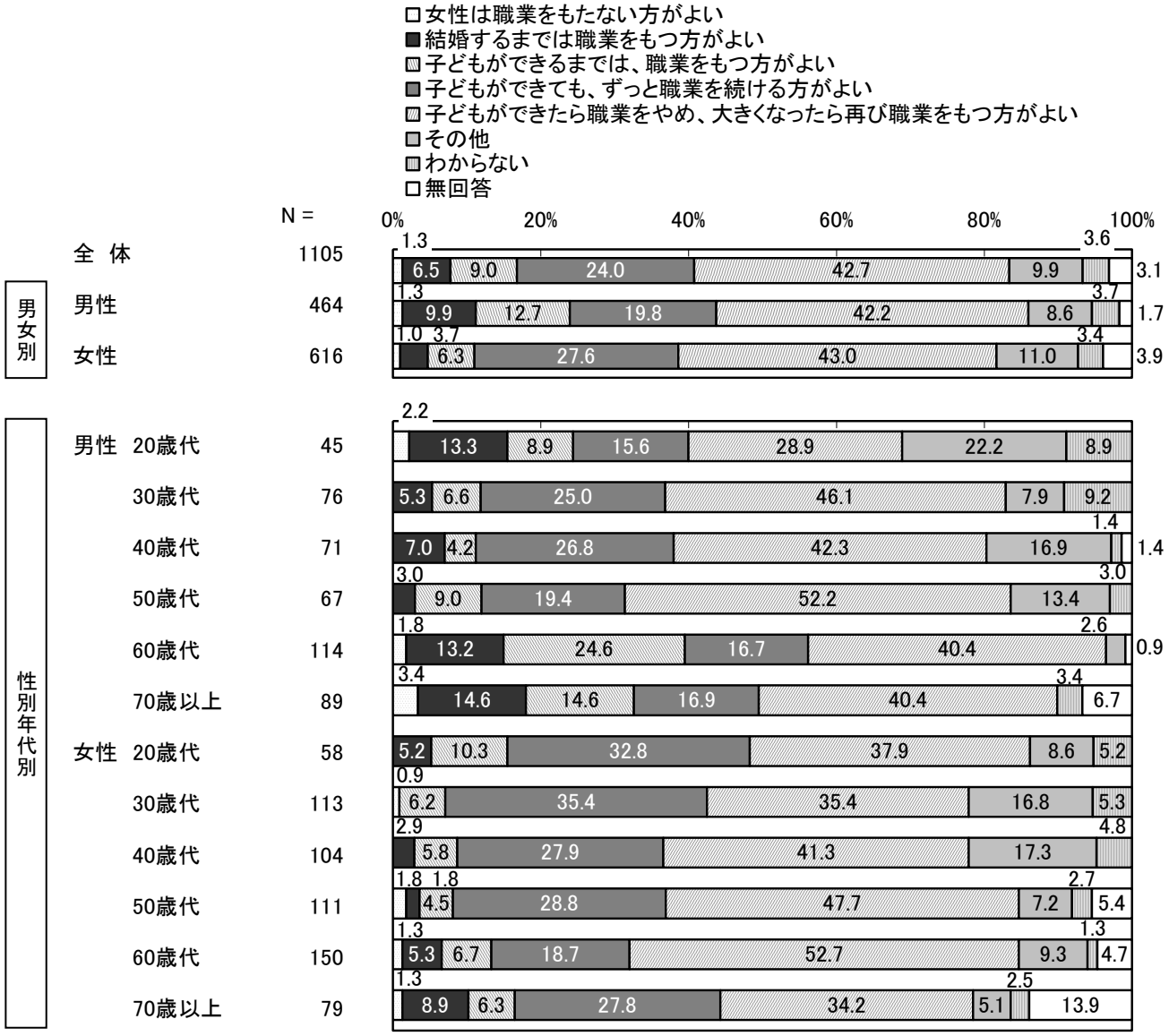
問６【全員の方に】一般的に女性が職業をもつことについて、どう思われますか。（１つ選択）

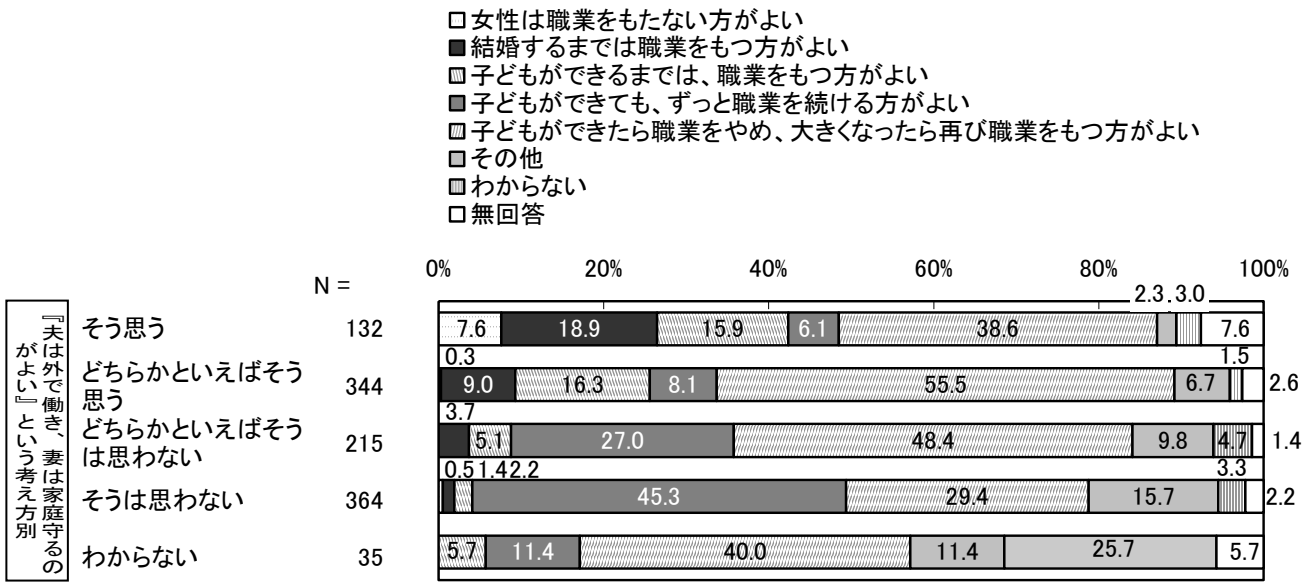
女性が職業をもつことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が 24.0%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 50 歳代、女性の 60 歳代で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が高く、5 割を超えている。また、女性の 20 歳代、30 歳代で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっている。

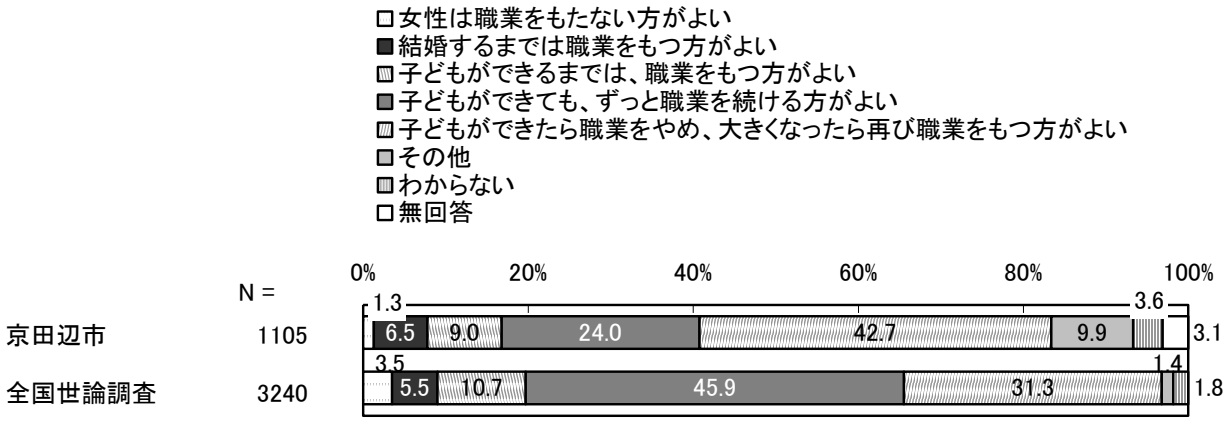
『夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい』という考え方別でみると、肯定する人に比べて否定する人で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっている。また、否定する人に比べて肯定する人で「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」の割合が高くなっている。





【全国世論調査との比較】

全国世論調査と比較すると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が 21.9 ポイント低くなっている。また、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が 11.4 ポイント高くなっている。



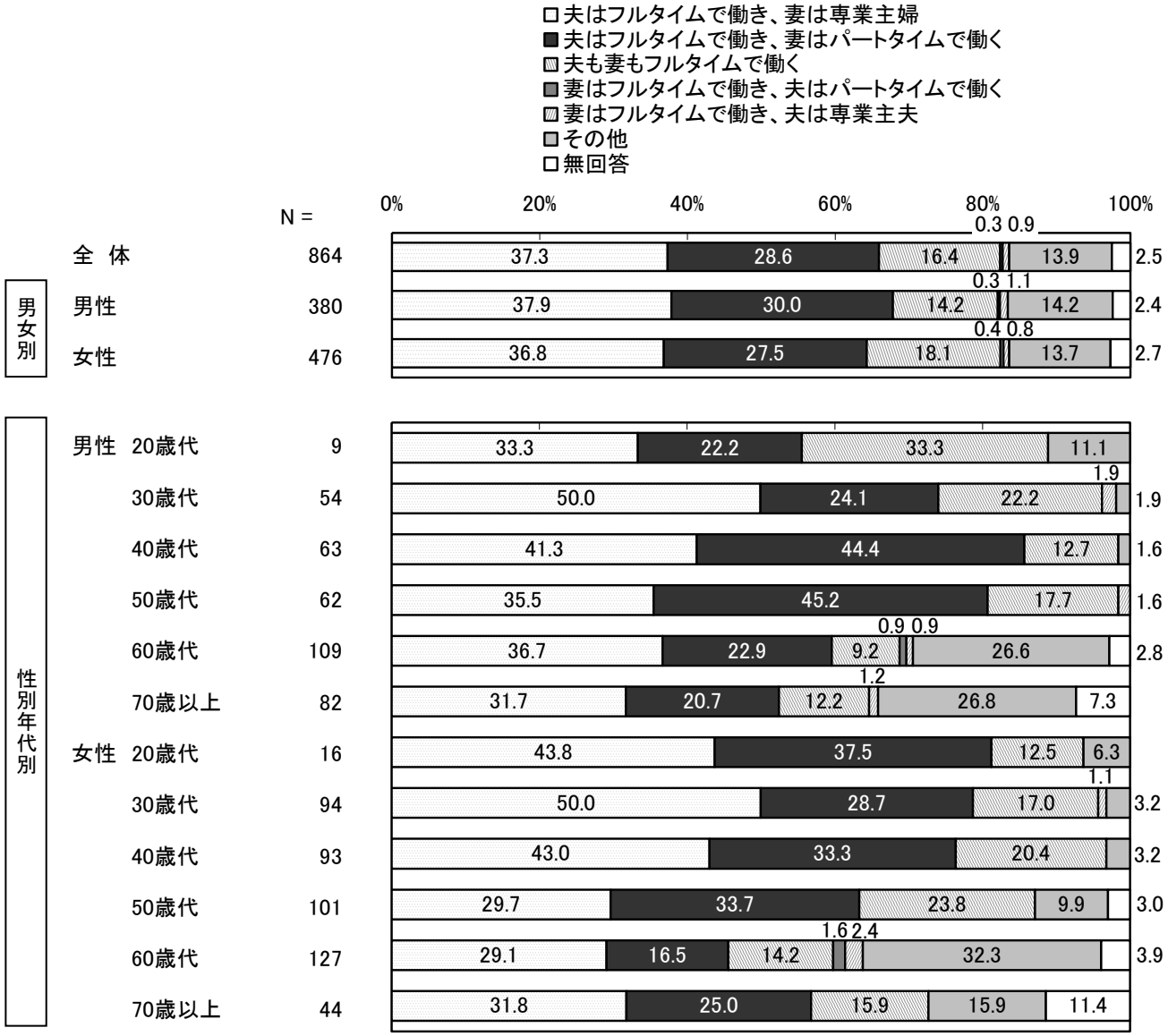
※全国世論調査：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

問７【結婚している方に】勤務形態について、あなたの家庭ではどうなっていますか。（１つ選択）

勤務形態については、「夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦」の割合が 37.3％と最も高く、次いで「夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く」の割合が 28.6％、「夫も妻もフルタイムで働く」の割合が 16.4％となっている。

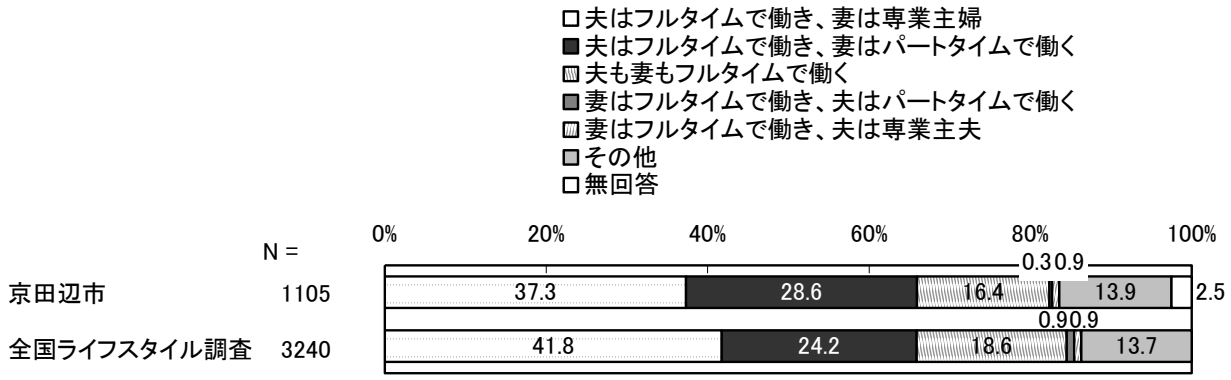
男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、男性で年齢が高くなるにしたがい「夫はフルタイムで働き、妻は専業主婦」の割合が低くなっている。また、男性の 40 歳代、50 歳代で「夫はフルタイムで働き、妻はパートタイムで働く」の割合が高くなっている。



【全国ライフスタイル調査との比較】

全国ライフスタイル調査と比較すると、大きな差異はみられない。



※全国（平成 21 年度）：内閣府　男女のライフスタイルに関する意識調査

問８【会社などにお勤めの方に】あなたは、自分の職場で次のような制度をとりやすいと感じますか。
（それぞれ１～４の数字を選択）

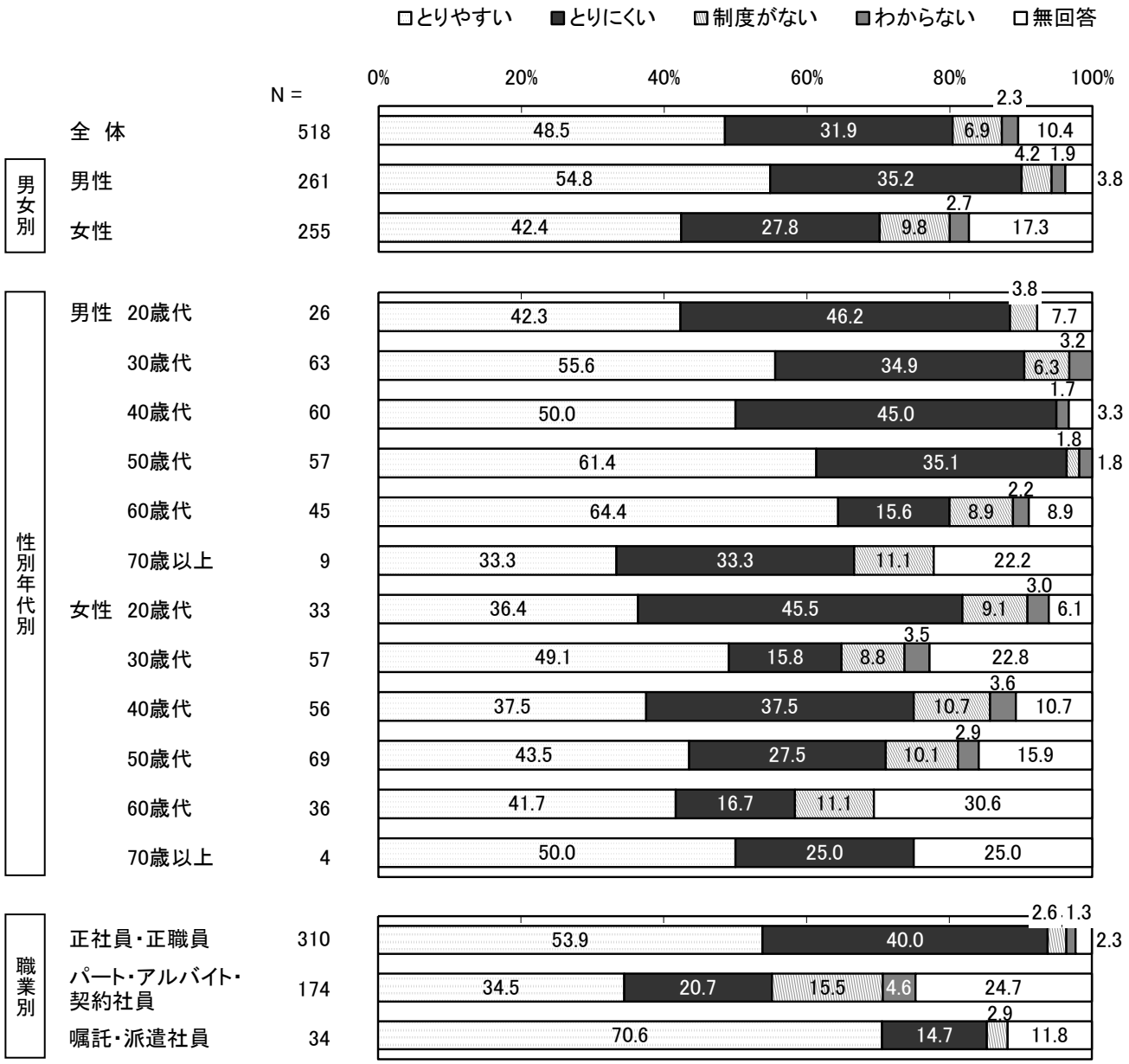
①有給休暇制度

有給休暇制度の取得しやすさについては、「とりやすい」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「とりにくい」の割合が 31.9%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「とりやすい」の割合が高く、5 割を超えている。

性別年代別でみると、男性で年齢が高くなるにしたがい「とりやすい」の割合が高くなっている。また、他に比べ男性の 20 歳代、40 歳代、女性の 20 歳代で「とりにくい」の割合が高くなっている。

職業別でみると、正社員・正職員で「とりにくい」の割合が高くなっている。また、嘱託・派遣社員で「とりやすい」の割合が高く、7 割を超えている。



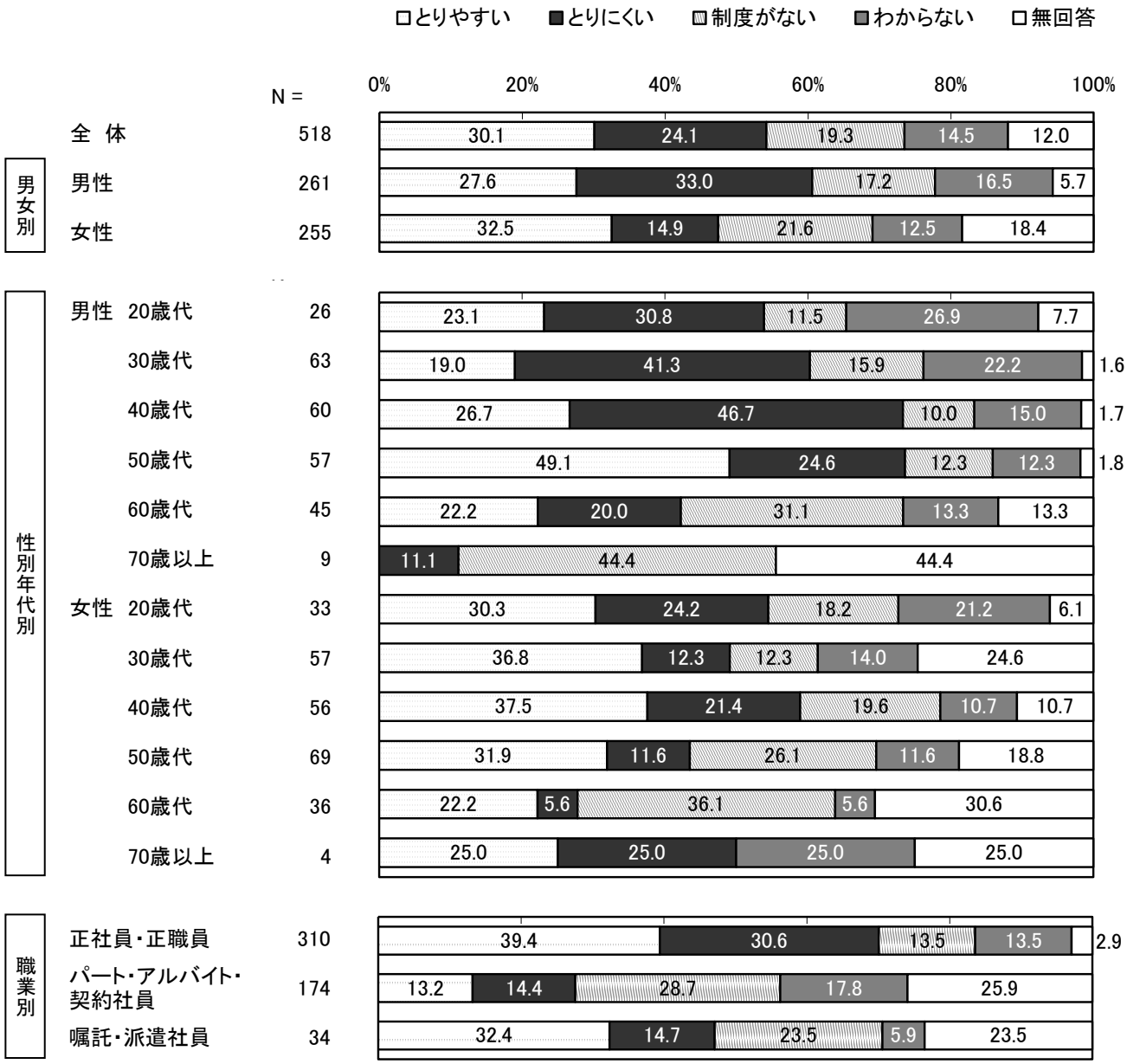
②育児休業制度

育児休業制度の取得しやすさについては、「とりやすい」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「とりにくい」の割合が 24.1%、「制度がない」の割合が 19.3%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「とりにくい」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、40 歳代で「とりにくい」の割合が高くなっている。また、男性の 50 歳代で「とりやすい」の割合が高くなっている。

職業別でみると、正社員・正職員で「とりにくい」の割合が高くなっている。また、パート・アルバイト・契約社員で「とりやすい」の割合が低くなっている。さらに、パート・アルバイト・契約社員、嘱託・派遣社員で「制度がない」の割合が高くなっている。



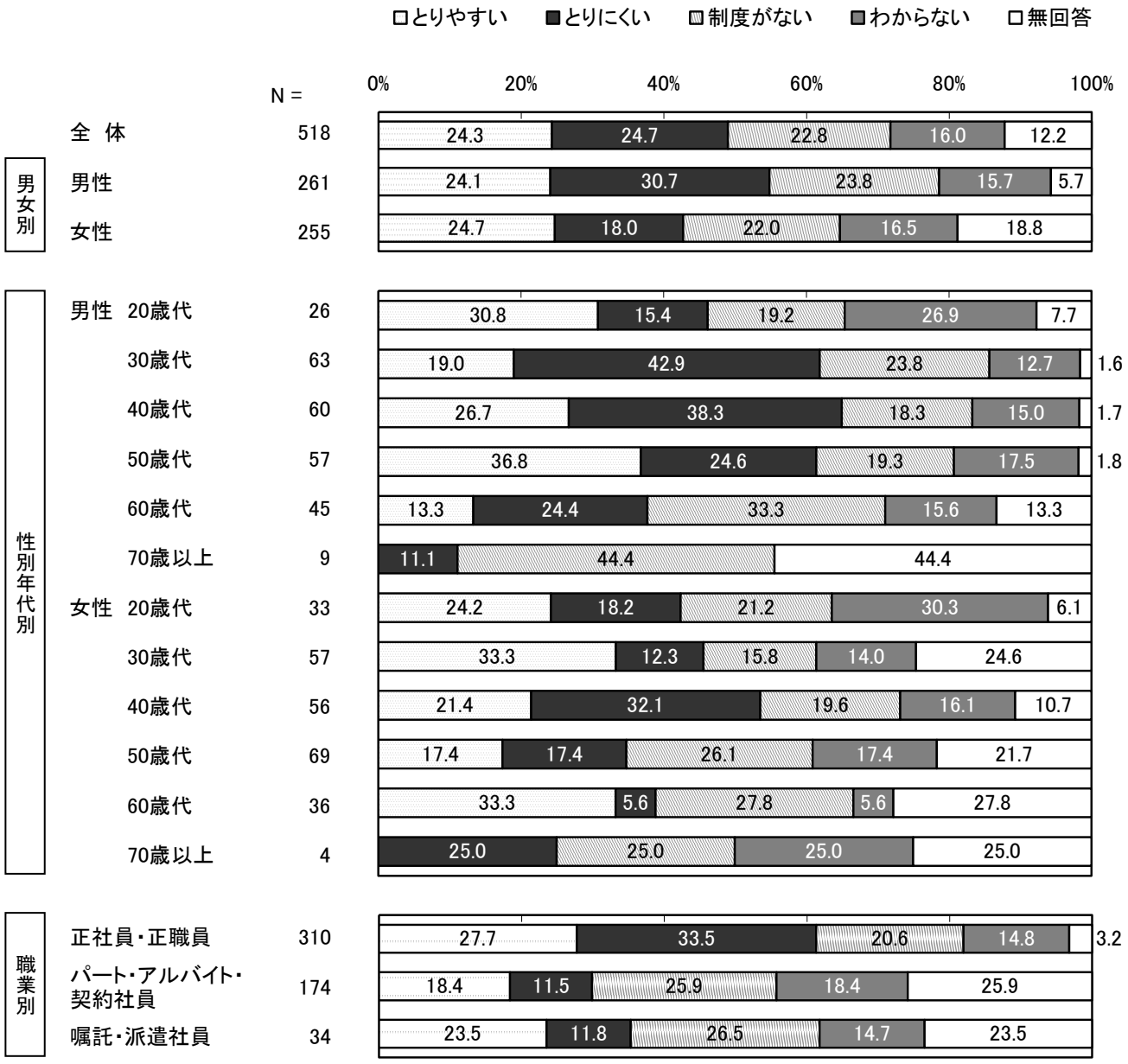
③短時間勤務制度

短時間勤務制度の取得しやすさについては、「とりにくい」の割合が 24.7%と最も高く、次いで「とりやすい」の割合が 24.3%、「制度がない」の割合が 22.8%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「とりにくい」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、40 歳代、女性の 40 歳代で「とりにくい」の割合が高くなっている。

職業別でみると、正社員・正職員で「とりにくい」の割合が高くなっている。



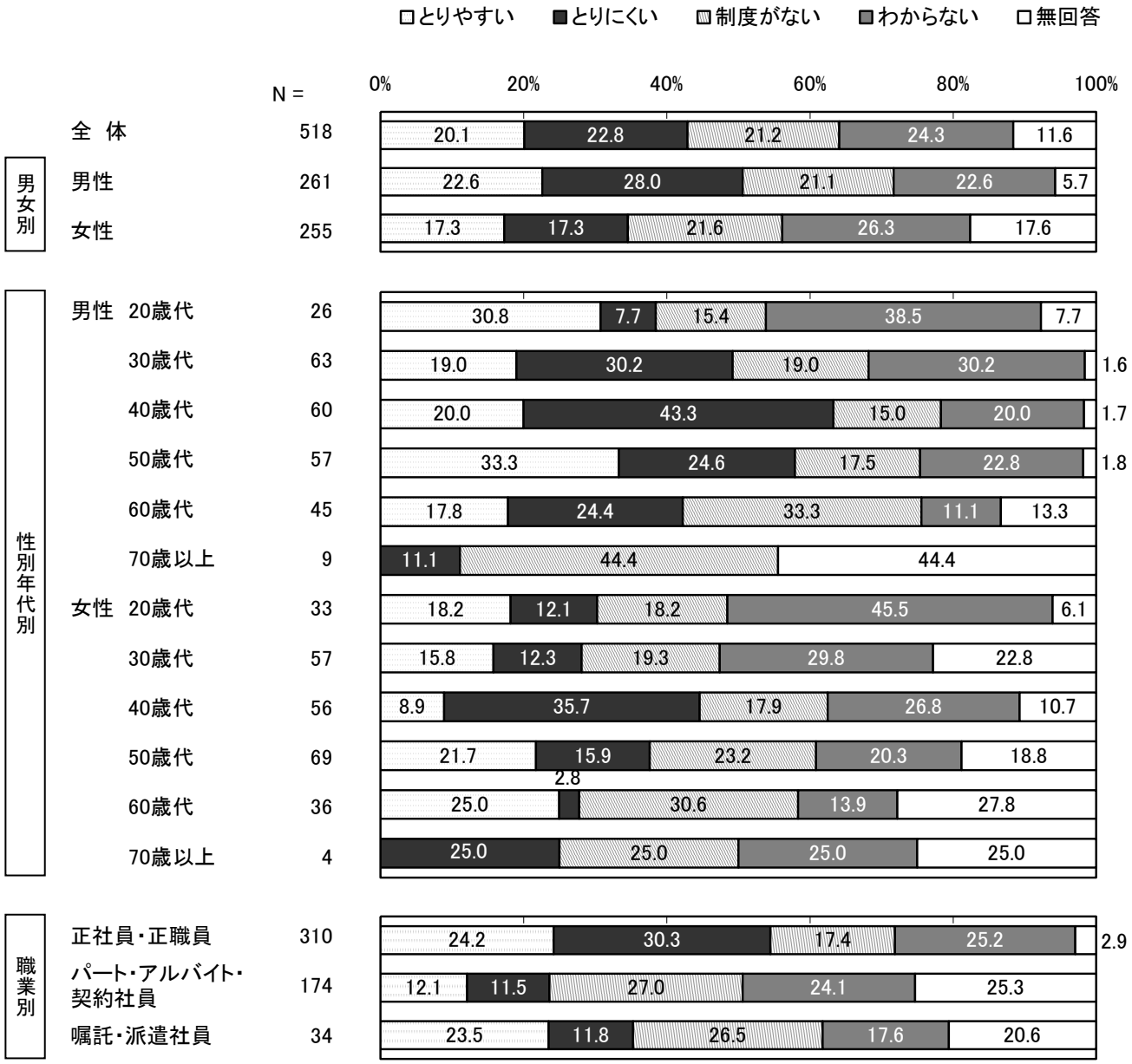
④介護休業制度

介護休業制度の取得しやすさについては、「わからない」の割合が 24.3%と最も高く、次いで「とりにくい」の割合が 22.8%、「制度がない」の割合が 21.2%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「とりにくい」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 30 歳代、40 歳代、女性の 40 歳代で「とりにくい」の割合が高くなっている。

職業別でみると、正社員・正職員で「とりにくい」の割合が高くなっている。また、パート・アルバイト・契約社員で「とりやすい」の割合が低くなっている。さらに、パート・アルバイト・契約社員、嘱託・派遣社員で「制度がない」の割合が高くなっている。



問９【全員の方に】結婚や出産、子育てに際して、あるいは介護をしなければならなくなった時に、男女がともに仕事を続けられるようにするためには、どのようなことが必要だと思われますか。（主なものを３つまで選択）

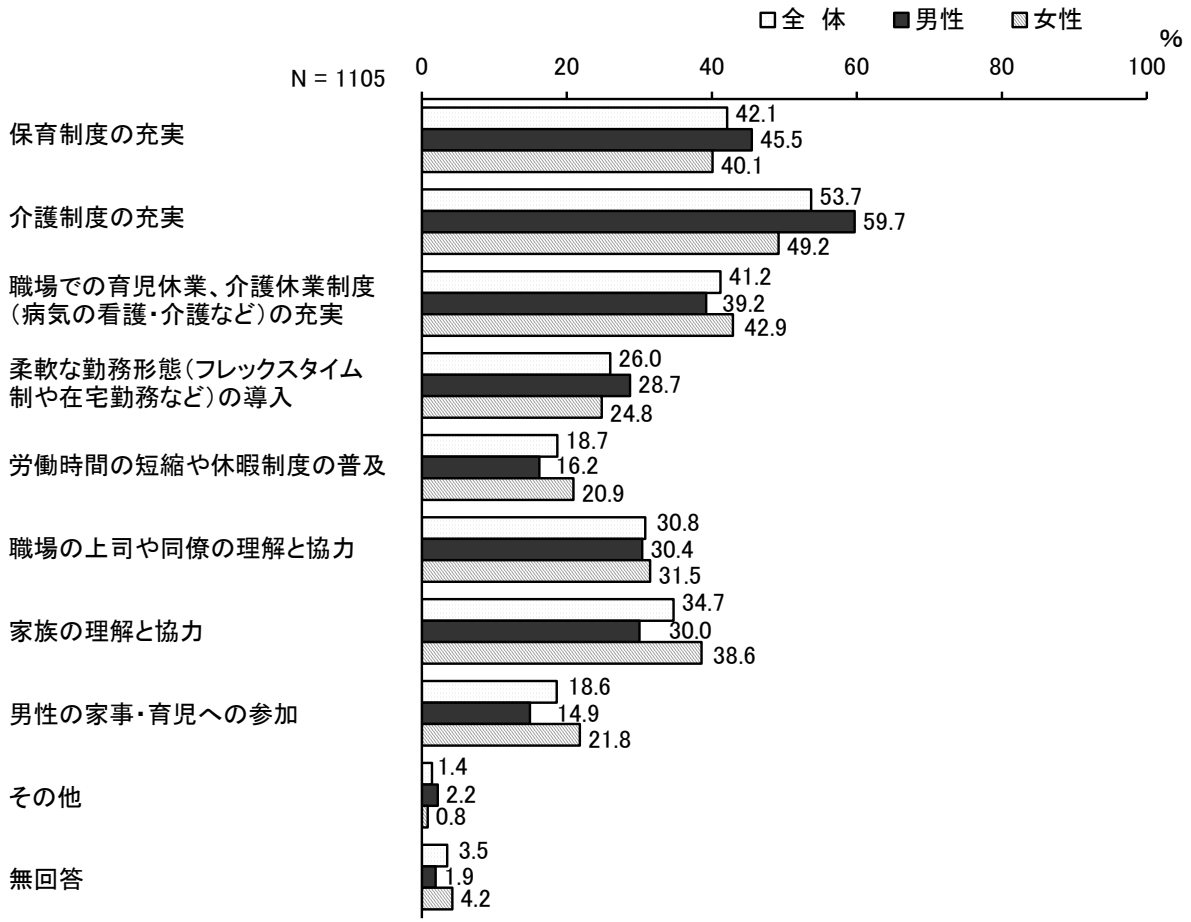
結婚や出産、子育て、介護等しなければならなくなった時にも男女がともに仕事を続けられるために必要なことについては、「介護制度の充実」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「保育制度の充実」の割合が 42.1%、「職場での育児休業、介護休業制度（病気の看護・介護など）の充実」の割合が 41.2%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「介護制度の充実」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「家族の理解と協力」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 50 歳代、70 歳以上で「介護制度の充実」の割合が高く、7 割を超えている。また、男女ともに 20 歳代、30 歳代で「職場の上司や同僚の理解と協力」の割合が高くなっている。さらに、女性の 50 歳代、60 歳代、70 歳以上で「家族の理解と協力」の割合が高くなっている。

末子の年齢別でみると、末子の年齢が高くなるにしたがい「柔軟な勤務形態（フレックスタイム制や在宅勤務など）の導入」、「労働時間の短縮や休暇制度の普及」の割合が低くなる傾向にある。他に比べ末子が中学生、社会人の人で「介護制度の充実」の割合が高く、6 割を超えている。また、乳幼児（１歳未満）、高校生の人で「職場の上司や同僚の理解と協力」の割合が高くなっている。

職業別でみると、自営業・自由業で「介護制度の充実」の割合が高くなっている。また、内職・在宅勤務で「家族の理解と協力」の割合が高く、学生で「柔軟な勤務形態（フレックスタイム制や在宅勤務など）の導入」の割合が高くなっている。



単位：%

		有効回答数（件）	保育制度の充実	介護制度の充実	職場での育児休業、介護休業制度（病気の看護・介護など）の充実	柔軟な勤務形態（フレックスタイム制や在宅勤務など）の導入	労働時間の短縮や休暇制度の普及	職場の上司や同僚の理解と協力	家族の理解と協力	男性の家事・育児への参加	その他	無回答
性別年代別	男性　20歳代	45	42.2	24.4	46.7	40.0	17.8	46.7	35.6	28.9	－	－
	30歳代	76	40.8	42.1	44.7	34.2	18.4	44.7	27.6	19.7	1.3	3.9
	40歳代	71	43.7	53.5	39.4	33.8	28.2	39.4	29.6	11.3	5.6	－
	50歳代	67	55.2	70.1	37.3	31.3	17.9	25.4	29.9	7.5	1.5	－
	60歳代	114	43.9	66.7	44.7	27.2	8.8	22.8	32.5	14.0	1.8	3.5
	70歳以上	89	47.2	79.8	25.8	13.5	12.4	16.9	27.0	12.4	2.2	2.2
	女性　20歳代	58	39.7	29.3	48.3	36.2	34.5	44.8	34.5	15.5	－	3.4
	30歳代	113	52.2	32.7	42.5	36.3	27.4	42.5	35.4	21.2	－	1.8
	40歳代	104	42.3	46.2	50.0	31.7	19.2	31.7	29.8	26.9	1.0	4.8
	50歳代	111	36.0	60.4	45.9	18.0	18.9	35.1	41.4	18.0	2.7	1.8
	60歳代	150	38.7	62.0	34.0	19.3	16.7	22.0	42.0	28.0	－	4.7
	70歳以上	79	29.1	50.6	43.0	11.4	13.9	17.7	48.1	13.9	1.3	10.1
末子の年齢別	乳児（１歳未満）	22	36.4	22.7	40.9	50.0	36.4	50.0	22.7	27.3	4.5	－
	幼児（１歳以上就学前まで）	148	53.4	37.2	41.2	35.8	25.0	37.8	27.0	21.6	1.4	4.1
	小学生	74	43.2	51.4	50.0	28.4	21.6	37.8	33.8	10.8	1.4	2.7
	中学生	36	41.7	69.4	47.2	30.6	13.9	30.6	25.0	27.8	－	2.8
	高校生	36	30.6	50.0	38.9	30.6	16.7	55.6	41.7	25.0	2.8	－
	大学生	58	46.6	58.6	48.3	27.6	15.5	36.2	37.9	10.3	－	1.7
	社会人	458	41.0	63.5	39.3	18.8	16.2	22.7	38.9	17.5	1.1	3.9
職業別	自営業・自由業	73	45.2	64.4	35.6	19.2	13.7	23.3	43.8	13.7	－	5.5
	正社員・正職員	310	48.7	50.3	43.9	31.0	21.9	37.7	28.1	15.5	1.9	1.9
	パート・アルバイト・契約社員	174	38.5	49.4	44.8	23.0	22.4	40.2	35.6	20.7	－	3.4
	嘱託・派遣社員	34	38.2	52.9	38.2	32.4	11.8	44.1	26.5	26.5	－	5.9
	内職・在宅勤務	8	12.5	50.0	37.5	25.0	12.5	25.0	62.5	37.5	－	－
	学生	34	20.6	23.5	47.1	52.9	14.7	50.0	38.2	26.5	－	2.9
	専業主婦・主夫	242	45.0	54.5	44.2	24.8	19.4	23.1	40.5	21.9	0.8	2.5
	その他・無職	198	36.4	63.6	32.3	21.2	15.2	19.7	35.4	15.7	3.0	4.5

４　地域活動・社会活動について

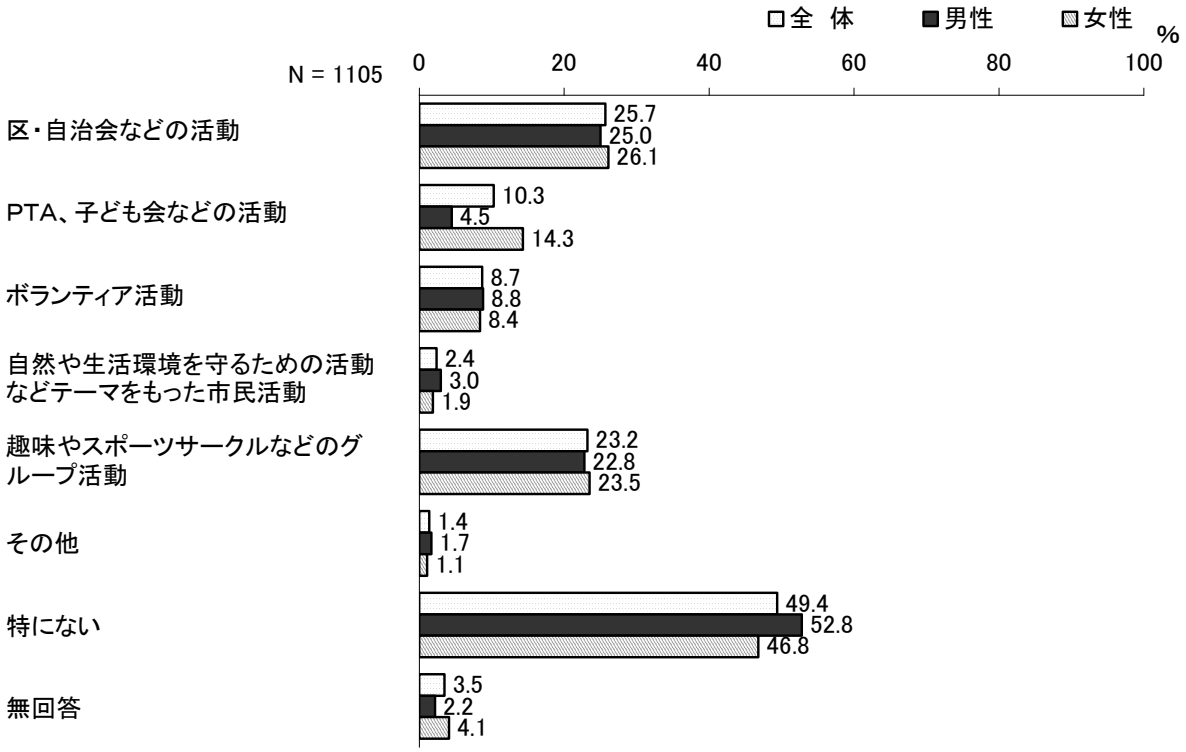
問１０【全員の方に】次のような地域活動・社会活動のうち、現在参加している活動はありますか。（あてはまるものをすべて選択）

地域活動・社会活動のうち、現在参加している活動については、「特にない」の割合が 49.4％と最も高く、次いで「区・自治会などの活動」の割合が 25.7％、「趣味やスポーツサークルなどのグループ活動」の割合が 23.2％となっている。

男女別でみると、男性に比べ女性で「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男女ともに 20 歳代で「特にない」の割合が高く、7 割を超えている。また、女性の 30 歳代、40 歳代で「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が高くなっている。

職業別でみると、大きな差異はみられない。



単位：%

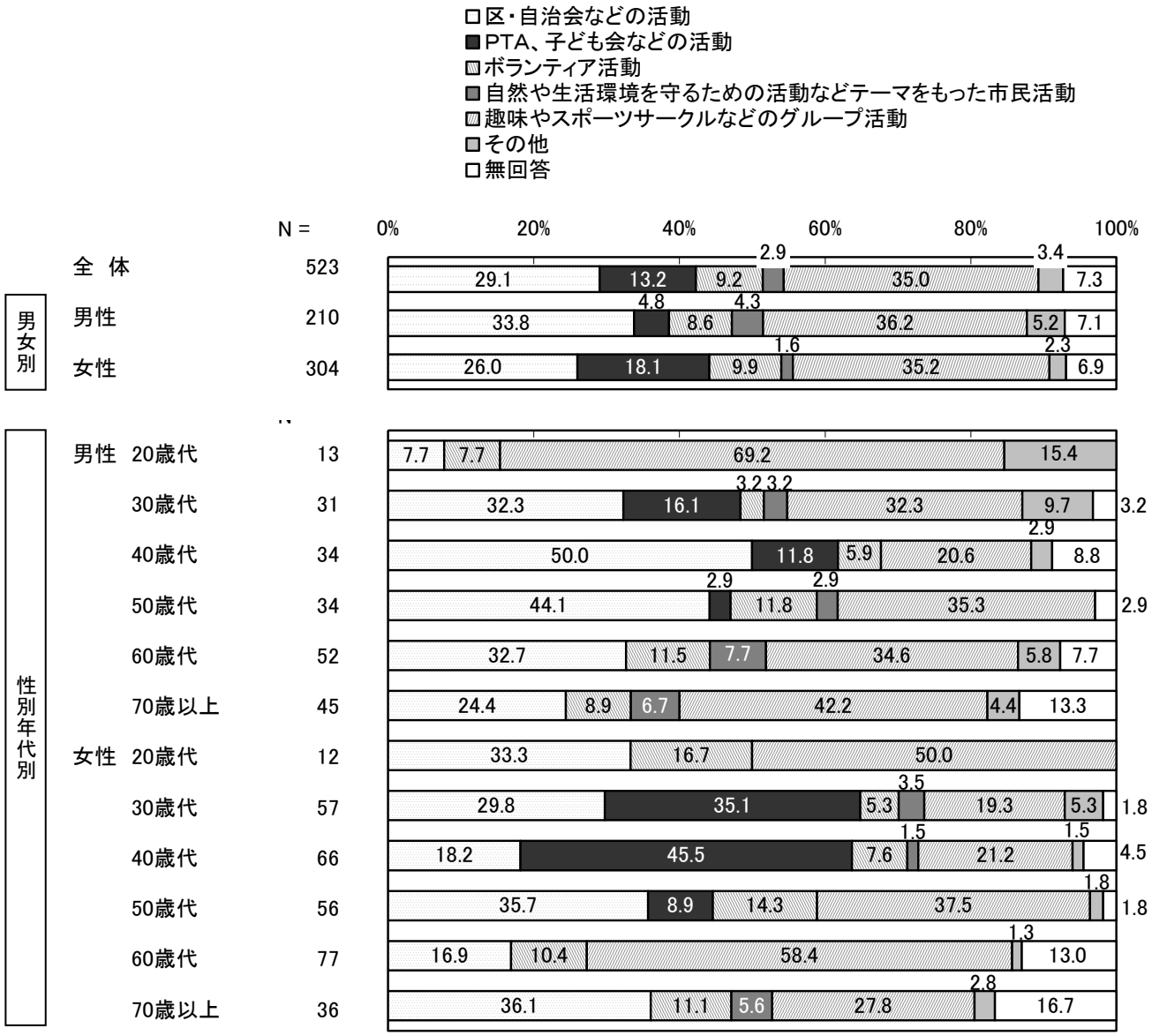
		有効回答数（件）	区・自治会などの活動	ＰＴＡ、子ども会などの活動	ボランティア活動	自然や生活環境を守るための活動などテーマをもった市民活動	趣味やスポーツサークルなどのグループ活動	その他	特にない	無回答
性別年代別	男性　20歳代	45	4.4	－	2.2	－	24.4	－	71.1	－
	30歳代	76	21.1	10.5	3.9	1.3	14.5	2.6	57.9	1.3
	40歳代	71	31.0	12.7	7.0	1.4	19.7	1.4	52.1	－
	50歳代	67	31.3	1.5	10.4	4.5	20.9	－	49.3	－
	60歳代	114	28.1	2.6	11.4	5.3	23.7	2.6	52.6	1.8
	70歳以上	89	25.8	－	13.5	3.4	31.5	2.2	42.7	7.9
	女性　20歳代	58	8.6	1.7	5.2	－	13.8	－	79.3	－
	30歳代	113	28.3	28.3	4.4	1.8	11.5	1.8	47.8	1.8
	40歳代	104	33.7	39.4	9.6	1.9	25.0	1.0	35.6	1.0
	50歳代	111	28.8	8.1	9.0	0.9	24.3	－	45.9	3.6
	60歳代	150	21.3	2.0	12.0	2.0	36.7	2.0	43.3	6.0
	70歳以上	79	31.6	2.5	7.6	5.1	20.3	1.3	43.0	11.4
職業別	自営業・自由業	73	28.8	－	16.4	8.2	26.0	2.7	42.5	5.5
	正社員・正職員	310	26.8	8.7	5.5	2.3	19.4	1.0	54.8	0.3
	パート・アルバイト・契約社員	174	29.9	17.8	8.0	1.7	23.0	0.6	44.3	2.3
	嘱託・派遣社員	34	26.5	5.9	5.9	－	26.5	－	52.9	－
	内職・在宅勤務	8	12.5	25.0	－	12.5	25.0	－	37.5	－
	学生	34	－	－	8.8	－	20.6	－	76.5	－
	専業主婦・主夫	242	26.9	17.4	11.2	1.2	26.4	2.1	41.3	6.2
	その他・無職	198	22.7	3.0	9.1	3.0	23.7	2.0	53.0	6.1

問１１－１【問１０で「区・自治会などの活動」～「その他」を１つ以上選択された方に】あなたが主に参加している地域活動・社会活動はどれですか。（主なものを１つ選択）

主に参加している地域活動・社会活動については、「趣味やスポーツサークルなどのグループ活動」の割合が 35.0%と最も高く、次いで「区・自治会などの活動」の割合が 29.1%、「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が 13.2%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「区・自治会などの活動」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 40 歳代で「区・自治会などの活動」の割合が高く、5 割となっている。また、女性の 30 歳代、40 歳代で「ＰＴＡ、子ども会などの活動」の割合が高くなっている。さらに、女性の 20 歳代、60 歳代で「趣味やスポーツサークルなどのグループ活動」の割合が高く、5 割を超えている。



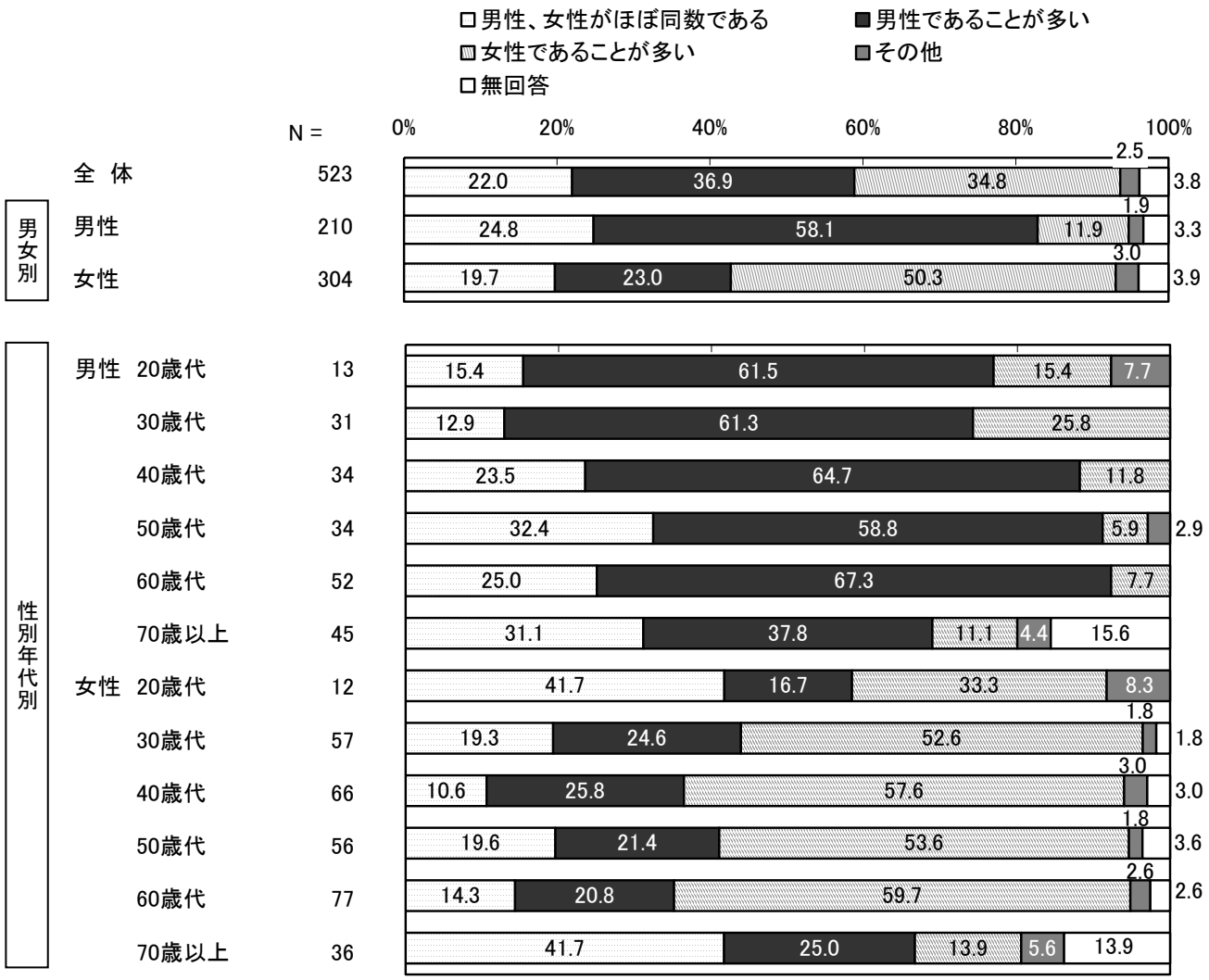
問１１－２【問１０で「区・自治会などの活動」～「その他」を１つ以上選択された方に】あなたが主に参加している地域活動・社会活動のリーダーや重要な意思決定に係わる役員の現状はどのようになっていますか。（１つ選択）

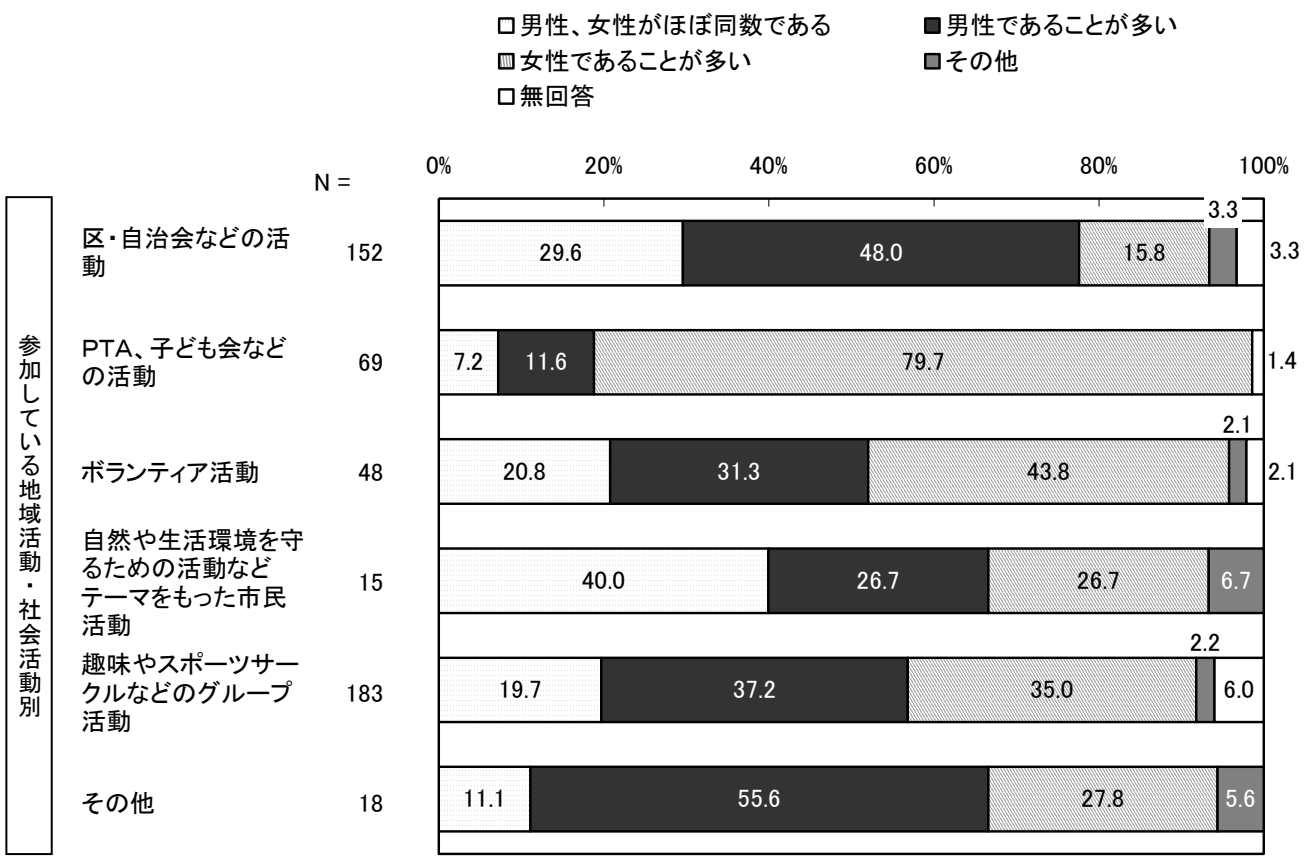
主に参加している地域活動・社会活動のリーダーや重要な意思決定に係わる役員の現状については、「男性であることが多い」の割合が 36.9%と最も高く、次いで「女性であることが多い」の割合が 34.8%、「男性、女性がほぼ同数である」の割合が 22.0%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「男性、女性がほぼ同数である」「男性であることが多い」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「女性であることが多い」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 20 歳代、30 歳代、40 歳代、60 歳代で「男性であることが多い」の割合が高く、6 割を超えている。また、女性の 30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代で「女性であることが多い」の割合が高く、5 割を超えている。さらに、女性の 20 歳代、70 歳以上で「男性、女性がほぼ同数である」の割合が高くなっている。

参加している地域活動・社会活動別でみると、他に比べ自然や生活環境などを守るための活動などテーマをもった市民活動で「男性、女性がほぼ同数である」の割合が高くなっている。また、区・自治会などの活動、その他で「男性であることが多い」の割合が高くなっている。さらに、ＰＴＡ、子ども会などの活動で「女性であることが多い」の割合が高く、約 8 割となっている。




□男性、女性がほぼ同数である
■男性であることが多い
▨女性であることが多い
▩その他
□無回答
参加している地域活動・社会活動別
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
区・自治会などの活動
152
29.6
48.0
15.8
3.3
3.3
PTA、子ども会などの活動
69
7.2
11.6
79.7
1.4
ボランティア活動
48
20.8
31.3
43.8
2.1
2.1
自然や生活環境を守るための活動などテーマをもった市民活動
15
40.0
26.7
26.7
6.7
趣味やスポーツサークルなどのグループ活動
183
19.7
37.2
35.0
2.2
6.0
その他
18
11.1
55.6
27.8
5.6

問１１－３【問１１－２で「男性であることが多い」又は「女性であることが多い」を選択された方に】それはなぜだと思われますか。（近いものを１つ選択）

男性又は女性であることが多いと思う理由については、「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから」の割合が 18.7%、「男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから」の割合が 12.0%となっている。

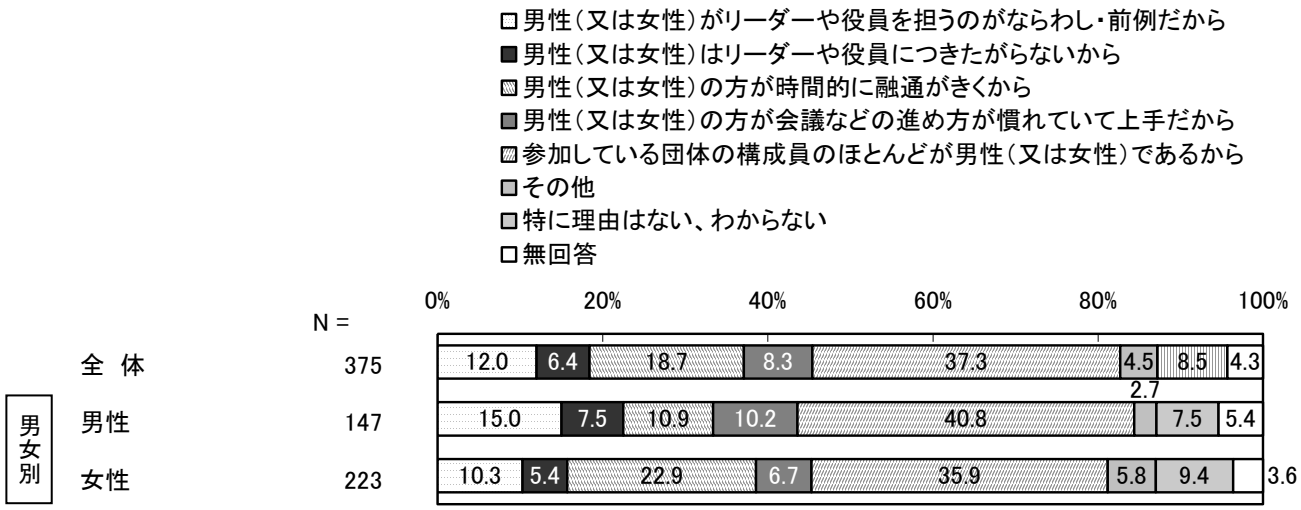
男女別でみると、男性に比べ女性で「男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから」の割合が高くなっている。

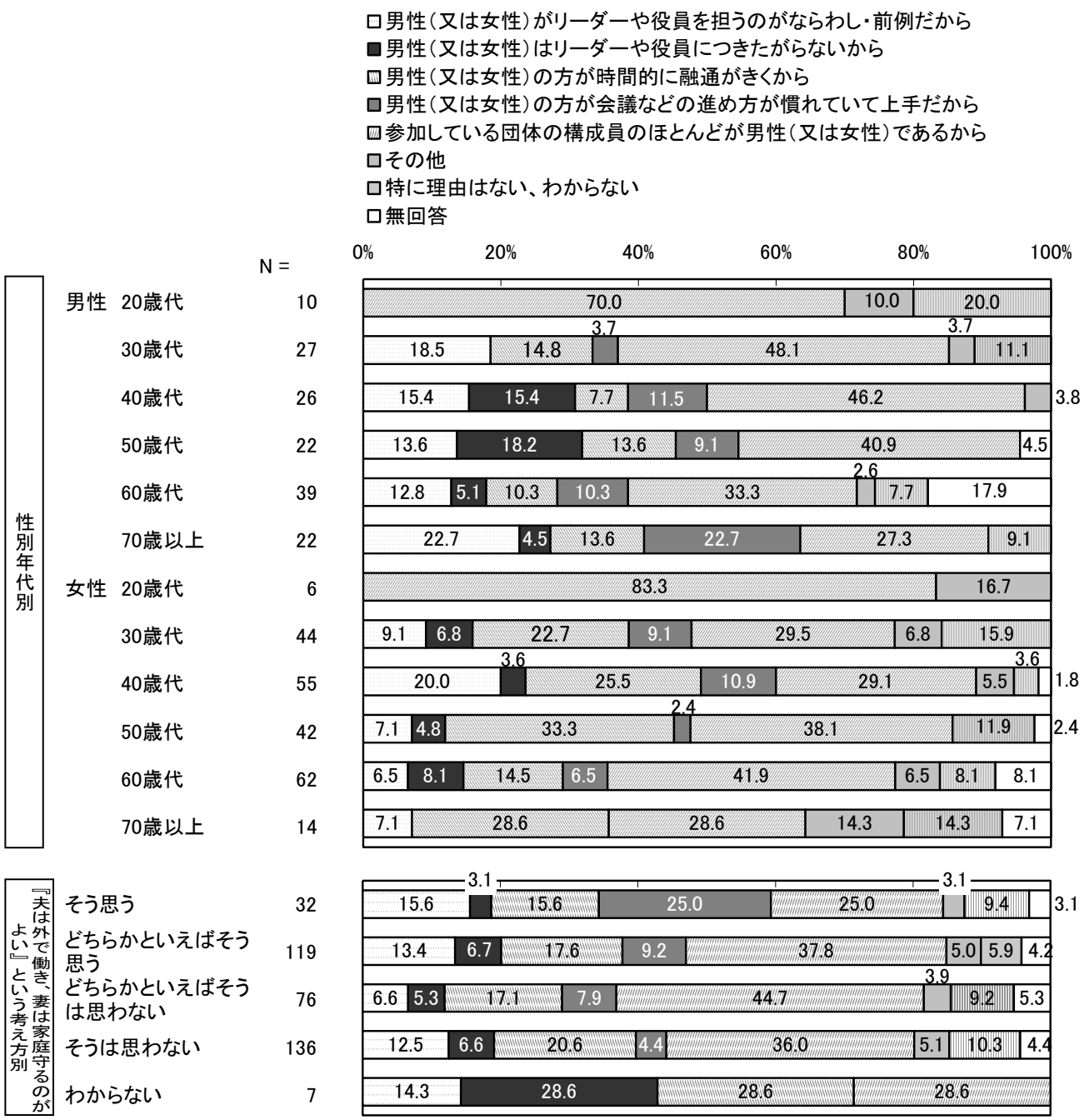
性別年代別でみると、他に比べ男性の 20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、女性の 60 歳代で「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が高く、4 割を超えている。また、男性の 70 歳以上、女性の 40 歳代で「男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから」の割合が高くなっている。

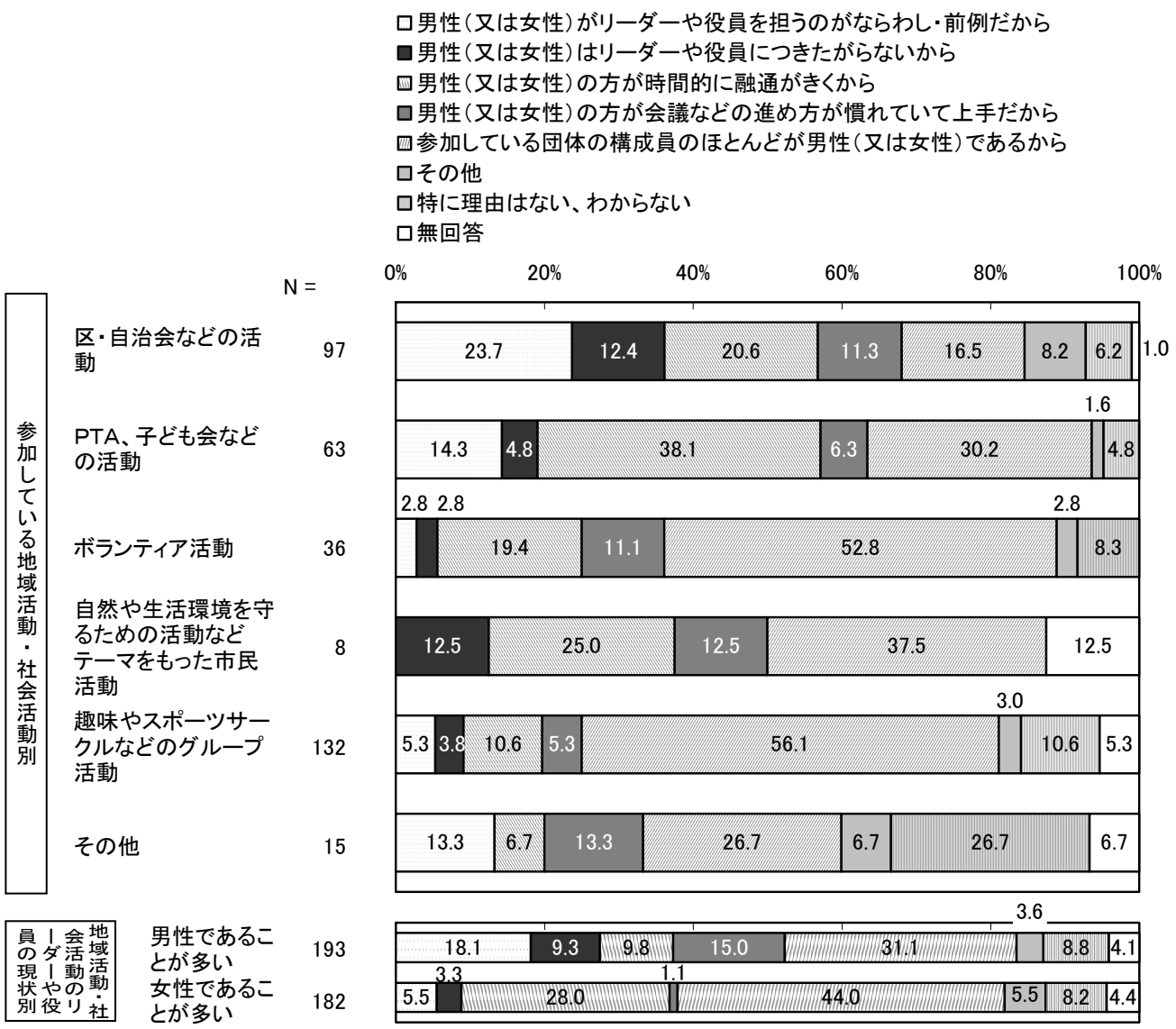
『夫は外で働き、妻は家庭守るのがよい』という考え方別でみると、他に比べそう思う人で「男性（又は女性）の方が会議などの進め方が慣れていて上手だから」の割合が高くなっている。また、どちらかといえばそうは思わない人で「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が高くなっている。

参加している地域活動・社会活動別でみると、他に比べ区・自治会などの活動で「男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから」の割合が高くなっている。また、ＰＴＡ、子ども会などの活動で「男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから」の割合が高くなっている。さらに、ボランティア活動、趣味やスポーツサークルなどのグループ活動で「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が高く、5 割を超えている。

地域活動・社会活動のリーダーや役員の現状別でみると、他に比べ男性であることが多い地域活動・社会活動で「男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから」、「男性（又は女性）の方が会議などの進め方が慣れていて上手だから」の割合が高くなっている。また、女性であることが多い地域活動・社会活動で「男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから」、「参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから」の割合が高くなっている。




□男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから
■男性（又は女性）はリーダーや役員につきたがらないから
▨男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから
■男性（又は女性）の方が会議などの進め方が慣れていて上手だから
▨参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから
■その他
■特に理由はない、わからない
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
性別年代別
男性 20歳代 10
30歳代 27
40歳代 26
50歳代 22
60歳代 39
70歳以上 22
女性 20歳代 6
30歳代 44
40歳代 55
50歳代 42
60歳代 62
70歳以上 14
『夫は外で働き、妻は家庭守るのがよい』という考え方別
そう思う 32
どちらかといえばそう思う 119
どちらかといえばそうは思わない 76
そうは思わない 136
わからない 7


□男性（又は女性）がリーダーや役員を担うのがならわし・前例だから
■男性（又は女性）はリーダーや役員につきたがらないから
▨男性（又は女性）の方が時間的に融通がきくから
■男性（又は女性）の方が会議などの進め方が慣れていて上手だから
▨参加している団体の構成員のほとんどが男性（又は女性）であるから
■その他
■特に理由はない、わからない
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
参加している地域活動・社会活動別
区・自治会などの活動
97
23.7 12.4 20.6 11.3 16.5 8.2 6.2 1.0
PTA、子ども会などの活動
63
14.3 4.8 38.1 6.3 30.2 1.6 4.8
ボランティア活動
36
2.8 2.8 19.4 11.1 52.8 2.8 8.3
自然や生活環境を守るための活動などテーマをもった市民活動
8
12.5 25.0 12.5 37.5 12.5
趣味やスポーツサークルなどのグループ活動
132
5.3 3.8 10.6 5.3 56.1 3.0 10.6 5.3
その他
15
13.3 6.7 13.3 26.7 6.7 26.7 6.7
地域活動・社会活動のリーダーや役員の現状別
男性であることが多い
193
18.1 9.3 9.8 15.0 31.1 3.6 8.8 4.1
女性であることが多い
182
5.5 3.3 28.0 1.1 44.0 5.5 8.2 4.4

問１２－１【全員の方に】地域活動において「女性もリーダーや重要な意思決定に係わる役員になって、方針を決める場に積極的に参加していくべきだ」という意見があります。あなたは、このような意見についてどのように思われますか。（１つ選択）

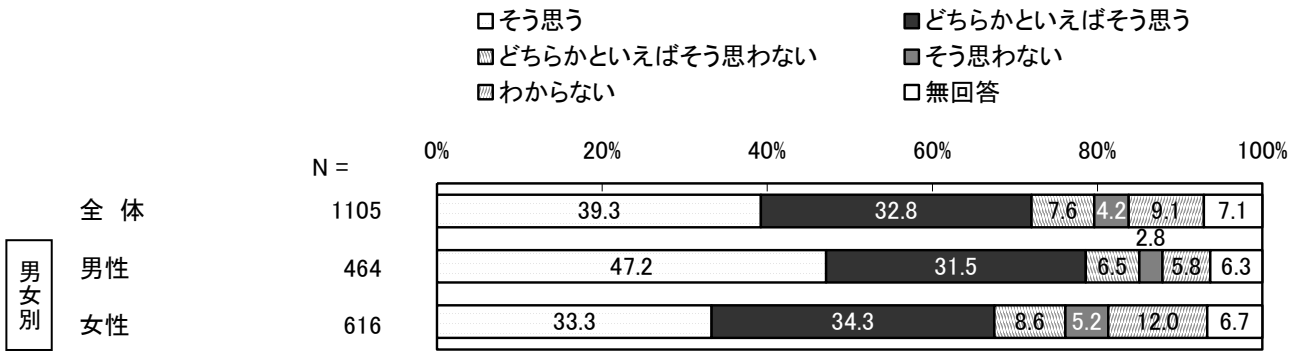
地域活動において「女性もリーダーや重要な意思決定に係わる役員になって、方針を決める場に積極的に参加していくべきだ」という意見については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 72.1%となっている。また、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた否定する人の割合が 11.8%となっている。

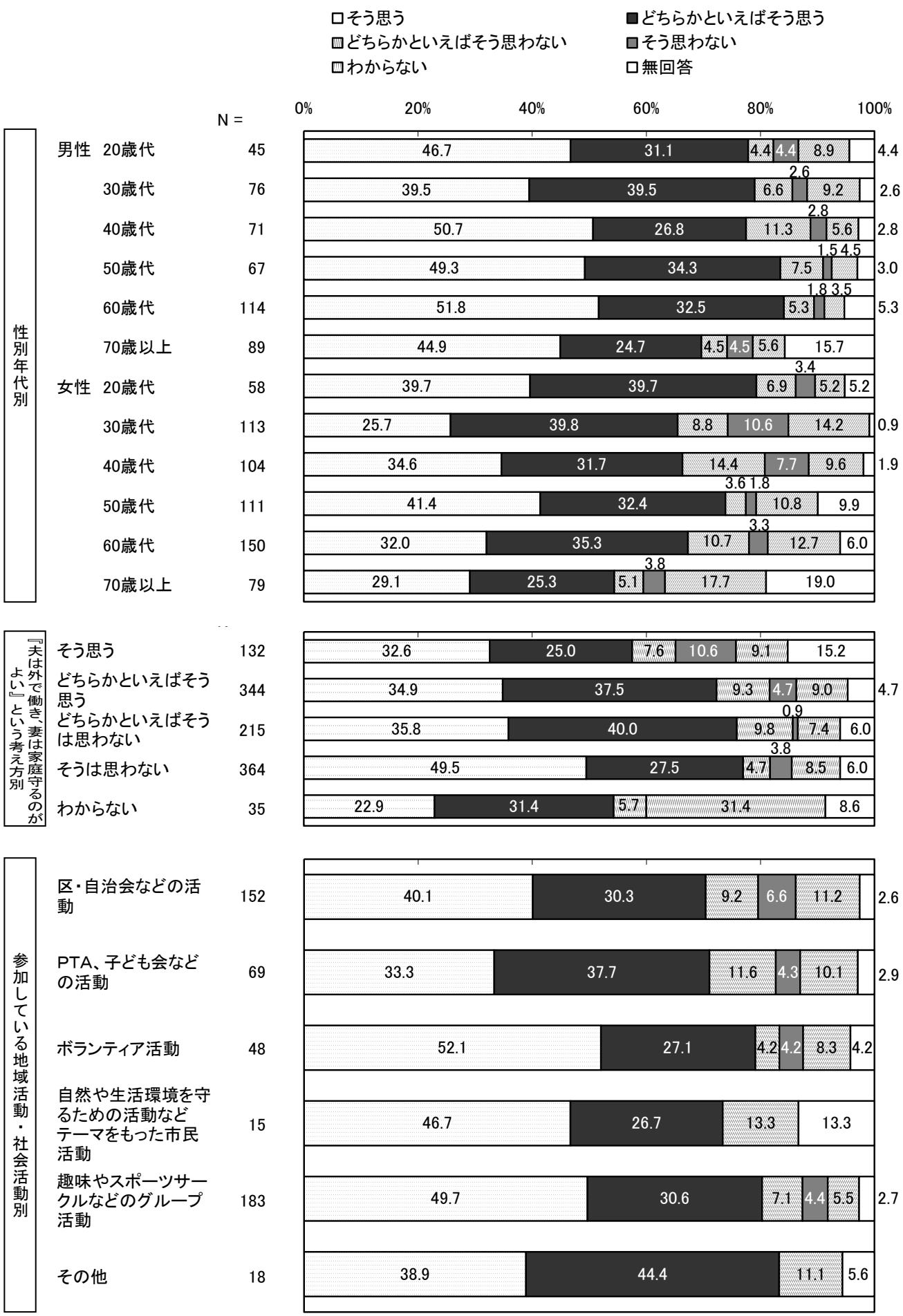
男女別でみると、女性に比べ男性で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 50 歳代、60 歳代で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高く、8 割を超えている。また、男性の 40 歳代、60 歳代で「そう思う」の割合が高く、5 割を超えている。さらに、女性の 40 歳代で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた否定する人の割合が高くなっている。

『夫は外で働き、妻は家庭守るのがよい』という考え方別でみると、肯定する人に比べ否定する人で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が高くなっている。

参加している地域活動・社会活動別でみると、他に比べ区・自治会などの活動、ＰＴＡ、子ども会などの活動で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が低くなっている。



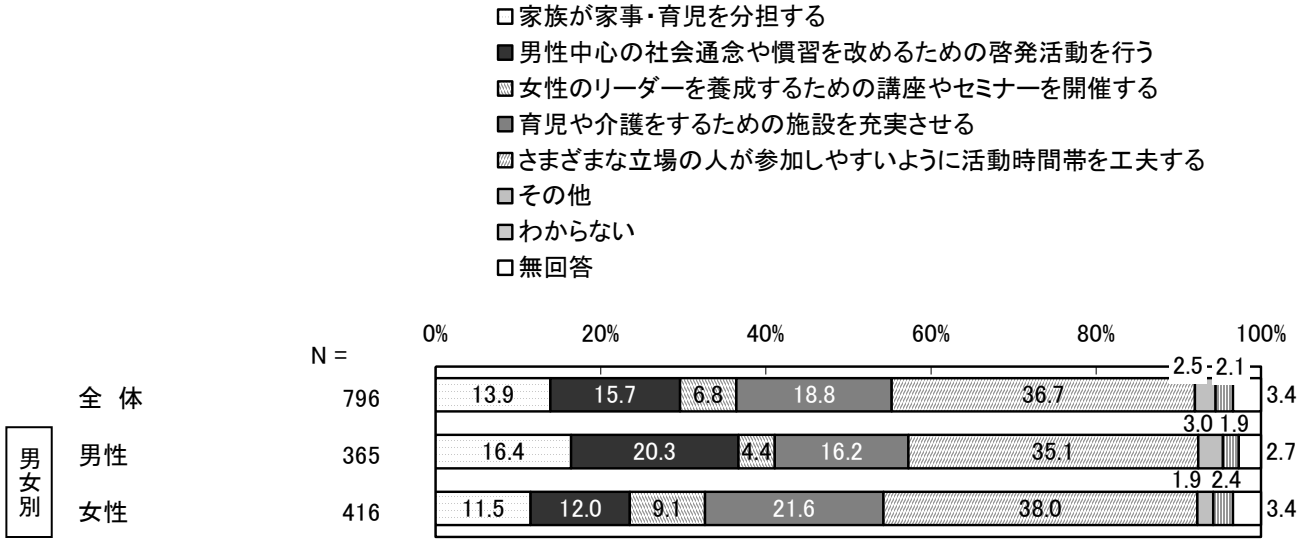

□そう思う
■どちらかといえばそう思う
▨どちらかといえばそう思わない
▩そう思わない
□わからない
□無回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
N =
性別年代別
男性 20歳代 45 46.7 31.1 4.4 4.4 8.9 4.4
30歳代 76 39.5 39.5 6.6 2.6 9.2 2.6
40歳代 71 50.7 26.8 11.3 2.8 5.6 2.8
50歳代 67 49.3 34.3 7.5 1.5 4.5 3.0
60歳代 114 51.8 32.5 5.3 1.8 3.5 5.3
70歳以上 89 44.9 24.7 4.5 4.5 5.6 15.7
女性 20歳代 58 39.7 39.7 6.9 3.4 5.2 5.2
30歳代 113 25.7 39.8 8.8 10.6 14.2 0.9
40歳代 104 34.6 31.7 14.4 7.7 9.6 1.9
50歳代 111 41.4 32.4 3.6 1.8 10.8 9.9
60歳代 150 32.0 35.3 10.7 3.3 12.7 6.0
70歳以上 79 29.1 25.3 5.1 3.8 17.7 19.0
『夫は外で働き、妻は家庭守るのがよい』という考え方別
そう思う 132 32.6 25.0 7.6 10.6 9.1 15.2
どちらかといえばそう思う 344 34.9 37.5 9.3 4.7 9.0 4.7
どちらかといえばそうは思わない 215 35.8 40.0 9.8 0.9 7.4 6.0
そうは思わない 364 49.5 27.5 4.7 3.8 8.5 6.0
わからない 35 22.9 31.4 5.7 31.4 8.6
参加している地域活動・社会活動別
区・自治会などの活動 152 40.1 30.3 9.2 6.6 11.2 2.6
PTA、子ども会などの活動 69 33.3 37.7 11.6 4.3 10.1 2.9
ボランティア活動 48 52.1 27.1 4.2 4.2 8.3 4.2
自然や生活環境を守るための活動などテーマをもった市民活動 15 46.7 26.7 13.3 13.3
趣味やスポーツサークルなどのグループ活動 183 49.7 30.6 7.1 4.4 5.5 2.7
その他 18 38.9 44.4 11.1 5.6

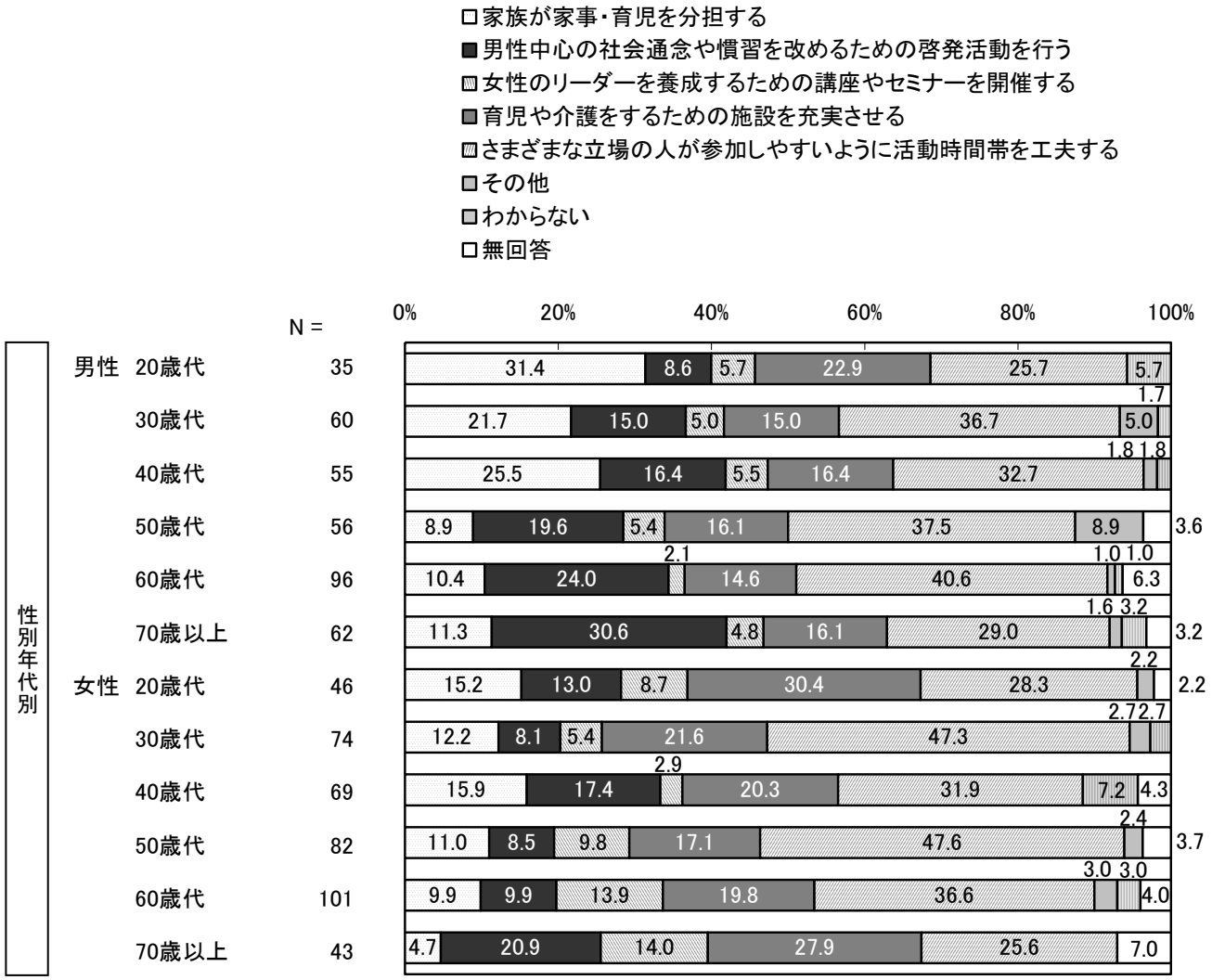
問１２－２【問１２－１で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」を選択された方に】地域活動において女性の参画を進めるためには、どのようなことが必要だと思われますか。（近いものを１つ選択）

地域活動において女性の参画を進めるために必要なことについては、「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間帯を工夫する」の割合が 36.7%と最も高く、次いで「育児や介護をするための施設を充実させる」の割合が 18.8%、「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を行う」の割合が 15.7%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を行う」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「育児や介護をするための施設を充実させる」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 20 歳代、40 歳代で「家族が家事・育児を分担する」の割合が高くなっている。また、男性の 70 歳以上で「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を行う」の割合が、女性の 20 歳代で「育児や介護をするための施設を充実させる」の割合が高くなっている。さらに、男性の 60 歳代、女性の 30 歳代、50 歳代で「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間帯を工夫する」の割合が高くなっている。




□家族が家事・育児を分担する
■男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を行う
▨女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する
▩育児や介護をするための施設を充実させる
▨さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間帯を工夫する
▩その他
□わからない
□無回答
N =
0%
20%
40%
60%
80%
100%
性別年代別
男性 20歳代 35 31.4 8.6 5.7 22.9 25.7 5.7 1.7
30歳代 60 21.7 15.0 5.0 15.0 36.7 5.0 1.8 1.8
40歳代 55 25.5 16.4 5.5 16.4 32.7
50歳代 56 8.9 19.6 5.4 16.1 37.5 8.9 3.6
60歳代 96 10.4 24.0 2.1 14.6 40.6 1.0 1.0 6.3
70歳以上 62 11.3 30.6 4.8 16.1 29.0 1.6 3.2 3.2
女性 20歳代 46 15.2 13.0 8.7 30.4 28.3 2.2 2.2
30歳代 74 12.2 8.1 5.4 21.6 47.3 2.7 2.7
40歳代 69 15.9 17.4 2.9 20.3 31.9 7.2 4.3
50歳代 82 11.0 8.5 9.8 17.1 47.6 2.4 3.7
60歳代 101 9.9 9.9 13.9 19.8 36.6 3.0 3.0 4.0
70歳以上 43 4.7 20.9 14.0 27.9 25.6 7.0

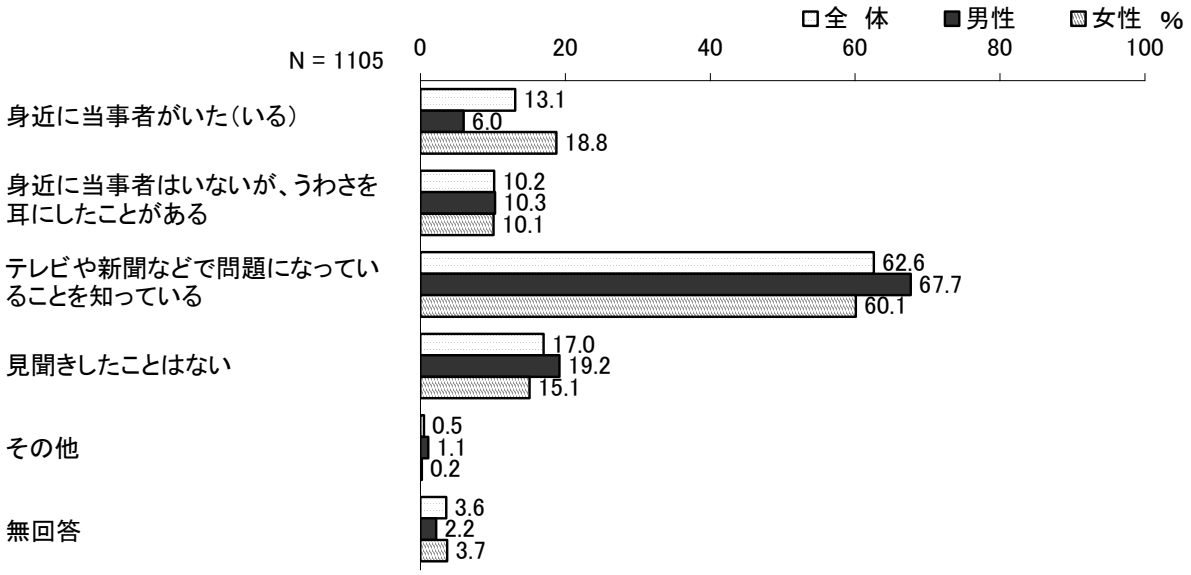
５　配偶者間の暴力について

問１３【全員の方に】あなたは配偶者間の暴力を身近に見たり、聞いたりしたことがありますか。（あてはまるものをすべて選択）

配偶者間の暴力を身近に見たり、聞いたりしたことについては、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が 62.6％と最も高く、次いで「見聞きしたことはない」の割合が 17.0％、「身近に当事者がいた（いる）」の割合が 13.1％となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の人の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「身近に当事者がいた（いる）」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 30 歳代、40 歳代、50 歳代で「身近に当事者がいた（いる）」の割合が高くなっている。また、男性の 40 歳代、50 歳代で「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が高く、7 割を超えている。



単位：%

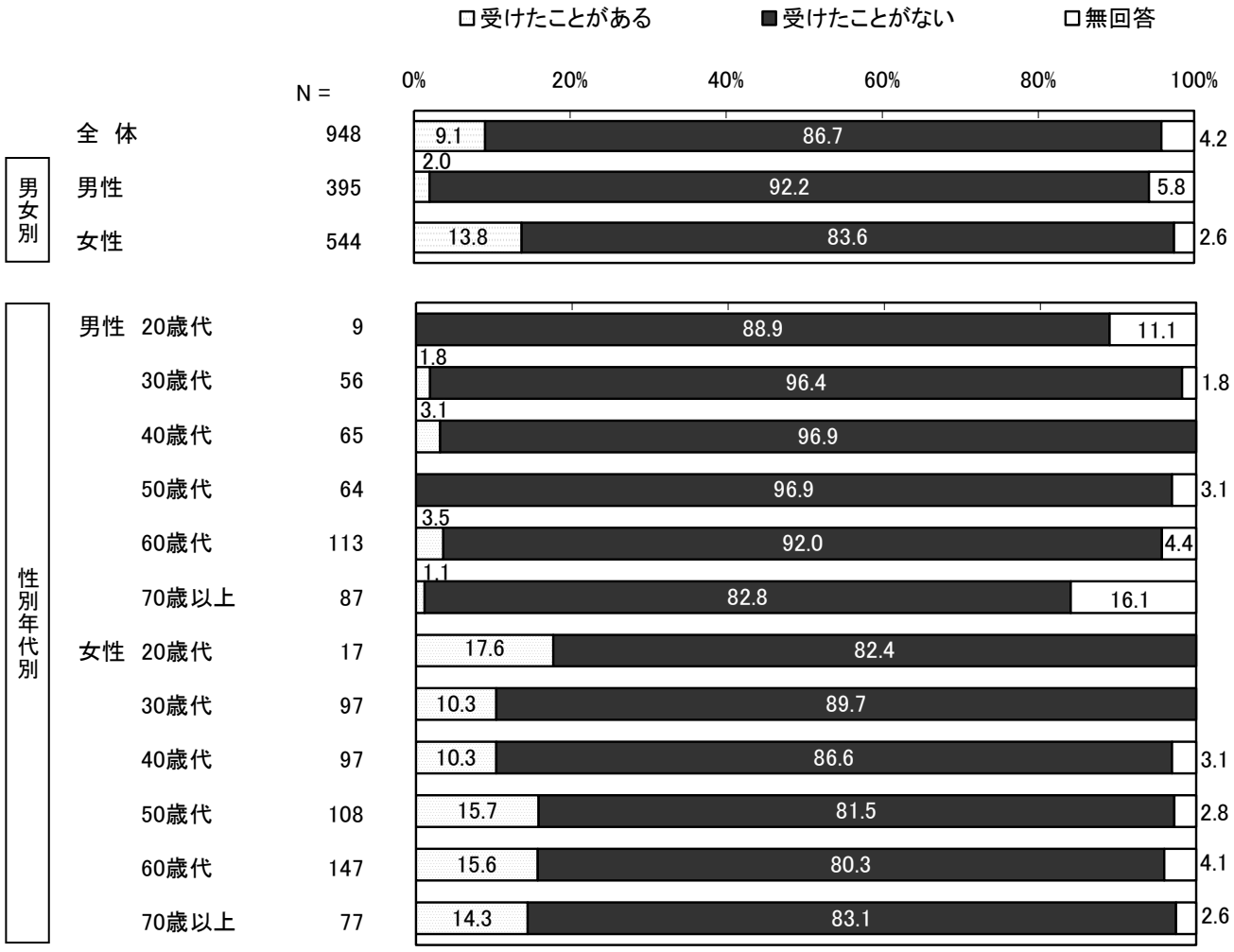
		有効回答数（件）	身近に当事者がいた（いる）	身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある	テレビや新聞などで問題になっていることを知っている	見聞きしたことはない	その他	無回答
性別年代別	男性　20歳代	45	8.9	6.7	60.0	24.4	－	2.2
	30歳代	76	11.8	9.2	65.8	17.1	－	1.3
	40歳代	71	8.5	14.1	74.6	11.3	2.8	－
	50歳代	67	3.0	13.4	74.6	16.4	－	－
	60歳代	114	4.4	9.6	65.8	24.6	1.8	0.9
	70歳以上	89	2.2	9.0	64.0	20.2	1.1	7.9
	女性　20歳代	58	17.2	10.3	69.0	10.3	－	1.7
	30歳代	113	23.0	8.8	59.3	13.3	－	－
	40歳代	104	21.2	14.4	63.5	12.5	－	2.9
	50歳代	111	23.4	7.2	56.8	18.9	－	1.8
	60歳代	150	15.3	4.7	62.0	16.0	－	6.0
	70歳以上	79	11.4	20.3	50.6	17.7	1.3	10.1

問１４【これまでに結婚したことのある方に】あなたは、配偶者からの暴力を、受けたことがありますか。（１つ選択）

配偶者からの暴力を、受けたことについては、「受けたことがある」の割合が 9.1%、「受けたことがない」の割合が 86.7%となっている。

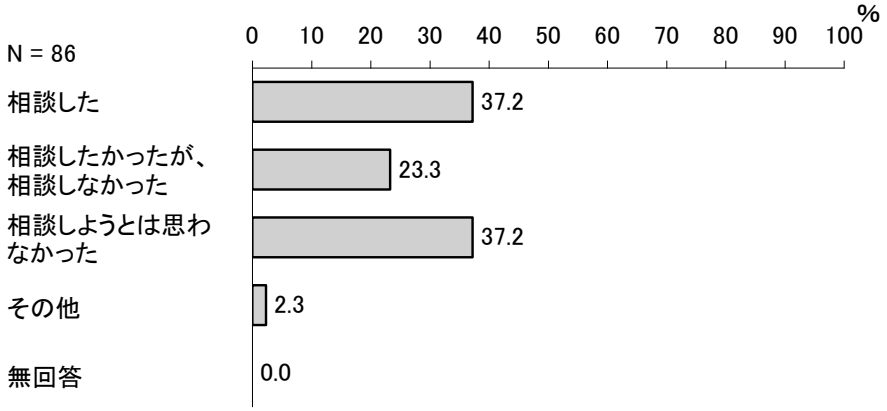
男女別でみると、女性に比べ男性で「受けたことがない」の人の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 20 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上で「受けたことがある」の割合が高くなっている。



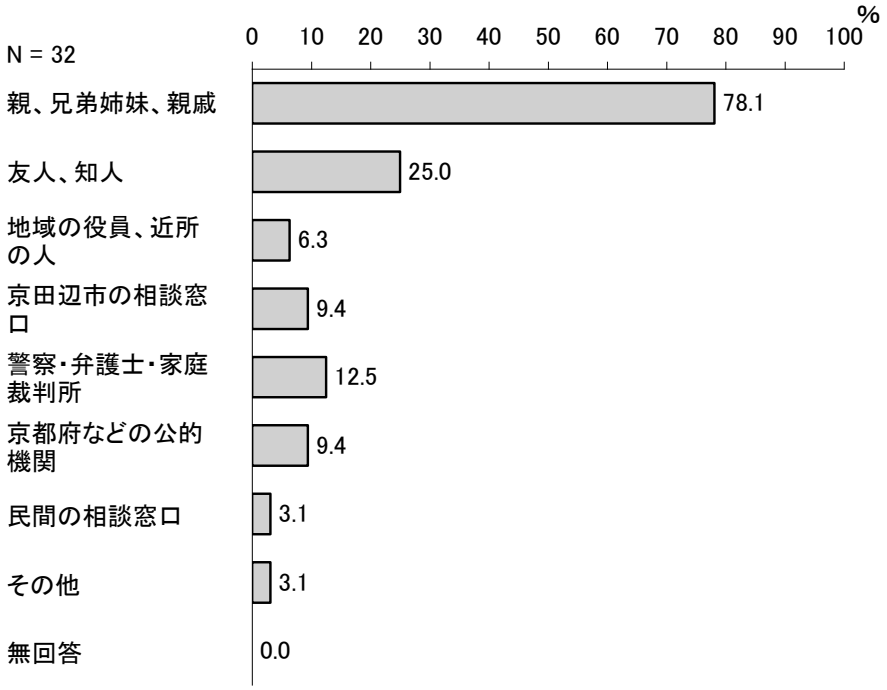
問１５【問１４で「１」を選択された方に】配偶者からの暴力を受けたとき、どこかに相談しましたか。（１つ選択）

配偶者からの暴力を受けたとき、どこかに相談したかについては、「相談した」、「相談しようとは思わなかった」の割合がともに 37.2%と最も高く、次いで「相談したかったが、相談しなかった」の割合が 23.3%となっている。



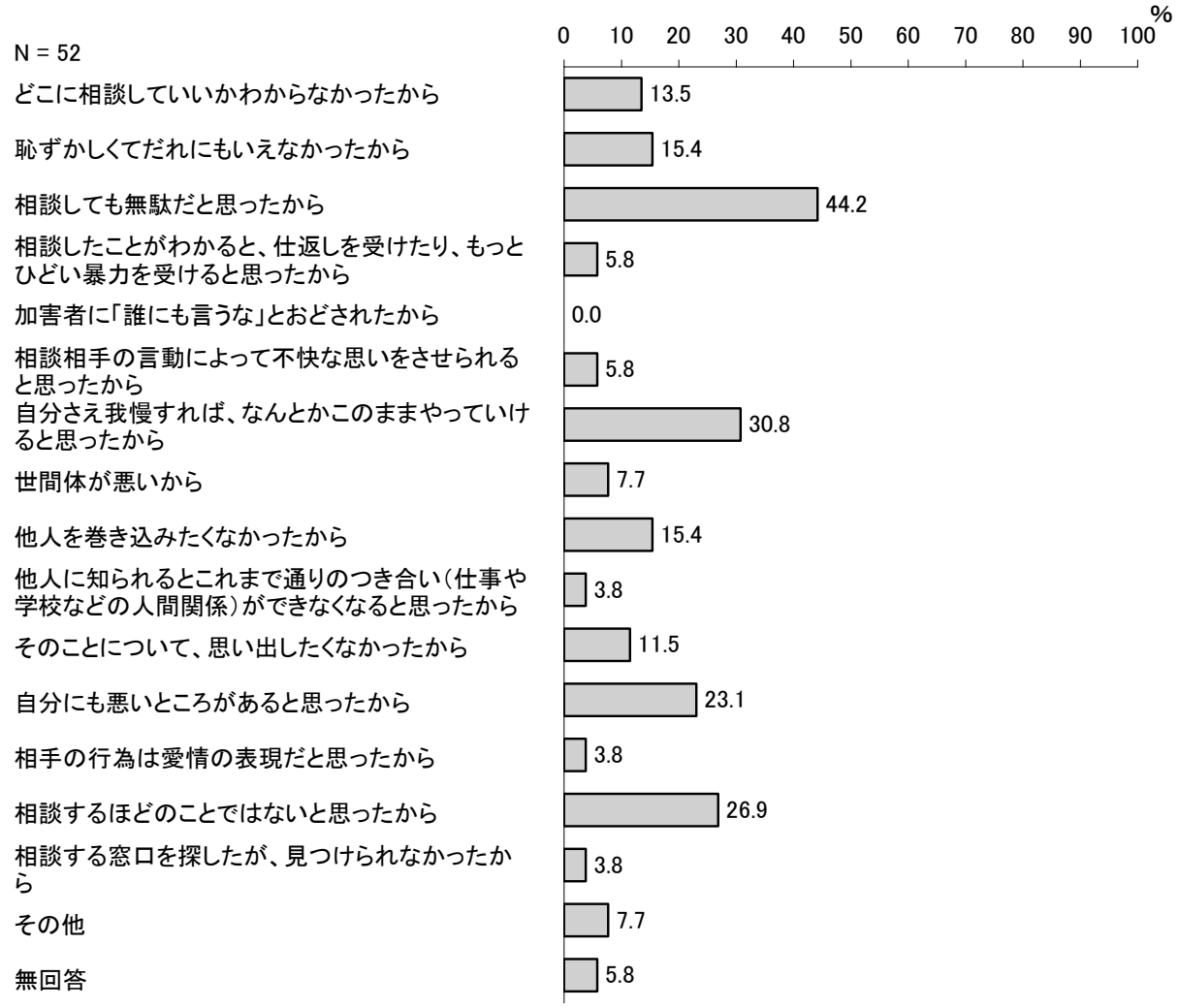
問１６【問１５で「相談した」を選択された方に】どこに相談しましたか。（あてはまるものをすべて選択）

どこに相談したかについては、「親、兄弟姉妹、親戚」の割合が 78.1%と最も高く、次いで「友人、知人」の割合が 25.0%、「警察・弁護士・家庭裁判所」の割合が 12.5%となっている。



問１７【問１５で「相談したかったが、相談しなかった」又は「相談しようとは思わなかった」を選択された方に】相談しなかった理由は何でしたか。（あてはまるものをすべて選択）

相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が 30.8%、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 26.9%となっている。



６　男女共同参画施策などについて

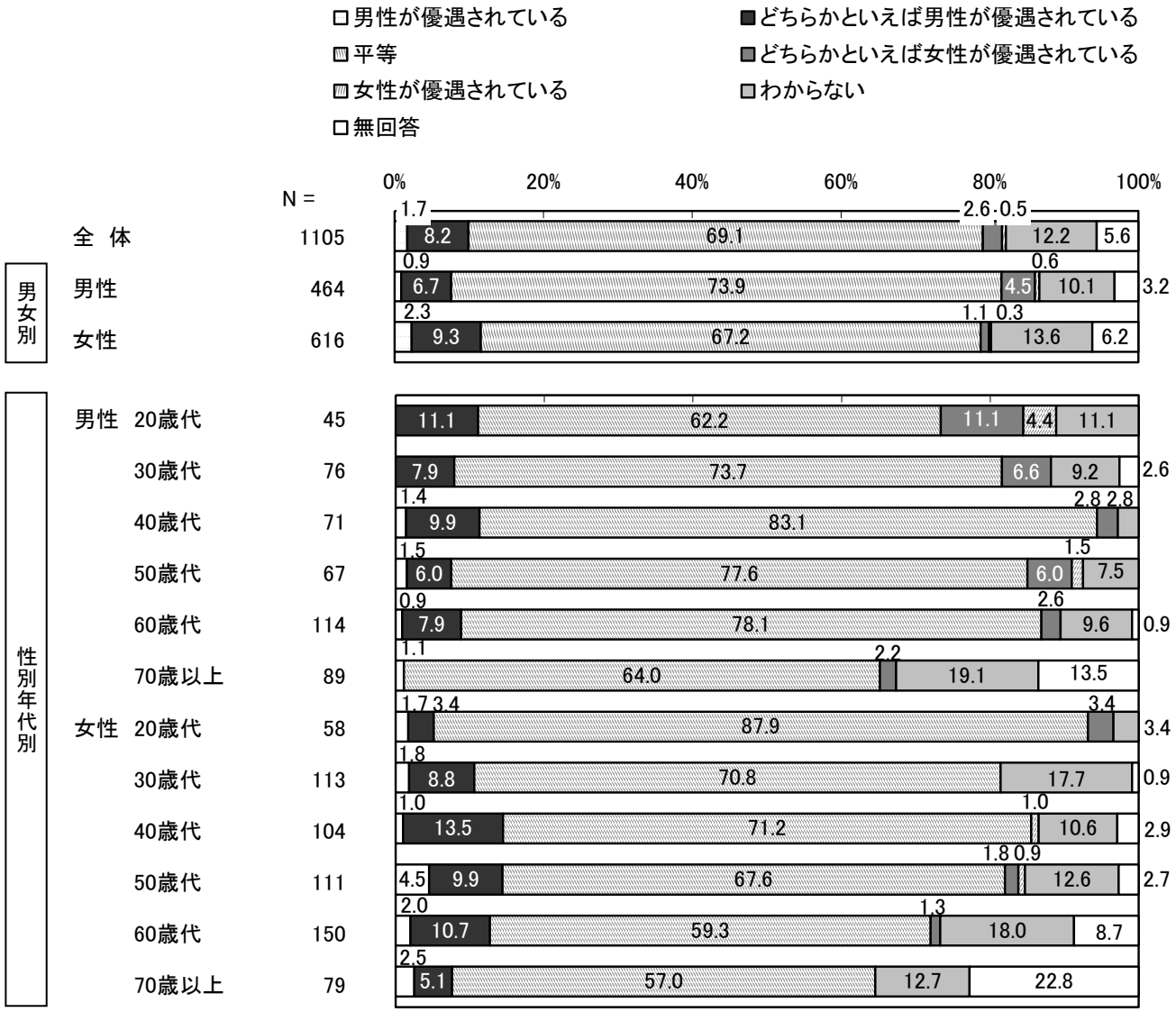
問１８【全員の方に】次の分野で男女が平等になっていると思われますか。（それぞれ１～６の数字を選択）

①学校教育

学校教育については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 9.9%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 3.1%となっている。

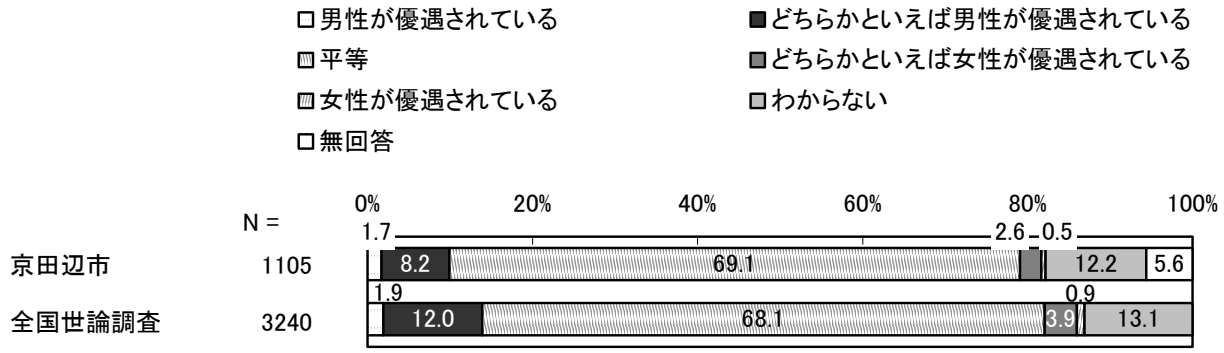
男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、大きな差異はみられない。



【全国世論調査との比較】

全国世論調査と比較すると、大きな差異はみられない。



※全国世論調査：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

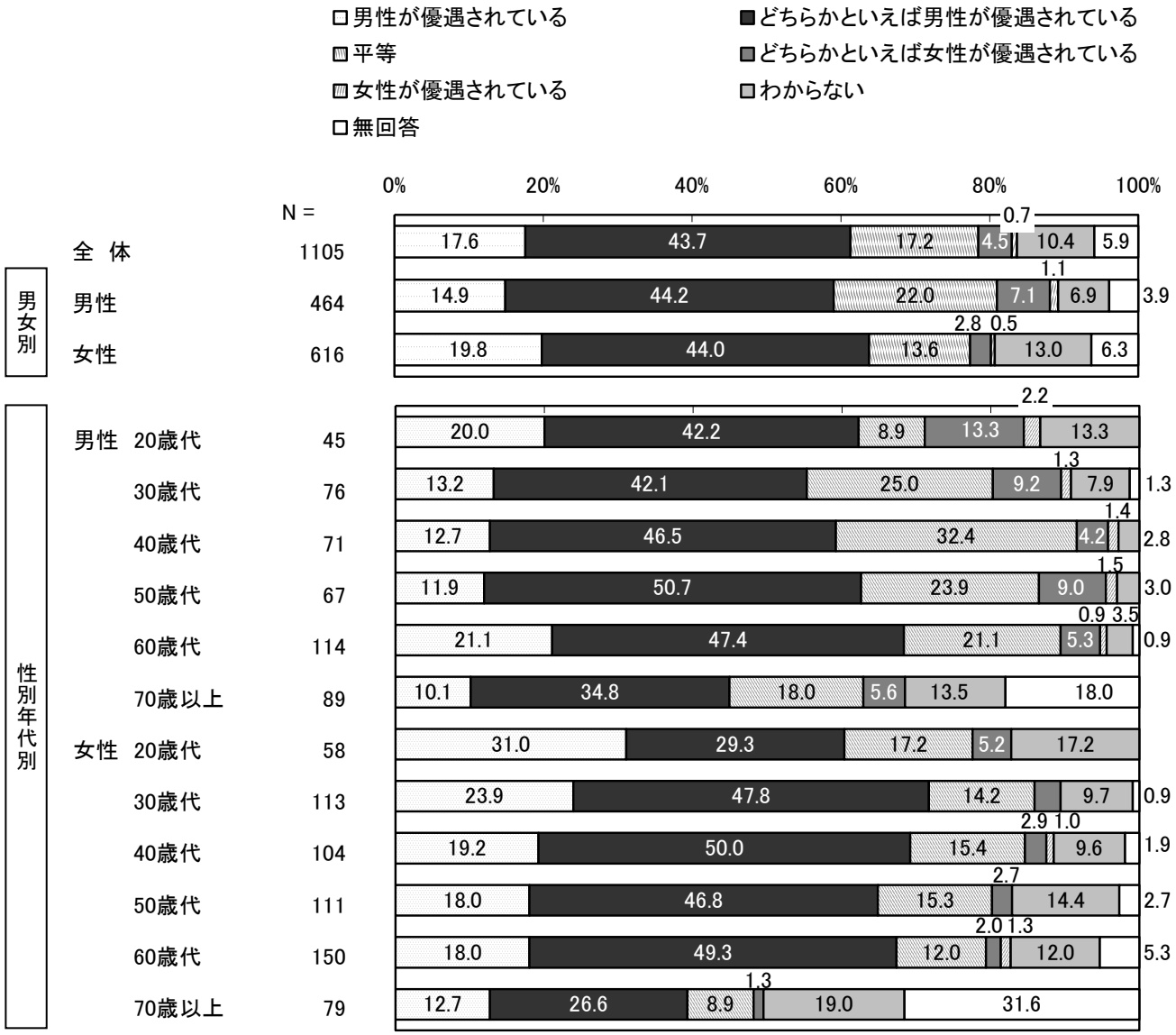
②職場

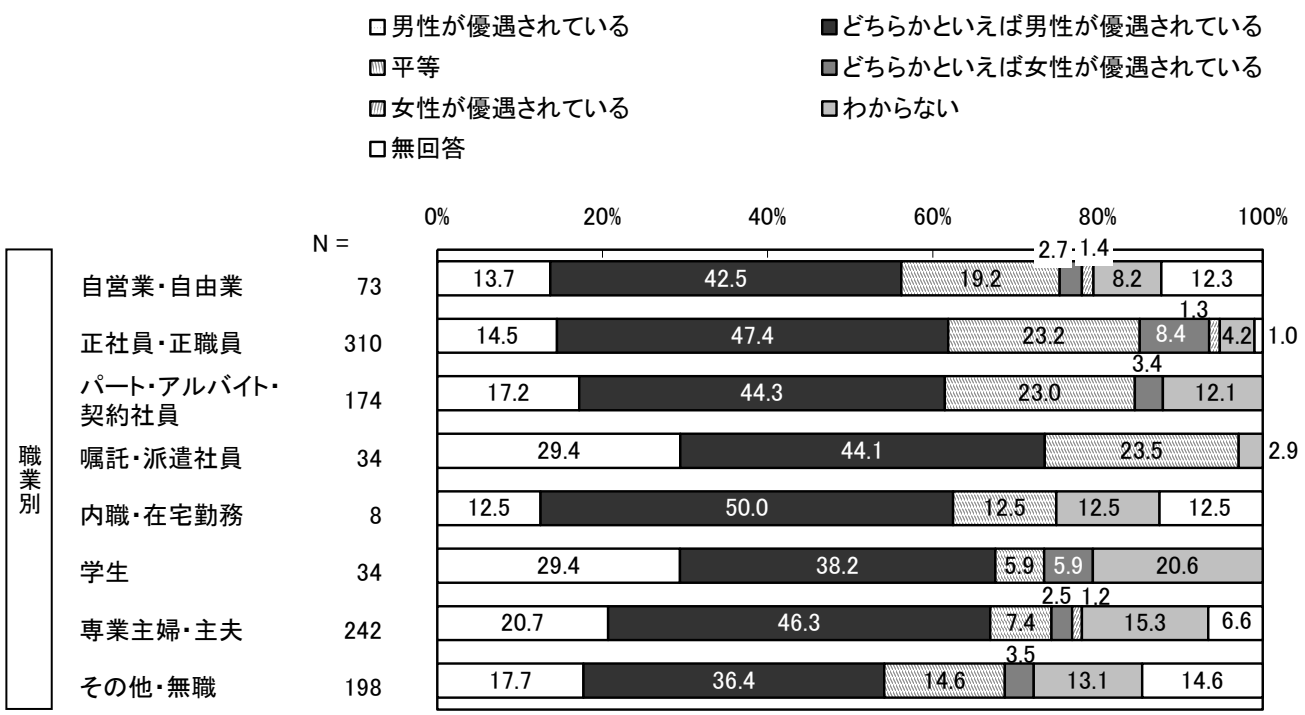
職場については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 61.3%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 5.2%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 60 歳代、女性の 30 歳代、40 歳代で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高く、約 7 割となっている。また、女性は年齢が低くなるにしたがい「男性が優遇されている」の割合が高くなっている。

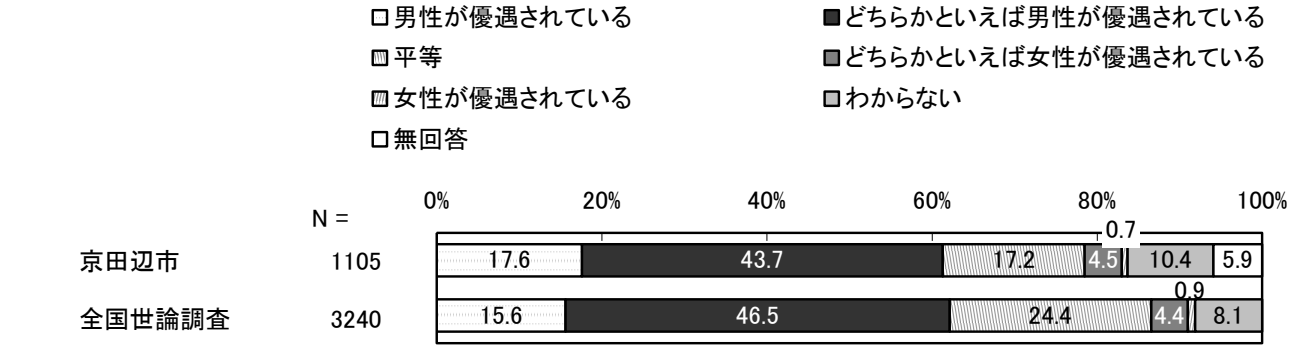
職業別でみると、他に比べ嘱託・派遣社員で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高く、約 7 割となっている。





【全国世論調査との比較】

全国世論調査と比較すると、「平等」の割合が 7.2 ポイント低くなっている。



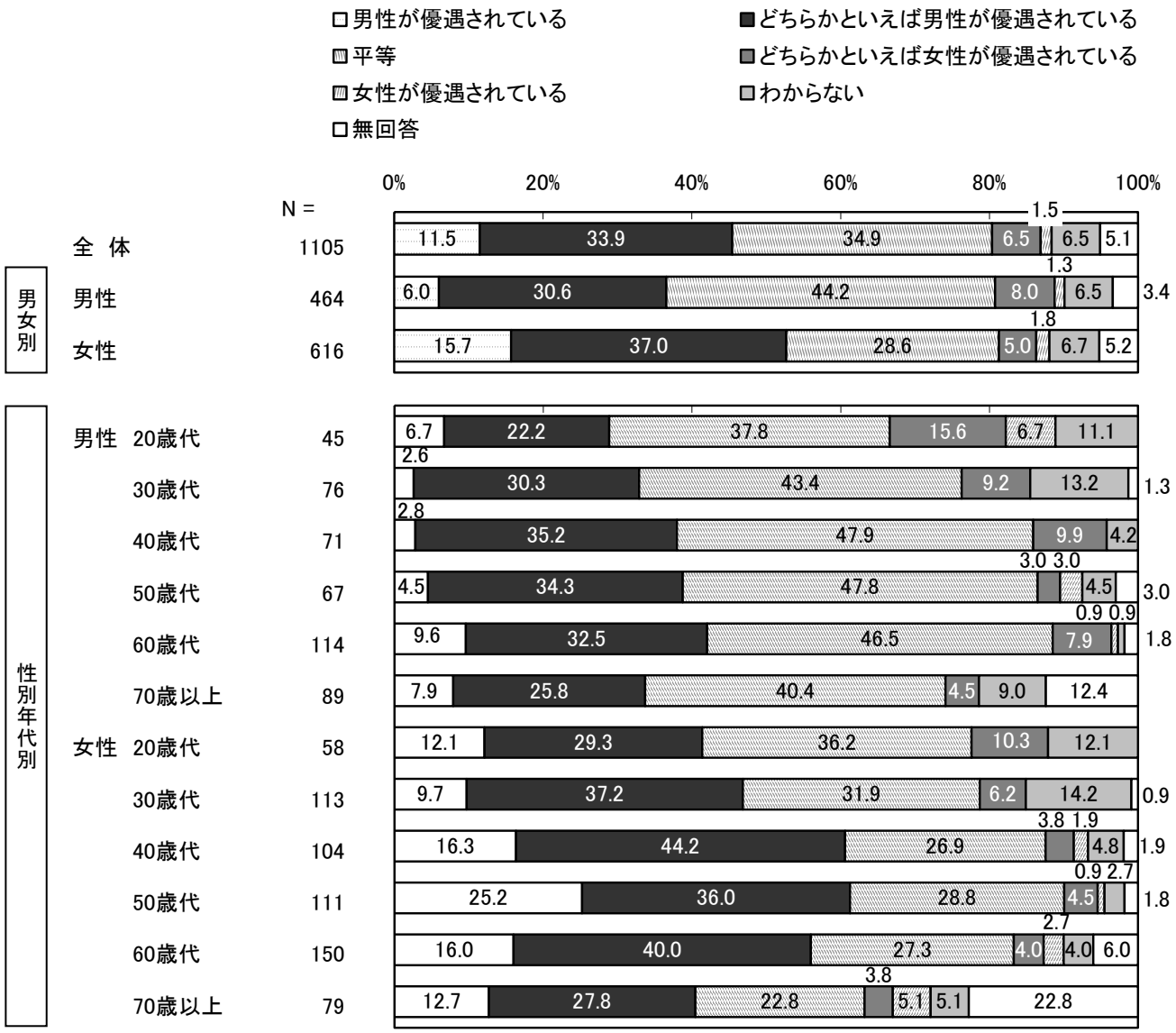
※全国（平成 21 年度）：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

③家庭生活

家庭生活については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 45.4%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 8.0%となっている。

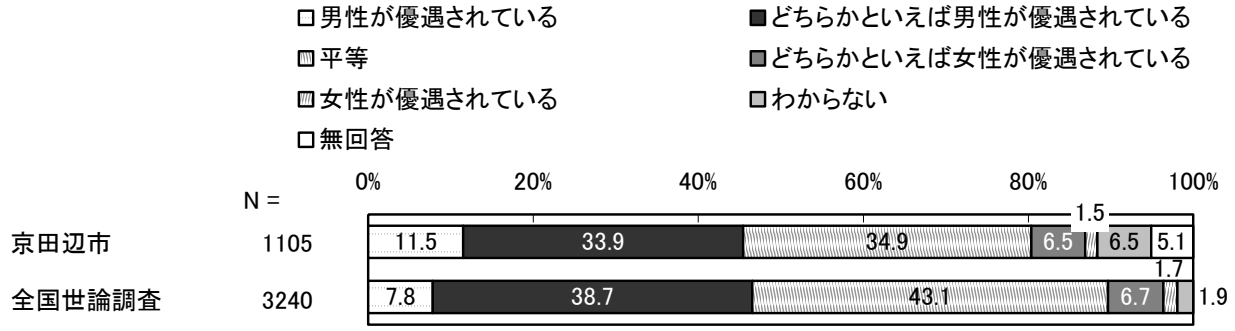
男女別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 40 歳代、50 歳代で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高く、約 6 割となっている。また、男性の 20 歳代で「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が高くなっている。



【全国世論調査との比較】

全国世論調査と比較すると、「平等」の割合が 8.2 ポイント低くなっている。



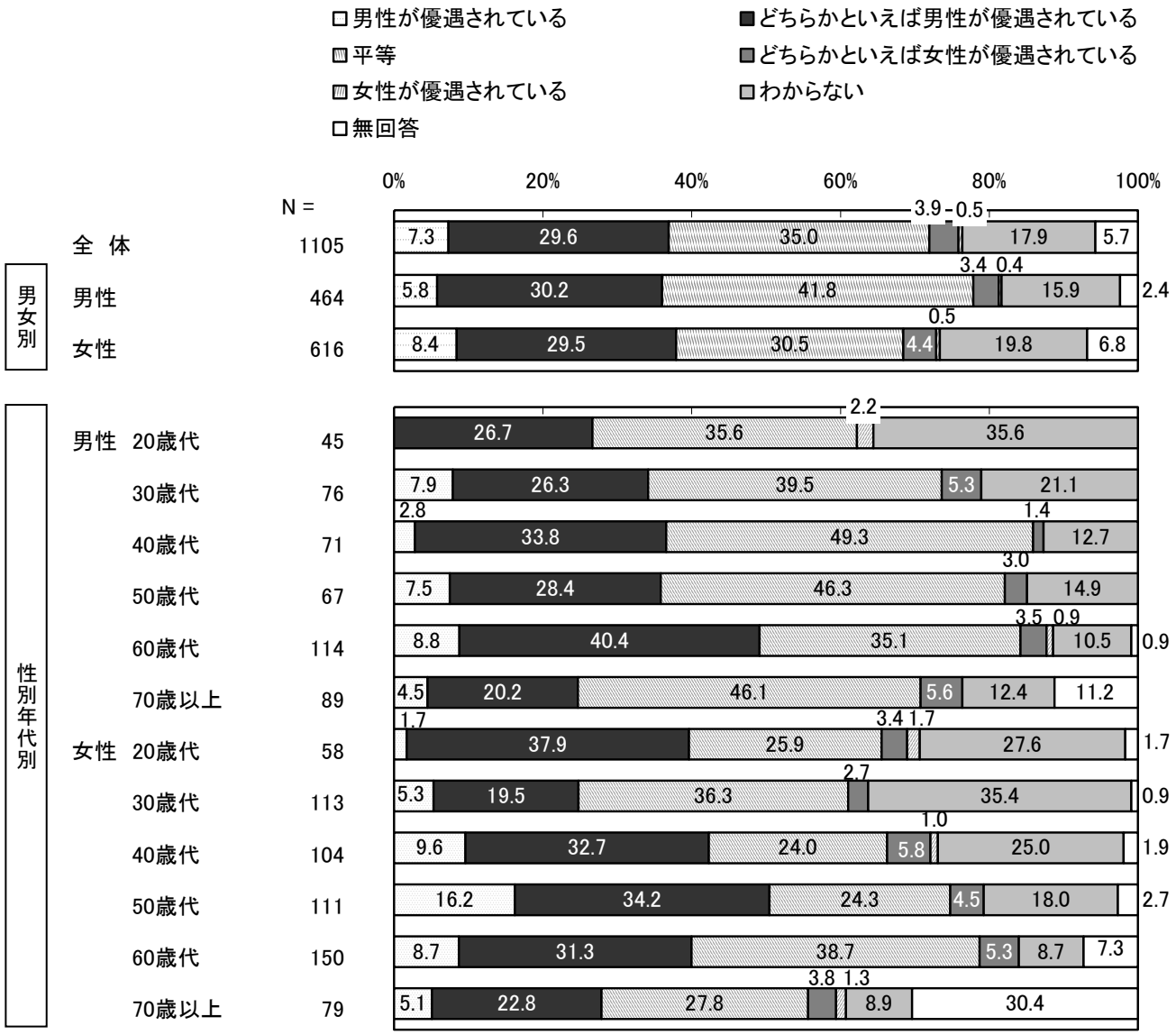
※全国（平成 21 年度）：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

④地域や区・自治会

地域や区・自治会については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 36.9%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 4.4%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 60 歳代、女性の 50 歳代で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高く、約 5 割となっている。また、女性の 50 歳代で「男性が優遇されている」の割合が高くなっている。さらに、男性の 40 歳代で「平等」の割合が高く、約 5 割となっている。

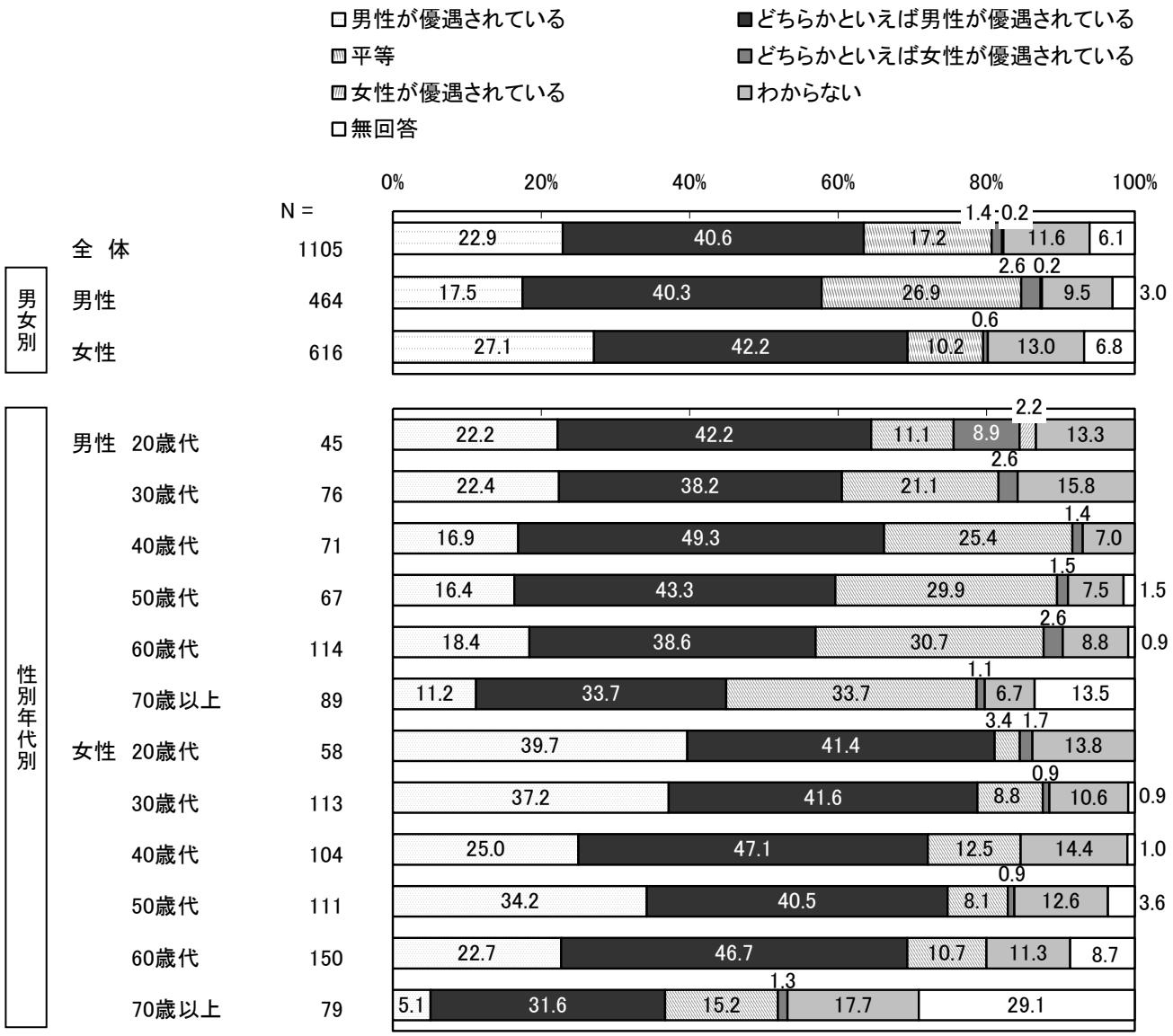


⑤政治や行政の政策・方針決定の場

政治や行政の政策・方針決定の場については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 63.5%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 1.6%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、男女ともに年齢が低くなるにしたがい「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高くなる傾向にある。また、男性の 50 歳代、60 歳代、70 歳以上で「平等」の割合が高くなっている。

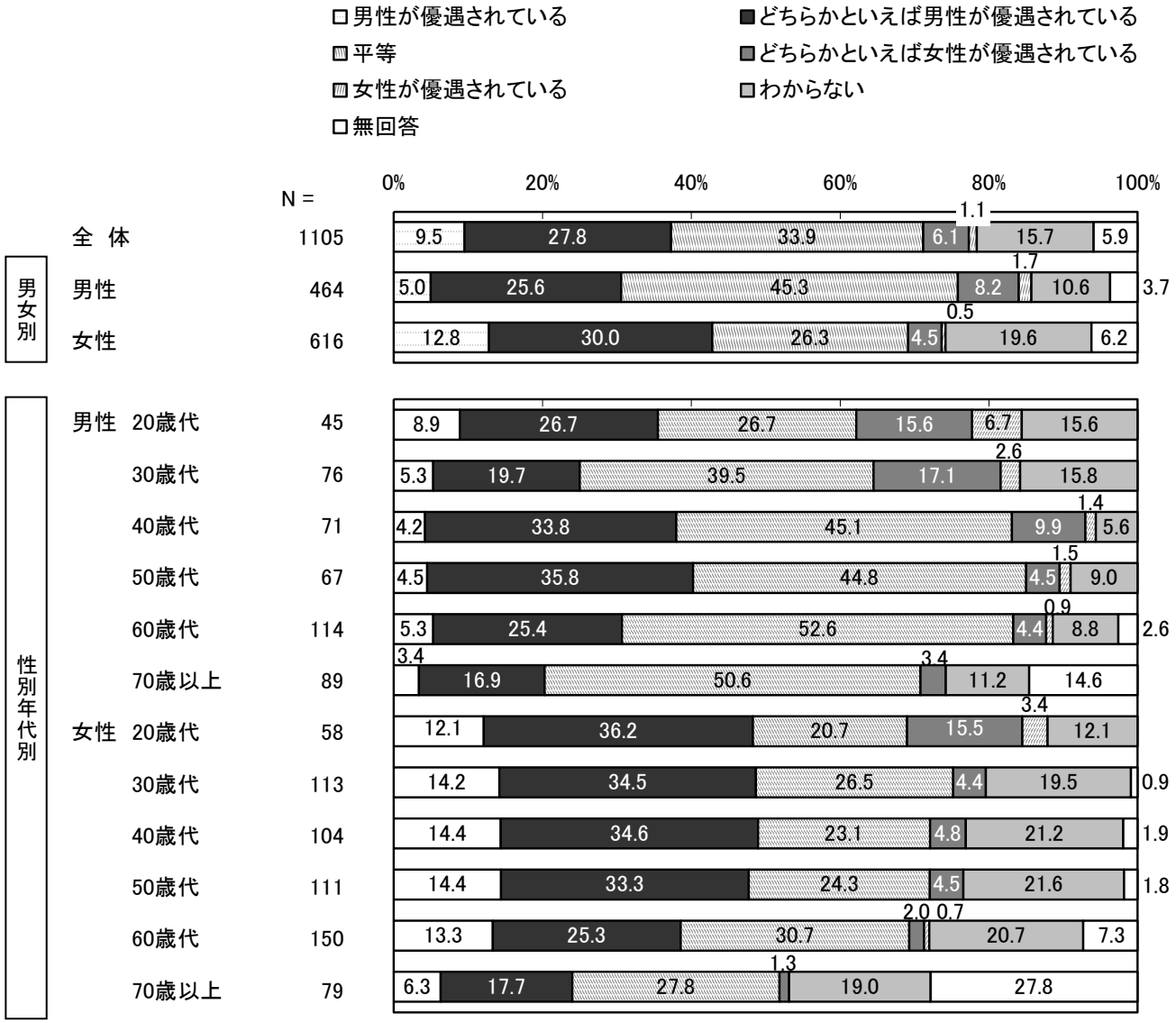


⑥法律・制度

法律・制度については、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 37.3%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 7.2%となっている。

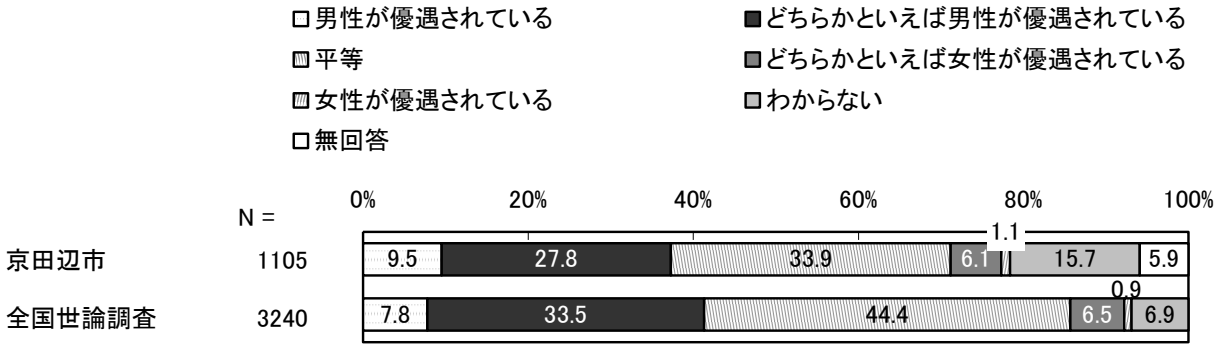
男女別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 20 歳代、30 歳代、40 歳代で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高く、約 5 割となっている。また、男性の 60 歳代、70 歳以上で「平等」の割合が高く、約 5 割となっている。



【全国世論調査との比較】

全国世論調査と比較すると、「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が 5.7 ポイント低くなっている。また、「平等」の割合が 10.5 ポイント低くなっている。



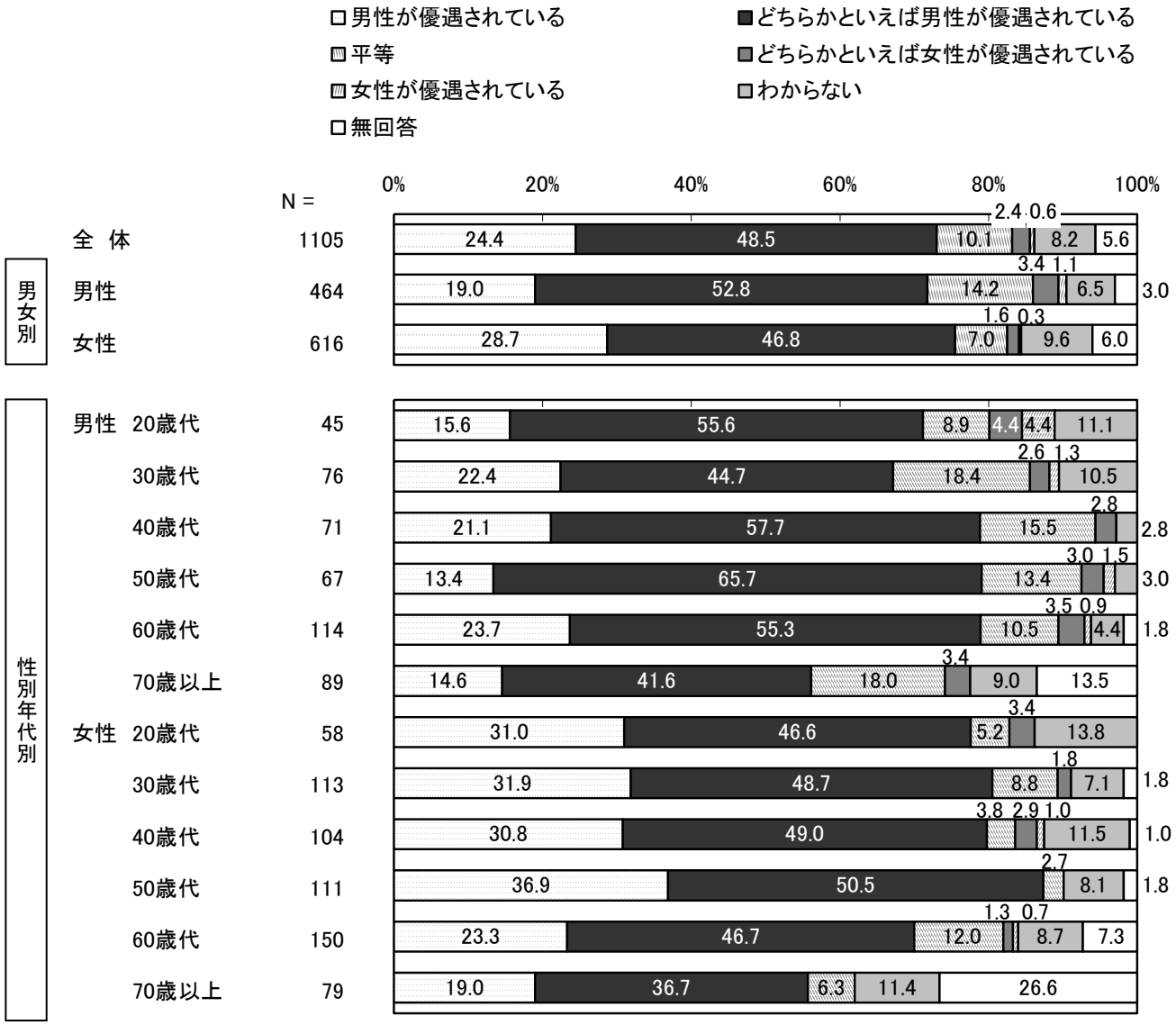
※全国（平成 21 年度）：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

⑦社会通念、慣習、しきたり

社会通念、慣習、しきたりについては、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が 72.9%となっている。また、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた女性優遇の割合が 3.0%となっている。

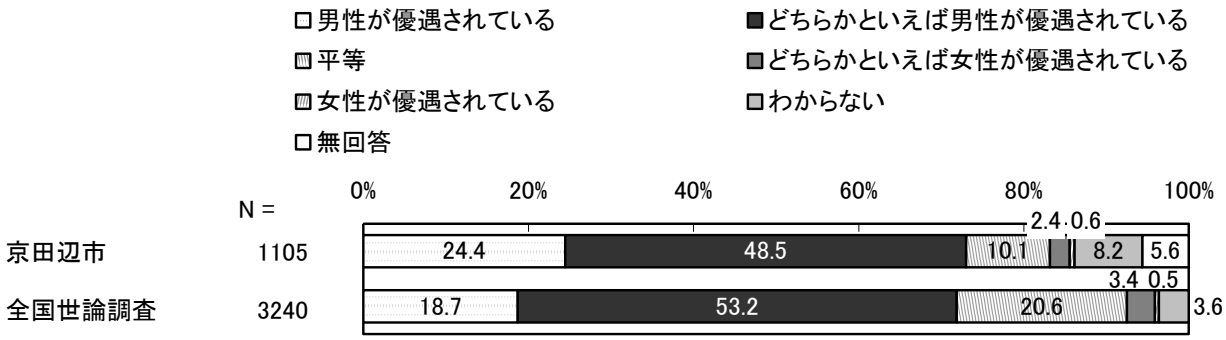
男女別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ男性の 40 歳代、50 歳代、60 歳代、女性の 30 歳代、40 歳代、50 歳代で「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた男性優遇の割合が高くなっている。



【全国世論調査との比較】

全国世論調査と比較すると、「男性が優遇されている」の割合が 5.7 ポイント高くなっている。また、「平等」の割合が 10.5 ポイント低くなっている。



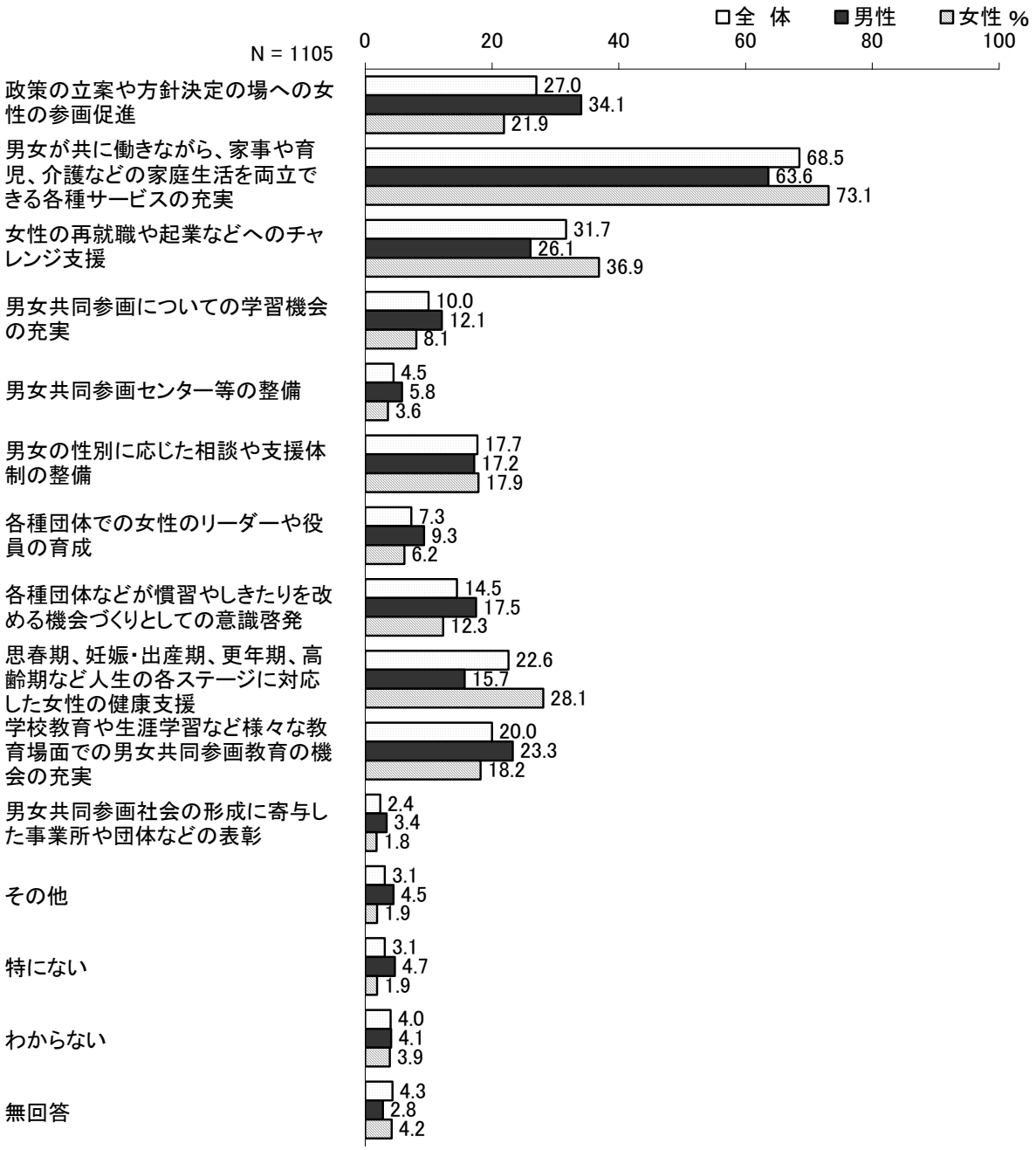
※全国（平成 21 年度）：内閣府　男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月調査）

問１９【全員の方に】男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことを優先的に進めるべきだと思われますか。（主なものを３つまで選択）

男女共同参画社会を形成していくため、今後、市が優先的に進めるべきだと思うことについては、「男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実」の割合が 68.5%と最も高く、次いで「女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援」の割合が 31.7%、「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」の割合が 27.0%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」、「各種団体などが慣習やしきたりを改める機会づくりとしての意識啓発」、「学校教育や生涯学習など様々な教育場面での男女共同参画教育の機会の充実」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実」、「女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援」、「思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期など人生の各ステージに対応した女性の健康支援」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 30 歳代で「男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実」の割合が高く、約 8 割となっている。また、男性の 20 歳代、女性の 20 歳代、30 歳代で「女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援」の割合が、男性の 60 歳代、70 歳以上で「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」の割合が高くなっている。


□全 体 ■男性 ▨女性 %
0
20
40
60
80
100
N = 1105
政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進
27.0
34.1
21.9
男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実
68.5
63.6
73.1
女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援
31.7
26.1
36.9
男女共同参画についての学習機会の充実
10.0
12.1
8.1
男女共同参画センター等の整備
4.5
5.8
3.6
男女の性別に応じた相談や支援体制の整備
17.7
17.2
17.9
各種団体での女性のリーダーや役員の育成
7.3
9.3
6.2
各種団体などが慣習やしきたりを改める機会づくりとしての意識啓発
14.5
17.5
12.3
思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期など人生の各ステージに対応した女性の健康支援
22.6
15.7
28.1
学校教育や生涯学習など様々な教育場面での男女共同参画教育の機会の充実
20.0
23.3
18.2
男女共同参画社会の形成に寄与した事業所や団体などの表彰
2.4
3.4
1.8
その他
3.1
4.5
1.9
特にない
3.1
4.7
1.9
わからない
4.0
4.1
3.9
無回答
4.3
2.8
4.2

単位：%

		有効回答数（件）	政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進	男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実	女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援	男女共同参画についての学習機会の充実	男女共同参画センター等の整備	男女の性別に応じた相談や支援体制の整備	各種団体での女性のリーダーや役員の育成
性別年代別	男性　20歳代	45	15.6	68.9	44.4	6.7	2.2	8.9	6.7
	30歳代	76	22.4	61.8	35.5	6.6	－	19.7	11.8
	40歳代	71	33.8	71.8	25.4	8.5	4.2	22.5	9.9
	50歳代	67	34.3	67.2	35.8	13.4	13.4	20.9	9.0
	60歳代	114	41.2	64.0	19.3	11.4	5.3	18.4	7.9
	70歳以上	89	43.8	51.7	11.2	22.5	9.0	11.2	10.1
	女性　20歳代	58	27.6	75.9	46.6	1.7	1.7	19.0	10.3
	30歳代	113	18.6	80.5	52.2	0.9	1.8	20.4	2.7
	40歳代	104	26.9	72.1	37.5	5.8	1.9	22.1	7.7
	50歳代	111	18.9	79.3	34.2	11.7	4.5	19.8	3.6
	60歳代	150	22.0	69.3	33.3	14.7	6.0	14.0	6.7
	70歳以上	79	20.3	59.5	16.5	8.9	3.8	12.7	8.9

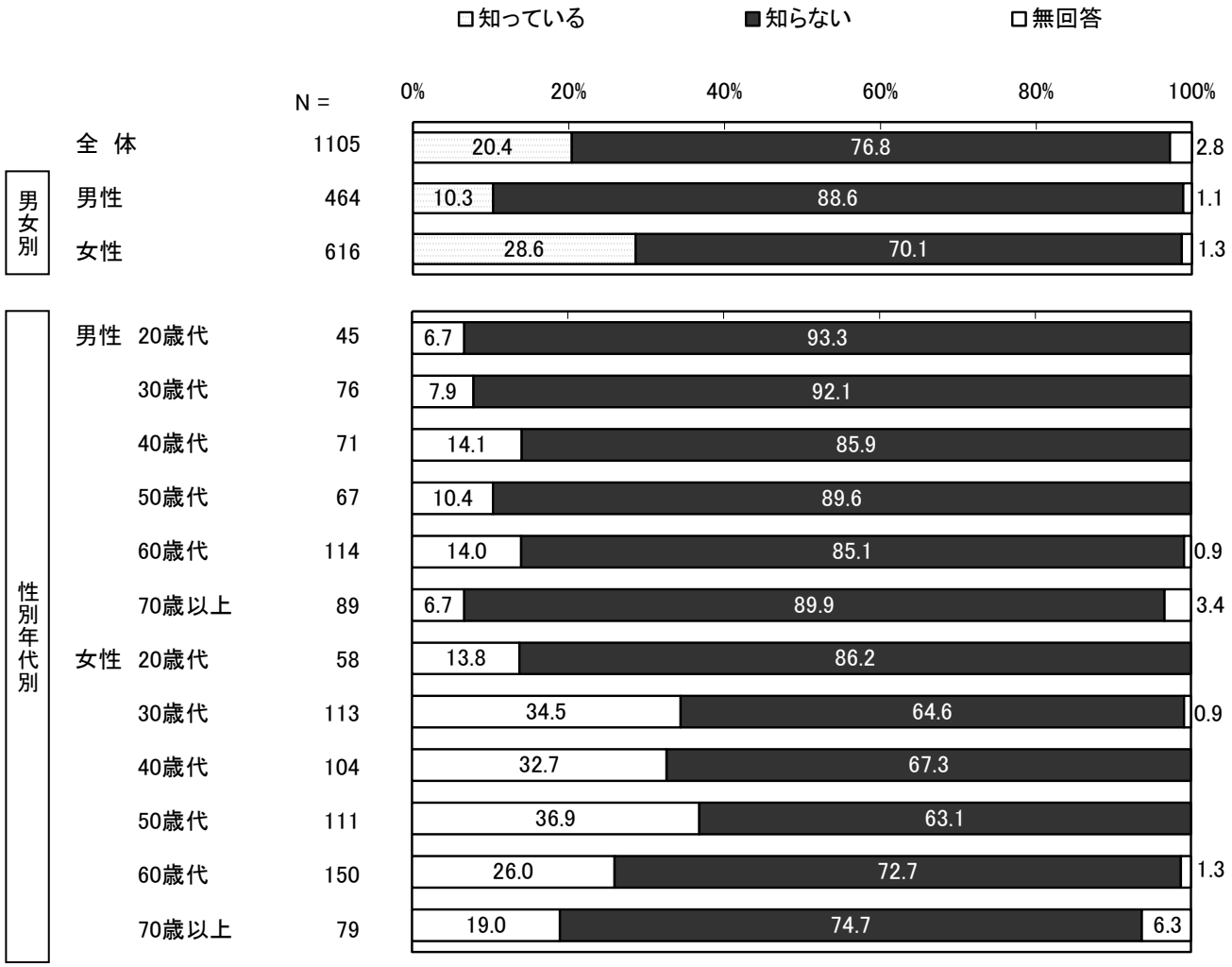
		各種団体などが慣習やしきたりを改める機会づくりとしての意識啓発	思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期など人生の各ステージに対応した女性の健康支援	学校教育や生涯学習など様々な教育場面での男女共同参画教育の機会の充実	男女共同参画社会の形成に寄与した事業所や団体などの表彰	その他	特にない	わからない	無回答
性別年代別	男性　20歳代	4.4	24.4	20.0	11.1	4.4	4.4	6.7	－
	30歳代	19.7	21.1	19.7	3.9	6.6	2.6	6.6	－
	40歳代	16.9	23.9	16.9	2.8	7.0	2.8	－	1.4
	50歳代	17.9	16.4	19.4	1.5	6.0	6.0	3.0	－
	60歳代	21.1	11.4	34.2	2.6	3.5	6.1	2.6	2.6
	70歳以上	16.9	5.6	21.3	2.2	1.1	5.6	6.7	10.1
	女性　20歳代	10.3	37.9	13.8	6.9	－	－	－	1.7
	30歳代	9.7	31.9	18.6	2.7	0.9	1.8	0.9	2.7
	40歳代	9.6	22.1	13.5	1.0	4.8	3.8	2.9	2.9
	50歳代	17.1	23.4	21.6	0.9	1.8	1.8	3.6	－
	60歳代	11.3	30.7	18.0	1.3	2.0	2.0	4.0	7.3
	70歳以上	16.5	24.1	22.8	－	1.3	1.3	12.7	10.1

問２０【全員の方に】京田辺市女性交流支援ルーム「ポケット」をご存じですか。（１つ選択）

京田辺市女性交流支援ルーム「ポケット」については、「知っている」の割合が 20.4%、「知らない」の割合が 76.8%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「知らない」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「知っている」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 30 歳代、40 歳代、50 歳代で「知っている」の割合が高くなっている。

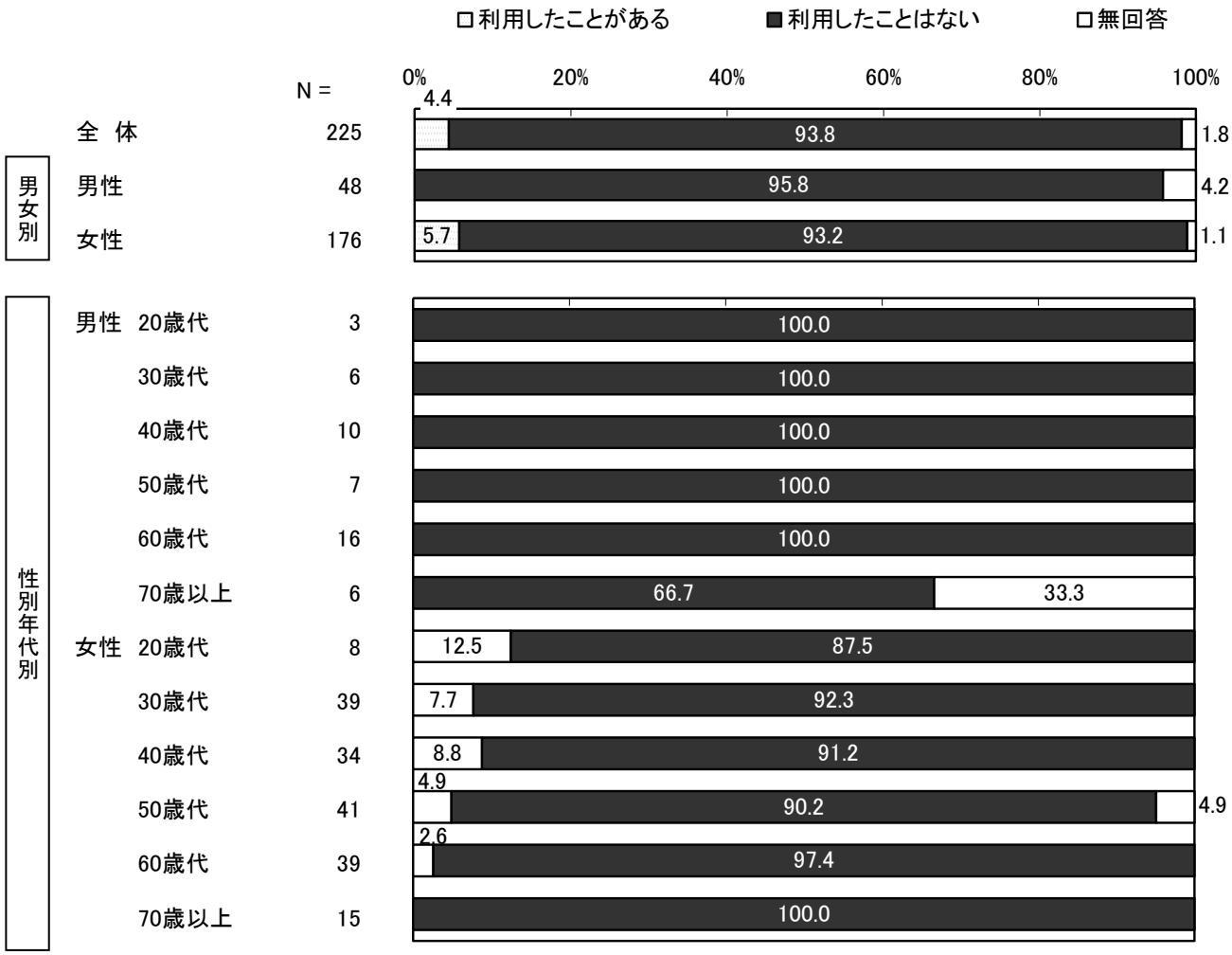


問２１【問２０で「知っている」を選択された方に】利用したことがありますか。（１つ選択）

京田辺市女性交流支援ルーム「ポケット」の利用については、「利用したことがある」の割合が 4.4%、「利用したことはない」の割合が 93.8%となっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

性別年代別でみると、女性は年齢が低くなるにしたがい「利用したことがある」の割合が高い傾向にある。

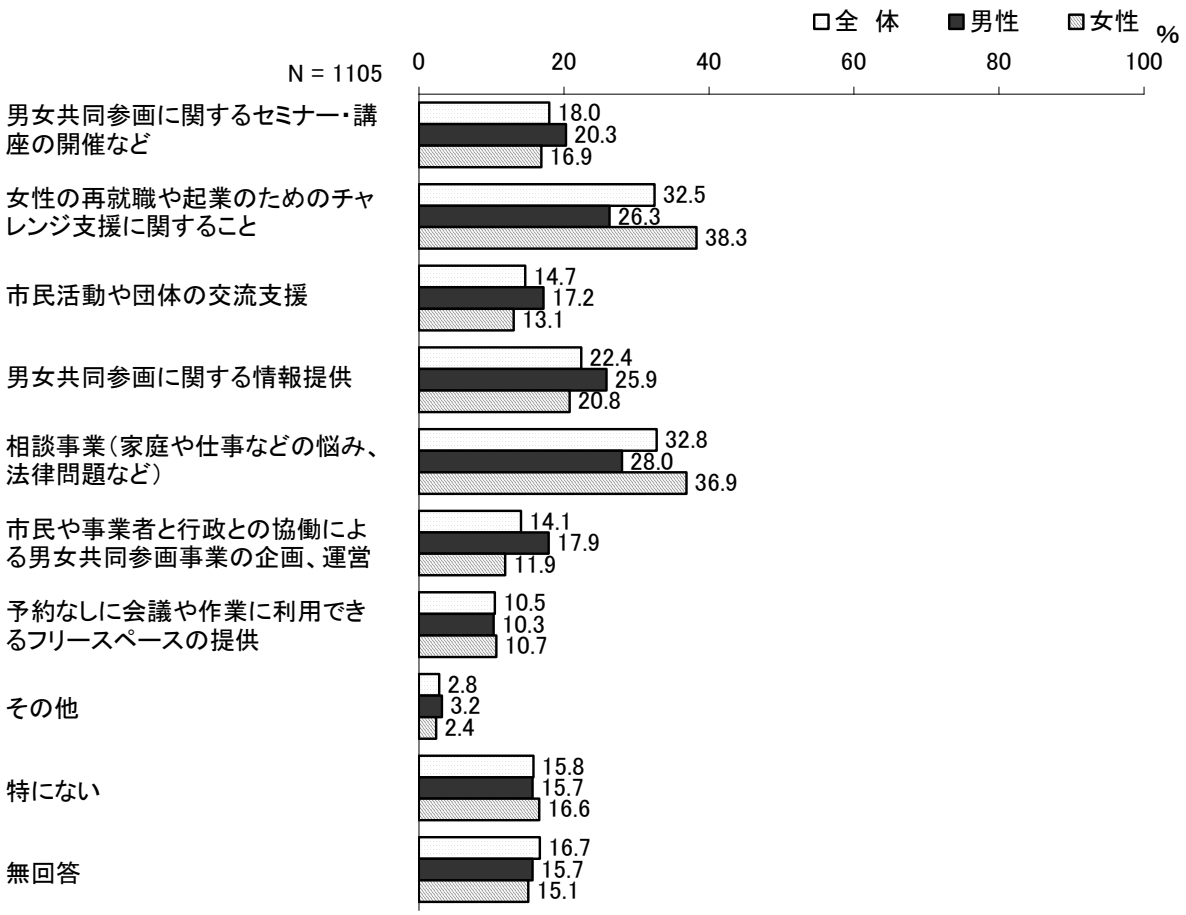


問２２【全員の方に】京田辺市女性交流支援ルーム「ポケット」での事業について、今後期待するものは、どのような事業ですか。（あてはまるものをすべて選択）

京田辺市女性交流支援ルーム「ポケット」での事業について、今後期待するものについては、「相談事業（家庭や仕事などの悩み、法律問題など)」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「女性の再就職や起業のためのチャレンジ支援に関すること」の割合が 32.5%、「男女共同参画に関する情報提供」の割合が 22.4%となっている。

男女別でみると、女性に比べ男性で「男女共同参画に関する情報提供」、「市民や事業者と行政との協働による男女共同参画事業の企画、運営」の割合が高くなっている。また、男性に比べ女性で「女性の再就職や起業のためのチャレンジ支援に関すること」、「相談事業（家庭や仕事などの悩み、法律問題など)」の割合が高くなっている。

性別年代別でみると、他に比べ女性の 20 歳代で「相談事業（家庭や仕事などの悩み、法律問題など)」の割合が高く、5 割を超えている。また、女性の 30 歳代、40 歳代で「女性の再就職や起業のためのチャレンジ支援に関すること」の割合が高く、約 5 割となっている。



単位：%

		有効回答数（件）	男女共同参画に関するセミナー・講座の開催など	女性の再就職や起業のためのチャレンジ支援に関すること	市民活動や団体の交流支援	男女共同参画に関する情報提供	相談事業（家庭や仕事などの悩み、法律問題など）	市民や事業者と行政との協働による男女共同参画事業の企画、運営	予約なしに会議や作業に利用できるフリースペースの提供	その他	特にない	無回答
性別年代別	男性　20歳代	45	13.3	35.6	11.1	8.9	28.9	8.9	13.3	4.4	20.0	11.1
	30歳代	76	17.1	39.5	9.2	18.4	31.6	13.2	18.4	2.6	17.1	7.9
	40歳代	71	12.7	23.9	15.5	26.8	32.4	12.7	7.0	4.2	18.3	14.1
	50歳代	67	20.9	29.9	10.4	29.9	28.4	20.9	11.9	1.5	14.9	13.4
	60歳代	114	21.9	21.1	25.4	29.8	28.9	28.9	7.9	4.4	15.8	14.0
	70歳以上	89	30.3	16.9	22.5	31.5	20.2	13.5	6.7	2.2	11.2	29.2
	女性　20歳代	58	6.9	53.4	19.0	19.0	56.9	10.3	3.4	3.4	5.2	3.4
	30歳代	113	10.6	51.3	14.2	11.5	43.4	8.0	13.3	3.5	14.2	9.7
	40歳代	104	20.2	52.9	10.6	26.9	37.5	15.4	17.3	1.9	17.3	11.5
	50歳代	111	18.9	30.6	12.6	20.7	37.8	9.0	11.7	1.8	23.4	13.5
	60歳代	150	20.0	28.7	15.3	22.0	29.3	14.0	10.7	2.7	17.3	16.0
	70歳以上	79	20.3	17.7	7.6	25.3	24.1	13.9	2.5	1.3	16.5	36.7

7　自由記述

京田辺市がめざす男女共同参画社会のイメージについて、アイデアがあれば、自由にご提案ください。また、この意識調査に関することや、京田辺市の男女共同参画施策に関するご意見・ご感想など自由にご記入ください。

市の男女共同参画に関する意見・感想等の自由記述について、多かった意見をまとめると、「男性が威張る必要もないし、女性も差別、差別と騒ぐ必要もない。差別と区別を明確にして進めていくことが必要」が 10 件と最も多く、「男女共同参画をこれからもがんばってほしい」、「男女共同参画に対する啓発・情報発信をもっとするべき」という意見が続いている。また、「子育て支援の充実で女性の就業を支援していくことが必要」、「具体的にどのような活動をしているのか分からない。広い範囲で分かりやすい情報提供が必要」といった女性の就労支援や情報提供の充実を求める声も多くみられた。

意見内容	件数
■男女共同参画について	
男性が威張る必要もないし、女性も差別、差別と騒ぐ必要もない。差別と区別を明確にして進めていくことが必要	10
男女共同参画をこれからもがんばってほしい。	8
男女共同参画に対する啓発・情報発信をもっとするべき。	5
セミナーや講座で、男女平等の理解をもっと深めれるようにするべき。	4
就職が男女平等でないことがあるので支援をしてほしい。	4
教育やボランティアなどを通じ男女共同参画意識の更なる向上を図ることが必要	3
女性は子どもを産み立派に育てることが仕事だと思うので､女性らしく生きることを喜ぶことが出来る社会であってほしい。	3
女性は十分に社会進出し、男女平等だと思う。	3
女性もやりがいをもって働ける支援が必要	3
家庭での十分な教育が男女共同参画にとても大事な役割をしている。	2
男女差別をなくすためには、国が法律などで固めてもらわない限り変わらない。	2
男女平等については、それぞれ考え方が違うので、難しい。	2
女性がもっと社会活動に参画できる機会や､リーダーを女性に移していく制度や組織を拡大するべき。	2
地域で女性同士のコミュニケーションは男性に比べて容易である。男性間では皆無に等しい。	2
■子育てについて	
子育て支援の充実で女性の就業を支援していくことが必要	12
保育園に入園できなく、仕事に復帰することができない。保育園を拡充してほしい。	5
子育てを終えたら、社会復帰できる制度を作ってほしい。	4
子どもが病気の時に預かってもらえる環境がないと、女性は仕事を続けていくことができない。	2
■アンケートについて	
アンケートをきっかけに、男女共同参画について理解を深めることができた。	4
このアンケートは必要ないと思う。	2
高齢者には必要ないアンケートなので、行なう必要がない。	2
アンケートの結果を期待している。	2
■行政について	
具体的にどのような活動をしているのか分からない。広い範囲で分かりやすい情報提供が必要	8
男女共同参画だけでなく、高齢福祉や地域福祉も考え、みんなが「生き生きと過ごせるまち」にしてほしい。	6
ポケットを知らなかった、もっとＰＲをしていくことが必要	4
市が改革を進めていく前向きな姿勢を感じる。期待している。	4
市役所が見本となって男女共同参画の働きを行なう必要がある。女性職員の割合など。	4
市職員の不正を正してほしい。	3
■その他	8
件数合計	123